

【2004年】

■5月(春)号 本誌 (472)

講演 小説の言葉・詩の言葉 ねじめ正一

第二十四回大阪文学学校賞発表

(小説部門) 受賞「笹舟の詩」小西九嶺

(詩部門) 受賞「眼の記憶」河上鴨

(エッセイ・評論・ノンフィクション部門) 受賞なし

[選評] 木辺弘児/高島寛/日高てる/長谷川龍生/奥野忠昭

詩【佳作】池田辰彦「うさぎおひし」/【奨励賞】高岡力「影の旗」

詩

コロンビア 苗村吉昭

青に向かって/順番/闇明けて/案の定/長生き 杉山平一

一九四五の砂浜の薔薇 日高てる

海の風から 季村敏夫

脚男(あしおとこ) 岩谷まり

小説

鳥群れ 佐久間慶子

織月記 佐々木国広

旅行記

パミールの白き嶺の向こうに 下田明美

小野十三郎詩集を読む。⑩【カヌーの速度で】 苗村吉昭/神尾和寿

二上の鞍から 54 環状列石—北海道・鷲ノ木 5 遺跡 日高てる

追悼 文校を支えたひと —— 追悼二人 日野範之

書評

高島寛『しなやかな闇』 岡保夫

木辺弘児『不機嫌の系譜』 細見和之

たなかよしゆき『葱とカサブランカ』 くまの勉

秀作の樹・個性の花

(詩)

面会者のカルテ さわだ澄

渦巻 石田民

魚の骨 森山郁子

木 阿曾都

大鹿の目 いちのせまりえ

いま、何時 芝野乃梨子

(小説)

台風がやって来た日 小林克博

溪谷 下平尾哲

泣き虫ママ かなやさちこ

下駄の音 小松みえこ

小説同人誌評 8 精神的種族保存のために 佐々木国広

詩同人誌評 10 長篇詩の可能性 細見和之

詩書評 33 言葉の力 冨上芳秀

■6月号 在校生作品特集号 (473)

詩

新天地 灰根子

歩いた日 はるのとおり

絵画 山田知恵子

ひとり遊び 高橋ゆかり

∞ — 無限大 — 井上朗子

ホームレス 福山てるよ

ぬるい水の中 花井隆二

エッセイ

万年筆 田中冬子

風を切って走った日 亀谷美子

最後の余談 山口春樹

未来の粒~私のおばあちゃん~ 高田靖子

小説

溢れでてくるモノ 杉本マレ

舞・ガール 南奈乃

玄冬 喜出夏代

たこたこ あーがれ 福本ゆり

逆立ち幽霊 竹井律生

編集後記 松浦多恵子

■7月号 通信教育部作品集 (474)

□研究科/小説2組

明日 またね 高松博子

坂の途中 二見ふう

きときとのあんちゃん 赤祖父厚子

□研究科/小説1組

胎内くぐり 水上ヤスコ

大嫌いは大好き 蓮岡汀子

□研究科/小説3組

私を超えて 橋田内代

□専科/小説2組

劫火 木下知青

妊娠 五味えり子

□専科/小説1組

豚の鳴き真似をするキャロル 柏葉龍治

光の雫 第四章 柊陽子

□本科/小説2組

春霖の夜 敷島みずほ

大丈夫、きっと、まだまだ、いける 水無月千秋

早春 池戸亮太

月夜 橋本郁子

□本科/小説1組

燔祭 橋屋仙

サンタクロース 松井孝典

保護室にて 吉馬晃

秋の夜長の大散歩 川原真琴

□本科/小説3組

ハーレーダビッドソン 田中たえ

市電通りの家 相田澄子

昭和点景・昭和十五年 山村みどり

雛に会う 森村喜久子

□研究科/詩とエッセイ

瑞龍寺再訪 青地久恵

ゆきあいの空 阿曾都

ある悲劇 現川尋香

攀じ登って来たゴンギツネ 坂野育子

おはぎ 高橋ゆかり

師走 ほしのしほ

空気の重量 畑章夫

シーラカンスのねむる陸 松井京子

健全吉田和香子

□専科/詩とエッセイ2組

なくなる世界 早田真由美

透明な休日 中村行伸

菜の花のからし和え 花八千代

一九四九年奄美大島へ(一) 水間敦隆

スナイパー 西森美智子

心の鏝 児玉桂子

動物診療室 大文字俊

春 武田美紀

異端の暮らし 山口春樹

□専科/詩とエッセイ1組

アジュール 三木もぢゅう

卒業 木谷登志子

途上にて 芝野乃梨子

笹舟 高嶋仁八

わたしをしぼるもの 乃木幸夫

なまえは 粟津真喜子

放浪の靴 福島寛子

母の思い出 浜崎泰子

偶成 多菊志津子

目で演技をする猫 片山扶久子

□本科/詩とエッセイ2組

焚き火 岸成子

草を、尾山景子

折鶴を飛ばして 福山てるよ

エッセイ Y・おかだ

明かり 中村瑞奈

近鉄沿線（一）／近鉄沿線（二） 中西淳子  
祭りの森 加納由将  
ラブレター よしみゆい  
わたしの楽しい時 こうのかなこ  
□本科／詩とエッセイ 1組  
考えてる途中 井上朗子  
四月一日 唯木ルミ子  
不安／沙汰 酒井かな子  
傘をどうぞ／エクススの伝言 米田誠一  
洗礼 花井隆二  
届けられない風への手紙／メリーゴーランド 山梨桂子  
白化粧／秋草 忍海貴子  
のどぼとけ 木坂裕子  
□講義録（3. 14 スクーリング） 貞久秀紀  
□「読書ノート」&「ノート」  
モーパッサン短篇選 秋田久美子／佐々木国広  
個人的な体験 紙森安也子／川上悦子  
悪童日記 中島裕子／高島寛  
歎異抄 斎藤わこ／日野範之

■ 8月（夏）号 本誌 （475）

特集1 若い作家たちの作品を読んで  
『蛇にピアス』生きようとする姿 小川内初枝  
『蹴りたい背中』群れない正常と非日常性 小西九嶺  
『蹴りたい背中』さびしさは鳴る 宮井京子  
『ハリガネムシ』を読む 中尾元六

特集2 創作・若い書き手たち  
共同墓地への道 吉村真理子  
公園 井上豊萌  
ミスター・ブルーカプチャーノの不安 小倉哲哉  
空き地 吉澤薫

第二十四回 大阪文学学校賞 エッセイ・評論・ノンフィクション部門 佳作  
私の選択 大工美与

小野十三郎詩集を読む 11【いまいるところ】 渡辺玄英／松尾真由美

秀作の樹・個性の花  
〈詩〉  
白い 大刀太郎  
〈エッセイ〉  
はらぺこ青虫 萩森勝  
〈小説〉  
信子の夏 船越恒子  
湯貰い猫 松江奏葉  
デコラシオン 岩佐美枝  
したたる想い 北村佳昭

二上の鞍から 55 天山文庫と草野心平 日高てる

小説同人誌評 9 名文とは何か 佐々木国広  
詩同人誌評 11 コモン・センスの必要性 細見和之  
詩書評 34 全詩集を読むことの幸せ 富上芳秀

■ 9月号 通信教育部作品集 （476）

□研究科／小説 1組  
最後の対話 中村彰良  
米を踏む 松岡享三  
□研究科／小説 3組  
双子 愛須咲子  
マネー オブ ライフ 山本日出子  
□研究科／小説 2組  
辻褄が合わない 池館敏子  
□専科／小説 1組  
おこられっ子 植田智子  
そら豆 猿渡由美子  
慎悟の夢 斎藤わこ  
彼女が見つめる先には 阿満啓子  
□専科／小説 2組  
暮灯 中村国雄

平吉の連れ 細江侃美  
□本科／小説 1組  
最終章 荒井登喜子  
鍵 美月麻几  
彼の、左手 中西あきら  
□本科／小説 3組  
帰郷 みなみ透佳  
手紙 飯森弓麻  
連作 いくさと人間 羽賀たかし  
漂流 一閃淑乃  
□本科／小説 2組  
死と蛇 玉城明子  
にゃあ 敷島みずほ  
緒 荒谷祐子  
□研究科／詩とエッセイ  
川湯温泉へ 青地久恵  
千手観音 深海游  
スーパーボール 高田靖子  
最後の絵 塚崎岐保子  
風 山田にしこ  
今思うこと 中村孝子

□専科／詩とエッセイ 1組  
時を刻む 高嶋仁八  
朝礼 乃木幸夫  
紺色の水着 いちのせまりえ  
ある輪廻転生 恵貞子  
パート 小暮美加子  
阿波の四季 浜崎泰子  
舌を出す猫 片山福子  
□専科／詩とエッセイ 2組  
めいろであそぼう 早田真由美  
沈黙の向こう側 中村行伸  
一九四九年奄美大島へ（二） 水間敦隆

子守歌 花八千代  
迷路の周辺 やまもとゆか  
あんな子 武田美紀  
ことばあそび その3 キンカクモンガク 大文字俊  
父の餞別 山口春樹  
□本科／詩とエッセイ 1組  
くちびるがなかったら 木坂裕子  
おばちゃん／落ちる女 酒井かな子  
鳩と人間 加部明子  
ラ・アルヘンチーナ 花井隆二  
Go home 唯木ルミ子  
日記 井上朗子  
花鳥風月（イエローストーンナショナルパーク）／天使のいたずら 山梨桂子  
現在の手本は 忍海貴子  
青麦畑／波紋のように 米田誠一  
□本科／詩とエッセイ 2組  
夢にでた脂肪／酔狂 Y・おかだ  
古井戸の聲 岸成子  
布切れ草 尾山景子  
犬と桜 中西淳子  
お母さん 中村瑞奈  
刊行する 加納由将  
天使のポート よしみゆい  
気づいて こうのかなこ  
地震の後に 福山てるよ

■ 10月号 入学案内書 （477）

詩 夜をこぐ 吉田和香子  
掌編 背中 喜多増／記憶の中で いこまみちお  
短編 小梅のなみだ 谷村優子  
在校生の声 小林みさき／新里信子／中村聡宏／稲垣洋美／三輪雄一／田井夏紀／荒井登喜子／岩佐美枝／水無月千秋／河野可奈子  
学生委員会の活動 古藤直典

■ 11月（秋）号 本誌 （478）

第6回小野十三郎賞 発表  
【受賞】詩集・渋谷卓男『朝鮮鮎』  
選評・荒川洋治／金時鐘／倉橋健一／辻井喬  
第6回小野賞 一次予備選考通過『詩集』『詩評論書』

特集 大阪文学学校五〇年からの展望  
座談会  
大阪文学学校五〇年と戦後の文学理念 金時鐘／倉橋健一／葉山郁生  
どこから来て、今どこにいるか？ 池田浩士／日野範之／葉山郁生  
インタビュー  
いま、チューターとして思うこと 石村和彦／佐久間慶子／長尾久  
エッセイ  
ひらいた花 杉山平一  
文学は、ときに人生より大きくていいのではないか 音谷健郎

詩  
子供の聞く歌 野口豊子  
テーブル・クロスは白いまま 三井葉子  
何処へも 清水直昭

小説  
月の虫 平野千景

特別講座 私にとって詩とは何か—書法と逸脱をめぐって 小池昌代＋山田兼士

二上の鞍から 56 新国立国際美術館オープン 日高てる

小野十三郎詩集を読む。12【冥王星で】 田原／宇佐美孝二

書評  
山田兼士『小野十三郎論—詩と詩論の対話』 岩成達也  
木下正実『アセボ峠』 木辺弘児  
野沢霞『マリンプルー』 飯塚輝一  
加納由将『体内の森』 山田兼士  
河上政也『美術館へ行こう』 山村由紀

秀作の樹・個性の花  
(詩)  
記憶の街 水間敦隆  
(エッセイ)  
セリニャンにて 山口春樹  
(小説)  
妹の結婚 坂井智一  
夢の精 里見義貞

小説同人誌評 10 異化はどこまで 佐々木国広  
詩同人誌評 12 壊れてゆく世界のなかで 細見和之  
詩書評 35 言葉の生命性 富上芳秀

■ 12月号 在校生作品特集号 (479)

詩  
冬のおおぞら 小嶋美子  
泳ぐ天使 高田靖子  
吊り革 米田誠一

エッセイ  
木の根橋 小林忍  
怒ってません 芝野乃梨子

小説  
神聖売買 白崎透  
夢の中で世界が始まる 大城英仁  
二番目の森、三番目の海 稲葉祥子  
水ようかん譚 瀬戸みゆう

表紙のことば 大城英仁  
編集後記 灰根子

【2005年】

■ 1月号 通信教育部作品集 (480)

□研究科／小説3組  
時の流れ 桐村緋佐子  
紀の川偽心中 斯波たかお

□研究科／小説2組  
蝙蝠 久保訓子  
□研究科／小説1組  
傘 平井利果  
溢れる水の小さな決意 猿渡由美子  
□専科／小説2組  
台風十七号 千都斗久  
風鈴の鳴る家 水田博子  
□専科／小説1組  
歲月 宮本和子  
坂上登太郎さんのこと 翔明子  
□本科／小説3組  
破音 早坂貞子  
母の涙 一閃淑乃  
別離 関根晴子  
病める人たち 渡辺恵美  
郷愁 田中峯子  
木洩れ陽探し 相田澄子  
□本科／小説2組  
鏡 吉田華代  
夏に来た人 宮越義信  
鬼の種 片桐僚子  
亡き人を偲ぶ 琳井七海  
□本科／小説1組  
おこぜ 谷辺範夫  
地球の未来を信じたい 細見牧代  
同伴出勤 石原卓  
トラップ! 内山佐智子  
□研究科／詩とエッセイ  
終わっていく テジヤ  
シャンソンを歌う猫 片山福子  
失敬な朝 萩美智子  
死んだらどうなるの 坂野育子  
ねこじゃらし 高橋ゆかり  
新緑の上高地での医学部クラス会 久崎掬子  
さんま 芳川純子  
□専科／詩とエッセイ2組  
変形 中島和弘  
母と私 福山てるよ  
イン・ザ・プール 早田真由美  
旋盤工(一) 水間敦隆  
こころ 拝郷智美  
立ち話 やまもとゆか  
THE MICK 大文字俊  
□専科／詩とエッセイ1組  
アキラかあ 深海游  
問答集 三木もちゅう  
兎と亀 高嶋仁八  
作業服を洗う女 乃木幸夫  
ふりむく 粟津真喜子  
サマースクール 芝野乃梨子  
わたしの中の小さな私 恵貞子  
読む 多菊志津子  
□本科／詩とエッセイ2組  
願い 松岸成子  
各駅停車／近鉄特急 中西淳子  
夕暮れ草 尾山景子  
地虫 中村国雄  
ルーティンな朝をいやだというわけではありません Y・おかだ  
レモンの満月 よしみゆい  
名のない詩人 市川一栄  
青鷲 北川順子  
過去 加納由将  
F l i g h t こうのかなこ  
まわり道 林美佐子  
奈良のお水取り 坂本久刀  
田舎からの便り 加藤節子  
□本科／詩とエッセイ1組  
厄日／風花 忍海貴子  
雨の朝に 木村暢  
風 加部明子  
大通りにて／くちびるがなかったら 木坂裕子  
金木犀の木のうで 酒井かな子  
夏の犬 米田誠一  
秋の長雨 鈴木安夫

白南風の通り道／アメリカ帰り 漆畑結音

矛盾 花井隆二

復学 三分ノ一

ああ、ヨン様。 あまのきりん

「磨く」ということ／「老人力」をリバイバルしよう 西川淑子

□「読書ノート」&「ノート」

歎異抄 田中たえ／日野範之

火垂るの墓 松岡享三／佐々木国広

個人的な体験 志水恵津子／川上悦子

おくのほそ道 沖田明彦／辻久

## ■2月(冬)号 本誌 (481)

第6回小野十三郎賞受賞作品+インタビュー

受賞詩集

渋谷卓男詩集『朝鮮鮒』(抄)

インタビュー

遺品としての言葉・の【受賞者聞き口月

最終候補詩集(抄)

神尾和寿『七福神通り——歴史上の人物』／北川朱実『人のかたち 鳥

のかたち』／山田隆昭『座敷牢』／ばくきょんみ『そのコ』／杉本真

維子『点火期』

記念講演

今、現代詩に問われているもの ——小野十三郎賞の六年を振り返って 辻井喬

アンケート「小野十三郎と私」

四〇〇字エッセイ

阿毛久芳／細見和之／村岡眞澄／木澤豊／日野範之／たなかよしゆき

／貞久秀紀／山田兼士／高田文月／大西隆志／辻景／寺田操／富

上芳秀／高橋秀明／川上明日夫／八重洋一郎／たかとう匡子／松本

衆司／岡保夫／高谷和幸／丹田亮子／高階紀一／萩原健次郎／苗村

吉昭／神尾和寿／松尾真由美／田原／宇佐美孝二

特集 現代詩の27人

詩

細見和之／村岡眞澄／平居謙／木澤豊／たなかよしゆき／貞久秀紀

／高田文月／大西隆志／辻景／寺田操／富上芳秀／高橋秀明／八重

洋一郎／たかとう匡子／松本衆司／寺西幹仁／高谷和幸／丹田亮子

／高階紀一／萩原健次郎／菱木紅／苗村吉昭／神尾和寿／渡辺玄英

／松尾真由美／田原／宇佐美孝二

評論

小野十三郎の初期詩集におけるエディプスの構造 米田誠一

二上の鞍から 57 教え魔の気風を受け継ぎ 日高てる

書評

杉山平一詩集『青をめざして』 山田兼士

池田辰彦詩集『楢の六月』 細見和之

「現代詩人文庫」高階紀一詩集 阿瀧康

田原詩集『そうして岸が誕生した』 貞久秀紀

八重洋一郎『若夏の独奏』 木澤豊

谷川俊太郎／田原／山田兼士／大阪芸大の学生たち『谷川俊太郎(詩)

を読む』 四元康祐

秀作の樹・個性の花

(詩)

エメラルドの庭 早田真由美

抱きしめながら 米田誠一

(エッセイ)

TKのこと 武内健二郎

ぼくは明彦です 沖田明彦

回想 渡辺正

日々是好日 多田正明

(小説)

ユーレイふいふい 吉田佳也乃

雲を抱く 入江千咲子

ネオンサイン 山津幸基

花残月 志水恵津子

小説同人誌評 11 レトルトに掛ければ 佐々木国広

詩同人誌評 13 戦後六〇年という節目に 細見和之

詩書評 36 詩を書くエネルギー 富上芳秀

## ■3月号 通信教育部作品集 (482)

□研究科／小説2組

埋め草 やなぎばるいら

棘 山田真子

幼恋 有道喜代子

□研究科／小説1組

フェンス越しに 蓮岡汀子

□研究科／小説3組

かくれんぼを捜さないで 小宮廣子

峠の風 藤牧久雄

□専科／小説1組

ドラゴン・クロー 神通明美

花見 秋草四郎

□専科／小説2組

金魚の函 河崎里佳

□本科／小説2組

スターマイン 河邊久子

少年(1) 草地律

水恋 筒井佐和子

5ccの不安 東條美和

□本科／小説1組

ジュエル(序章「フェイク」) 美月麻几

宿命 荒井登喜子

夜の街 榎本翔伍

くしゃみ みさき

□本科／小説3組

灯台 畑由和

火を抱く 酒井栄史

父の転勤 織田恭子

マリッジリング 辻明依

□研究科／詩とエッセイ

施主と父 青地久恵

虹づくり あおやますずこ

クリスマスカード 現川尋香

いつか話したいこと 高田靖子

叫び ほしのしほ

鳥ときょうりゅう 中村孝子

□専科／詩とエッセイ1組

終の日までの二人三脚 福島寛子

青二才は語った 乃木幸夫

後産 栗津真喜子

美しきもの 高嶋仁八

フォン・ノイマンの行列 三木もぢゅう

2004年の万華鏡 深海游

おかず革命 小暮美加子

手紙 多菊志津子

サカナ魚肴 芝野乃梨子

□専科／詩とエッセイ2組

森は知っている 中村行伸

サバニ 水間敦隆

冬の部屋で 福山てるよ

忘却の果てに 児玉桂子

道の途中で やまもとゆか

食べる 大文字俊

□本科／詩とエッセイ1組

白い布を用いた思考実験 米田誠一

TAO(道)／生きる意味 山梨桂子

野鼠 花井隆二

ヒソヤカナオト／電波時計 漆畑結音

帰り道 木村桃子

モズの死／心変わり 鈴木安夫

茨城のこと。 あまのきりん

出会って始まる 忍海貴子

私のふるさと 三分ノ一

見えないということ 西川淑子

□本科／詩とエッセイ2組

石探し 岸成子

残布 中西淳子

見学日記 Y・おかだ

報酬 こうのかなこ

顧客の喜ぶ顔 林美佐子

非草 尾山景子

入浴 加納由将

再生 市川一栄

不良品 もといせつこ

挑戦 坂本久刀

□一口コラム 文学散歩のすすめ——葆光荘と四天王寺さん 日野  
範之

■4月号 入学案内書 (483)

詩 木蓮 岩田明子

掌編 空 松本逸世/前夜の鏡 松江奏菜

短編 詩暦 池戸亮太

在校生の声 横田理恵/築部賀津子/岡崎元治/岡山美由紀/市川

想子/片桐僚子/鈴木安夫/谷辺範夫/早瀬敏夫/松木あかね

学生委員会の活動 古藤直典

■5月(春)号 本誌 (484)

第二十五回大阪文学学校賞発表

〈小説部門〉受賞「水ようかん詣」瀬戸みゆう

〈詩部門〉受賞「ハイビジョン」竹島浩一

〈エッセイ・評論・ノンフィクション部門〉受賞なし

[選評]木田弘児/高島寛/日高てる/長谷川龍生/葉山郁生/奥野  
忠昭

詩【佳作】尾崎まこと「吊り草」/【奨励賞】深海游「縁と底」

エッセイ【佳作】山口春樹「流離の径」

特集 新しい書き手たち

詩

人と人をつなぐもの 松尾二郎

煙の行き先 河上政也

ナラバ騎士(ナイト) 池田辰彦

エッセイ

そして放送局が消えた 丁海玉

ラダック寸描 —ベユルを探して— あしたゆう

小説

早苗振り 鏑雅代

マリアの椿 小西九嶺

「終止符」 長岡瑛美

追悼

土方鐵さん 日野範之

鈴木六林男小論 葉山郁生

書評

音谷健郎『文学の力 戦争の傷痕を追って——』寺田操

輕尾たか子『ながい私の冬』 高島寛

二上の鞍から 58 草間彌生展・永遠の現在 日高てる

秀作の樹・個性の花

〈詩〉

あした来る子供たちへ 木坂裕子

レモンしぼり はるのとのおる

群生 すけみち

てっちゃん よしのみほ

〈小説〉

とにお 愛須咲子

変化 宮内はと子

山子の冬 一閃淑乃

秋桜 桜井さち

きみの帰る場所 佐々木たかひ

小説同人誌評 12 樹根としての同人誌 佐々木国広

詩同人誌評 14 定期刊の力、不定期刊の可能性 細見和之

詩書評 37 日本語と詩人 富上芳秀

■6月号 在校生作品特集号 (485)

詩

こさめ、うわさめ 岩田明子

余花 志水恵津子

青バケツの命 余吾知子

◇選外優秀作

蛇がでた/狩野雅慈 覚える/高橋ゆかり 蟻の災難/すけみち

半月/山田知恵子 傷跡の花。/灰根子 深夜/林美佐子

エッセイ

天地無用の言葉達 栗林義人

ラーメン店の怪 宮越義信

俳句と蚯蚓 山口春樹

小説

〈一般部門〉

エンブティフラット 坂井智一

目覚めない朝 秋森実耀子

蒼いうねり 文正夫

箱の中の子守唄 山河紫

〈エンターテイメント部門〉

該当作なし

表紙のことば 古藤直典

編集後記 渋谷行成

■7月号 通信教育部作品集 (486)

□研究科/小説1組

ロストソウル 猿渡由美子

花影 多岐流二

□研究科/小説3組

七味唐辛子 山口春樹

鶴の遺言 松岡享三

彩りの家 南奈乃

□研究科/小説2組

にがうり(ディープ・ブルー) 楡久子

□専科/小説2組

盆参り 小西洋一郎

恋風のうた みさき

□専科/小説1組

仮装家族 水無月千秋

枕の向こう海の向こう 松井文子

□本科/小説1組

犬の目男と、奈津子の入場券 石原卓

雨のジंकス 大月志摩子

リトルボーイ かのくさぶえ

□本科/小説4組

花のうたう歌 山下みゆき

常夏 青邑しをん

雪が降っている 松岡悦子

□本科/小説3組

そこにあるのは 岩屋口あゆみ

戦場 近藤寛樹

憶念 田中峯子

志染村 深見志保子

□本科/小説2組

夏のせいにする。 片桐僚子

初恋 珠井七美

さくら 中野孝子

物語をみちびく光(映画『ロング・エンゲージメント』を観て) 加

藤三千代

□研究科/詩とエッセイ

遊び 栗津真喜子

花と蝶 高嶋仁八

不在の街では 高田靖子

息の穴 高橋ゆかり

少年たちとの旅 ほしのしほ

春の雪 水間敦隆

一陽来復 久崎掬子

春の夢 永田俊也

□専科/詩とエッセイ2組

冬の終わりに~白梅の春~ 早田真由美

追悼(会えるわけがないのに) 中西淳子

姉の転回 福山てるよ

手の風景 岸成子

見えないものを 木坂裕子

大きなハートに感謝して 福島寛子

出会いの日 やまもとゆか

オンリーさん 大工美与

臭い 小野田玲子

□専科/詩とエッセイ1組

四月 Y・おかだ

彷徨 延藤満子

半分の馬 尾崎まこと  
沈没 加納由将  
桜咲く 児玉桂子  
ベジタブルスープ 山梨桂子  
針金拾い 三木もちゅう  
ペンギン型の曲線 いちのせまりえ  
音楽工学はを越えられるか? 乃木幸夫  
切り 深海游  
遠い日一ひみつ 多菊志津子  
□本科/詩とエッセイ2組  
季節の話題 林美佐子  
陸上で 市川一栄  
雨雨草 尾山景子  
恋愛体質 吉岡尚美  
リセットボタン 大石洋子  
兄とげんげと花筏 さじ・たかし  
母 井上静代  
行脚 坂本久刀  
再スタート 池部住子  
芭蕉布 原田久江  
道具 滝沢洋子  
□本科/詩とエッセイ1組  
戦争のおはなし/国境の野で 川越道子  
さくら 田中慎子  
どこへ 忍海貴子  
霧笛 漆畑結音  
ごゆっくりどうぞ 花井隆二  
月光/夜のシリア砂漠 鈴木安夫  
愛犬に学ぶ 横山綾香  
夢判じ 木村桃子  
オカダスターのこと。 あまのきりん  
宣告 三分の一  
□「読書ノート」&「ノート」  
象を射つ 泡田洋/浜田紀子  
センセイの鞆 片桐僚子/飯塚輝一  
オンディーヌ 尾山景子/日高てる  
歎異抄 南さやか/日野範之

■8月(夏)号 本誌 (487)

特集 シニア文学の可能性を探る  
評論 この作品をどう読む  
古井由吉『野川』 葉山郁生  
日野啓三『落葉神の小さな庭で』 高島寛  
村田喜代子『蕨野行』 川上悦子  
創作 シニアの書き手たち  
ドローラー 林さぶろう  
ひたむきな季節(とき) 山村睦  
乾く日 二見ふう  
碧緑の海 緒見達希

特別講座 小説の育つ場所 黒井千次

二上の鞍から 59 遺業 泉茂 展 日高てる

書評

川上明日夫詩集『夕陽魂』 細見和之  
畑章夫詩集『ゆうびんや』 木澤豊  
小川内初枝『求愛ダンス』 谷口あさこ

秀作の樹・個性の花

(詩)  
冬の星座 早田真由美  
放免 中島和弘

(小説)  
楽園 谷口俊哉  
代理事変 村上朱音  
突撃セールスを命ず 榊原隆介  
盆灯ろう 田中たえ

(読書ノート)  
大江健三郎『個人的な体験』 近藤鞠子  
小野十三郎詩集 林美佐子

小説同人誌評 13 書きたいことと書きたいもの 佐々木国広  
詩同人誌評 15 雑誌一冊への集中度 細見和之

■9月号 通信教育部作品集 (488)

□研究科/小説3組  
幼年時代 森ゆみ子  
消し印のない葉書 桐村緋佐子  
□研究科/小説2組  
ステレオ 秋田久美子  
夜歩く者 吉村真理子  
□研究科/小説1組  
化野恋情結界越え 柗陽子  
犬を洗うように 森有紀  
□専科/小説1組  
自転車のしんくん 真行りあ  
ひみつきち(丘をわたる風 十二) 南さやか  
□専科/小説2組  
ロールモデル 川原真琴  
唐丸駕籠の道 福田満智  
□本科/小説4組  
わが母の教えたまいし歌 大野久嘉  
雪の降る日に 松岡悦子  
「花」ではじまる和歌二首によせて 奈瀬成己  
□本科/小説3組  
忘れられたピーマン 渡辺めぐみ  
烏瓜の花 竹内絃子  
歩みから 渡辺友美  
□本科/小説2組  
不關不撓 草地律  
雨のおと 加藤三千代  
空と壁とエプロン 東條美和  
世界がやさしく笑った 日坂根真理  
□本科/小説1組  
妙華童女 谷辺範夫  
占いは当たる? 安部洋子  
□研究科/詩とエッセイ  
黒いワンピース 青地久恵  
わたしの役目 坂野育子  
絶壁 高嶋仁八  
煙り 高橋ゆかり  
おんざうえい ほしのしほ  
心の中に自然を 中村孝子  
青い記憶 水間敦隆  
シミ 永田俊也  
□専科/詩とエッセイ1組  
遠い日一坂道 多菊志津子  
朝だけが また やってきた 三木もちゅう  
Height Y・おかだ  
お茶の誕生 山梨桂子  
祀る 深海游  
蛇 尾崎まこと  
センダマ 小暮美加子  
骨の破片 延藤満子  
叩き付ける 加納由将  
「乃木金網研究所」へのれくいえむ 乃木幸夫  
KUALA LUMPURにて 児玉桂子  
□専科/詩とエッセイ2組  
家路 木坂裕子  
タバコ 大工美与  
地元の人 中西淳子  
夢想 中村行伸  
滝壺 岸成子  
約束 福山てるよ  
白いリーダー やまもとゆか  
お正月 小野田玲子  
□本科/詩とエッセイ1組  
再会 忍海貴子  
土饅頭の中に 神内八重  
ろづけ 田中慎子  
青い日没 鈴木安夫  
霧笛 漆畑結音  
リリー・マルレーンの歌が降る 花井隆二  
チロのこと。 あまのきりん  
ヒザに注射を打った日 木村桃子  
□本科/詩とエッセイ2組

正しい絵／数日 林美佐子  
草四季 尾山景子  
自分の声 市川一栄  
猫缶と白いシャツ 滝沢洋子  
私 はやしふみこ  
水撒き 大石洋子  
古木 池部住子  
叔母の着物 しのぶ  
父 井上静代  
□一ロコラム 文学散歩のすすめ(大阪)——なんばウォーク 日野  
範之

■ 10月号 入学案内書 (489)

詩 姑 高橋ゆかり  
掌編 煩わしいのお 四季たかひろ／頭の切り替え 松浦保  
短編 快適なスイッチ 松浦研二  
在校生の声 畑田悠貴／藤野慶／曾我部伸子／大野久嘉／みなもと  
みわこ／玉置隆／中野孝子／戸石一徳／高橋ゆかり／瀬戸みゆう  
学生委員会の活動 高橋諒

■ 11月(秋)号 本誌 (490)

第7回小野十三郎賞 発表  
【受賞】詩集・添田馨『語族』  
選評・金時鐘／倉橋健一／辻井喬／長谷川龍生／日高てる  
第7回小野賞 一次予備選考通過『詩集』『詩評論書』

特集 戦後文学と今  
特別講座  
記者の見た文学の可能性—時代の底への視線(動かぬものへの渴望)  
音谷健郎  
評論  
戦後文学と大阪文学学校 松原新一  
安部公房と日野啓三—都市をどうとらえ、どう生きるか 奥野忠昭  
個を越境する—大庭みな子の女性性から自我の相対化へ 佐久間慶  
子

特別講座 小説の方法 小川国夫

詩  
階層 苗村吉昭  
土間 渋谷卓男

小説  
月光の影たち 葉山郁生

二上の鞍から 60 馬冷池畔の盆踊り 日高てる

書評  
葉山郁生『小説論——小説の読み・批評・創作』 木辺弘児  
水間敦隆詩集『風と海と星を数えて』 山田兼士

秀作の樹・個性の花  
(詩)  
道に迷いながら 萩森勝  
夢 堂本直正  
昼の土手 よしのみほ  
(エッセイ)  
大は小を兼ねる 中島邦夫  
金魚 小山喜与男  
(小説)  
独り居 伊藤幸子  
普通の日々 中島隆  
へちま 岡崎元治

小説同人誌評 14 風景描写はどこまで 佐々木国広  
詩同人誌評 16 個人誌というトポス 細見和之  
詩書評 39 現実を直視すること 富上芳秀

■ 12月号 在校生作品特集号 (491)

詩  
第四公園 山田知恵子  
カラス 小池栄子

豆 楡久子  
BAD TRIP 吉村道大  
ノリコちゃん よしのみほ

エッセイ  
夜行列車 山本昭久  
若き日の旅路で 山口春樹

小説  
(一般部門)  
トカゲ 岩田明子  
リカバリ ミヤウチハトコ  
苦しいだけの瞬(まばた)きを 山河紫  
迷信 橋本直樹  
(エンターテインメント部門)  
村上半蔵手控帖 ① 小石川心中 草田那

編集後記 山田直之

【2006年】

■ 1月号 通信教育部作品集 (492)

□研究科／小説2組  
おみなえしの花 有道喜代子  
よっちゃん 楡久子  
すいか 久保訓子  
□研究科／小説1組  
もう一つの世界 橋本郁子  
虹 泡田洋  
□研究科／小説3組  
ちぎれ雲 佐伯晋  
可愛くない女達 山本日出子  
□専科／小説2組  
胡瓜 青山里美  
□専科／小説1組  
母の呪縛 奈香東美  
孔雀 鈴川幸子  
松島トモ子 宮越義信  
□本科／小説3組  
パキラの新芽 岩屋口あゆみ  
家族の形 松村文浩  
飛鳥の春 日野あすか  
□本科／小説2組  
炎の記憶 柳沢登子  
小さな小さな贈りもの 松本百合子  
宅配便 塩谷協子  
祖父の、思い出と、戦後 黒田正昭  
□本科／小説1組  
父ツバメ 玉置隆  
走り梅雨 今野ひろ子  
能登半島縦断・女四人の旅 肥田きくゑ  
茶碗 新井幸美  
ギロチン 仲川敏子  
□本科／小説4組  
麗子像 信澤聖子  
風が通る日 山下みゆき  
□研究科／詩エッセイ  
ろくろをまわす 栗津真喜子  
重さ・摩擦・推進力 深海游  
葡萄通信 神内八重  
蔓の行きさき 高田靖子  
近露 竹島浩一  
航跡 中島和弘  
あまがえる 花井隆二  
真夏の夜の夢 久崎鞠子  
Sweet Home 松井文湖  
□専科／詩エッセイ2組  
おかえり 木坂裕子  
飛行機嫌い 大工美与  
軋む音 岸成子  
水、遠く続く道への序章 中村行伸  
秋天 1 木村透子  
七枚目のタオル 福島寛子

いがぐり鬼 早田真由美  
コトリ 池田順子  
白い手 やまもとゆか  
読書感想文 小野田玲子  
敬老の日 三分ノ一  
□専科/詩エッセイ1組  
わたしの脳は いちのせまりえ  
秋意草 尾山景子  
不意の入居者 林美佐子  
花火 加納由将  
空を抱えて 尾崎まこと  
時代は何処へ 児玉桂子  
夢のつづき 三木もちゅう  
にじむ月 乃木幸夫  
八月 Y・おかだ  
カシの木 あおやますずこ  
向日葵 延藤満子  
浦島太郎 多菊志津子  
□本科/詩エッセイ2組  
暗やみ地藏 なかむらまさと  
教えて 吉岡尚美  
古希の夏 坂本久刀  
年 北川順子  
眠れる細胞 二通藤乃  
秋空の想い出 岡部美江  
入学 瀬戸真由美  
秋の一日 湯浅朱実  
器 池部住子  
□本科/詩エッセイ1組  
いのち(犬のいのち) 能勢與一郎  
アラスカの大氷河 永井潤子  
青い空 萩野綾  
その日は 阪下ひろ子  
親亀の背中へ 忍海貴子  
夏の終わり 鈴木安夫  
無人村/沢蟹 川越道子  
アンネのバラ 山下美智子  
秋日より一日記抄 小寺俊江  
あけび 栗林美江子  
□エッセイノンフィクション  
教務部庶務係 永田俊也  
この一曲「ケ・セラ・セラ」 近藤鞠子  
在日朝鮮人と「憲法」 バンチョンジャ  
□「読書ノート」&「ノート評」  
森敦との対話 弓削ゆみ/朝比奈敦  
ペドロ・パラモ 橋本郁子/岡保夫  
個人的な体験 辻本朋子/川上悦子  
ロング・グッドバイー寺山修司詩歌選 林美佐子/富上芳秀  
□一ロコラム 文学散歩のすすめ——もう一つの京都・歴史散歩 日野範之

■2月(冬)号 本誌 (493)

第7回小野十三郎賞受賞作品+インタビュー+記念講演・対談  
受賞詩集 添田馨詩集『語族』(抄)  
インタビュー 『語族』という「不穏の書」 【受賞者】添田馨【聞き手】細見和之  
最終候補詩集(抄) 一色真理『偽夢日記』/岡本勝人『ミゼレーレ沈黙する季節』/河津聖恵『青の太陽』/田原『そうして岸が誕生した』  
記念講演 現在日本の文化状況について 辻井喬  
受賞挨拶 第7回小野十三郎賞受賞者挨拶 添田馨  
記念対談 添田馨『語族』をめぐって 金時鐘・倉橋健一

特別講座

〈幻想〉詩について——私のサーラ体験 以倉紘平  
詩の現在と谷川俊太郎 北川透

詩

瀧克則/高橋秀明/八重洋一郎/甲田四郎/木澤豊/高階紀一/竹島浩一/たなかよしゆき/丹田亮子/辻景/富上芳秀/菱木紅/日高てる/細見和之/水間敦隆/村岡眞澄/八島賢太/長谷川龍生/杉山平一

書評

高階紀一詩集『桃の花』 佐川亜紀

苗村吉昭詩集『オーブの河』 山田兼士  
金時鐘『わが生と詩』 國重游  
山田兼士『ボードレールの詩学』 季村敏夫  
細見和之『言葉と記憶』 岡保夫  
秋吉好『天保新酒番船』 佐保木流  
夏当紀子『鳥が飛ぶ日』 竹内和夫

二上の鞍から 61 百済野そして三重塔 日高てる

秀作の樹・個性の花

〈詩〉  
黄色い涙 小池栄子  
壺 辻本朋子  
落日の二上山 中西淳子  
〈小説〉  
旗ヲ掲ゲヨ 竹井律生  
居酒屋「やん八」 国方勲  
緑色のドアから かのくさぶえ  
ちろと小鳥 南さやか  
猫 竹内紘子  
哀しい唄 本町鞆

小説同人誌評 15 うまい小説といい小説 佐々木国広  
詩同人誌評 17 散文を読む楽しみ 細見和之  
詩書評 40 内的世界と外的世界 富上芳秀

■3月号 通信教育部作品集 (494)

□研究科/小説1組  
胸に棲む音(二) 榎原隆介  
靴 森有紀  
こぶ霞 地場輝彦  
□研究科/小説3組  
零戦の模型 山口春樹  
□研究科/小説2組  
アテの木のある家 川島昭子  
□専科/小説1組  
行く道 荒井登喜子  
寒流 細見牧代  
□専科/小説2組  
兄の恋人 松井孝典  
快速に、しかし甚だしく 松木あかね  
お正月 小西洋一郎  
□本科/小説2組  
充溢 井ノ口夏恵  
四十代に 谷真澄  
□本科/小説1組  
冬の紅葉 大月志摩子  
故郷 玉置隆  
ゆうちゃんと曾ばあちゃん 安部洋子  
□本科/小説4組  
死ぬか、生きるか 貴志幸生  
視線 清水正彦  
瓦屋 みなもとみわこ  
星の名前 青邑しをん  
□本科/小説3組  
華の相聞歌 小室潤  
一粒の砂 岩崎啓江  
□研究科/詩エッセイ  
法隆寺を訪ねて 青地久恵  
二人の彼 高嶋仁八  
青虫からの電話 高田靖子  
バス停 高橋ゆかり  
PROCESS ほしのしほ  
臥竜丘 中村孝子  
記憶の牽引 水間敦隆  
食べば… 畑章夫  
□専科/詩エッセイ1組  
発掘 加納由将  
東京 三木もちゅう  
古い草 尾山景子  
記憶の中で 児玉桂子  
秋 Y・おかだ  
カレー 林美佐子  
鳩よ 尾崎まこと



夜光 あおやまずこ  
デイキャンプ・イン・二部 乃木幸夫  
この想い 山梨桂子  
□専科/詩エッセイ2組  
白い手の少女 早田真由美  
二×××年十一月 木村透子  
スーパーにて 大工美与  
睡眠 中村行伸  
背の川 岸成子  
くだもの 池田順子  
ひとりごと 木坂裕子  
焼けあと 福山てるよ  
新しい生活 やまもとゆか  
きこえない! 三分ノ一  
□本科/詩エッセイ1組  
つわぶき 栗林美江子  
今度こそ 萩野綾  
新不快電車 忍海貴子  
故郷 阪下ひろ子  
追想のオマージュ 一詩人— 鈴木安夫  
孫 田中楨子  
神様の贈り物 山下美智子  
観音菩薩像を捨てた女 永井潤子  
私の灯台は 大津円  
冬までの日一日記抄 小寺俊江  
「垣根」の向こう側へ 井上圭子  
おかげさま通信(創刊号) 川越道子  
□本科/詩エッセイ2組  
雨宿り なかむらまさと  
血 岡部美江  
ツバサ 湯浅朱実  
夢 瀬戸真由美  
日だまり 北川順子  
12月10日と11日の夜の出来事——そして私は—— 吉岡尚美  
伝える 池部住子  
□エッセイノンフィクション  
欠航のこと。あまのきりん  
交通事故にあった! そのとき 近藤鞠子  
コールドゲーム 永田俊也

■4月号 入学案内書 (495)

短編 父ツバメ 玉置隆  
詩 土 西谷真琴  
掌編 夜明けの猫たち 山本佳子/いびつなトマト 安田貴美子  
在校生の声 小幡一絵/清水康司/吉田雪/眞栄城操/瀬戸真由美  
/大津円/肥田さくゑ/香川虹/泉陽太郎  
学生委員会の活動 松浦保

■5月(春)号 本誌 (496)

特別講座 「うしろすがたのしぐれてゆくか」なぜ今、種山山頭火なのか 長谷川龍生

第二十六回大阪文学学校賞発表

[選評]木辺弘児/高島寛/日高てる/長谷川龍生/葉山郁生/奥野忠昭

〈小説部門〉受賞作品「トカゲ」岩田明子  
〈詩部門〉受賞作品「黄色い涙」小池栄子/【佳作】「サバニ」水間敦隆/【奨励賞】「ペンギン型の曲線」いちのせまりえ  
〈エッセイ・評論・ノンフィクション部門〉受賞作品「おっちゃん高校生」国方勲

小説

お父ちゃんの遺言 朝比奈敦  
淀む竜田川 小原政幸  
うす皮 佐久間慶子

書評

滝本明『一行の夢を見た』 葉山郁生  
木辺弘児『日々の迷宮』 佐久間慶子  
四宮秀二『海にクラゲの満ちる時』 木下正実  
八重洋一郎詩集『しらはえ』 山田兼士  
日高てる詩集『今晚は美しゅうございます』 直島順子

二上の鞍から 62 ブレソンの決定的瞬間 日高てる

秀作の樹・個性の花

〈詩〉  
冬晴れ 木村透子  
夜間飛行 早田真由美  
〈エッセイ〉  
秋色のスカート いちのせまりえ  
母と行く おだなかあけみ  
桃太郎 多菊志津子  
虹の破片 延藤満子  
映画「モーターサイクル・ダイアリーズ」〜チェの目線 清水康司  
〈小説〉  
彩りの家(第五回) 南奈乃

小説同人誌評 16 創作時の神秘感 佐々木国広  
詩同人誌評 18 現代詩の生活詩への転回を求めて 細見和之  
詩書評 41 言葉との格闘 富上芳秀

■6月号 在校生作品特集号 (497)

詩

バラととげ 金沢美香  
星夜 木村透子  
とつてもとつても 狩野雅慈  
ましろの残像 志水恵津子

エッセイ

寮友 山本昭久

小説

〈一般部門〉  
ゆきんこ 眞住居明代  
一攫(いっかく)千菌(菌に傍点) 岡崎元治  
スノードーム 田中一葉  
〈エンターテインメント部門〉  
香年期 相田典子  
亀消える! 黒住純

編集後記 福井裕公

表紙によせて 清水康司

■7月号 通信教育部作品集 (498)

□研究科/小説3組  
牙 鶴瀬順一  
病室 船越恒子  
□研究科/小説2組  
出会い 秋森実耀子  
□研究科/小説1組  
遥風庵茶室 多岐流二  
片身 平井利果  
□専科/小説2組  
LUCIAの香り 朝陽るり  
響く杯 大月志摩子  
夜の観覧車 石原卓  
□専科/小説1組  
詩織の夏 珠井七海  
金魚日和 かのくさぶえ  
□本科/小説1組  
空中田園 小暮照  
ドウヒョウフミウシナウ 金色蝶  
魂のない魚たち 中山ハナ  
メロンパン 松脇良則  
宝塚へのいざない 富永妙  
光を求めて 長谷川稚子  
□本科/小説4組  
発明 刀根久  
終り良ければ 藤岡康司  
父の死とシロ 山城久子  
青き島影 加川清一  
□本科/小説3組  
夜の職員室(「機を織る娘たち」第一章) 畑中等  
僕の妹 山内常治  
□本科/小説2組

都会の夜景 園部誠司  
生き延びました 土居作美  
□研究科/詩エッセイ  
光り あかね直  
雪の終りに 尾山景子  
自転 忍海貴子  
蝶 加納由将  
詩人の資質 木坂裕子  
鉢の底 岸成子  
自画像 高橋ゆかり  
同定 李和弘  
「あ」 山梨桂子  
□専科/詩エッセイ 2組  
たまごかけごはん いちのせまりえ  
あさ 畑章夫  
小人トッポクルの物語 早田真由美  
花のひと 小西洋一郎  
春 木村透子  
絵本のぞう 池田順子  
花束 福山てるよ  
木蓮 白澤久美子  
再会 やまもとゆか  
ペンネームの理由 三分ノ一  
□専科/詩エッセイ 1組  
たびだち 林美佐子  
夜のフーガ 五十嵐節子  
シーソー遊び 西森美智子  
夜警 乃木幸夫  
朝の理解 南堂照子  
地底 延藤満子  
くるくる 吉岡尚美  
珍鳥 中村孝子  
□本科/詩エッセイ 2組  
送り火/本当のところ なかむらまさと  
道 梅垣和良  
キリンの角とサルと 瀬戸真由美  
カリフォルニアの午後 若林美恵子  
ふりゆくものは… 岡部美江  
ある画家 坂本久刀  
春 その一/春 その二 佐々木節子  
天餌たる 小宮山寛之  
春の雪 森脇静華  
希望 花咲くるみ  
存在 三ッ矢弘禎  
ドーリー・ガール 湯浅朱実  
真夏日 鈴木綾子  
蹉跎 河野純子  
□本科/詩エッセイ 1組  
一本の桜 栗林美江子  
曖昧な変身/フィニよせて 鈴木陽子  
花灯路 山下美智子  
響く音 朽久保秀紀  
特急列車/月がウサギ/はがれゆく日々 深瀬由紀  
手 阪下ひろ子  
地雷を踏む 鈴木安夫  
観音菩薩像を捨てた女(II) 永井潤子  
白い花 再び 小寺俊江  
□エッセイノンフィクション  
イルム(名前) 方清子  
ある三日間 吉田借子  
白い火影 出口華織  
私は怒っている 花川洋子  
介護付き高級老人ホーム 和田仁子  
□「読書ノート」&「ノート評」  
テロルの決算 新井幸美/宮谷健郎  
「在日」のはざままで 細見牧代/高田文月  
個人的な体験 深見志保子/川上悦子

■ 8月(夏)号 本誌 (499)

特集 女が書くとき  
インタビュー  
女が書くとき一戦中、戦後そして現在 刀禰喜美子/聞き手・佐久間慶子  
詩

回帰/公共 よしのみほ  
松本さん/午後の電車 Y・おかだ  
小説  
オット鳥 翔明子  
帰郷 深沢晶子  
フラ・ダ・リ 山河紫  
エッセイ  
木内寛子——緘黙からの発語 高田文月

書評  
塩見鮮一郎『車善七(全三巻)』 平野千景  
那須耕介『ある女性の生き方〜茅辺かのうをめぐる』 浜田紀子  
フィリップ・ラグノー/荒川節子訳『愛は死を超えて』 佐久間慶子

秀作の樹・個性の花  
(詩)  
籬門 二十九 鮮一孝  
私の心の中のくつ箱 早田真由美  
星空のナグネ 金遼宇  
(エッセイ)  
JR桃山駅 永田俊也  
(小説)  
キャド 松浦保  
ほんまかいな 山野きみどり  
(読書ノート)  
『グリーブ家のバーバラ』(『ハーディ短編集』から) 佐保木流

二上の鞍から 63 ソプラノ歌手 中川令子 日高てる

小説同人誌評 17 物書きの意地 佐々木国広  
詩同人誌評 19 自立的=自律的な空間としての詩誌 細見和之  
詩書評 42 時間の推移 富上芳秀

■ 9月号 通信教育部作品集 (500)

□研究科/小説 2組  
鯨の墓場 福本ゆり  
□研究科/小説 1組  
黄色いうつわ 青山雨子  
灯り 福井ゆかり  
□研究科/小説 3組  
幼かった私へ 金川紗和子  
□専科/小説 1組  
主婦の作文 あびる諒  
□専科/小説 2組  
川をのぼる 鮫山下みゆき  
朱の記憶 深見志保子  
□本科/小説 4組  
吃音少年 森建司  
お勤行 阪本洋治  
蒼い記憶 小澤房子  
□本科/小説 3組  
我が家の小さな幸福 持多広増  
妖精 桑山靖子  
□本科/小説 2組  
二つ目の駅まで 松本百合子  
堂島大橋 黒田正昭  
悪友の死 藤本佳大  
□本科/小説 1組  
時を越えて 新井幸美  
蟻 松脇良則  
指のないおじさんの話 中山ハナ  
□研究科/詩エッセイ  
朝顔 青地久恵  
それには気づかなかつた うのささら  
雲 高嶋仁八  
待ち人 多菊志津子  
HIDE ほしのしほ  
風にゆれてる野のくさに 花井隆二  
柔よく 松井文湖  
信号機の思考 水間敦隆  
□専科/詩エッセイ 1組  
日めくり なんどうてるこ  
家族 児玉桂子  
山に登ったサカナ 延藤満子

線香花火の独り言 吉岡尚美  
ヨシキリ 中村孝子  
小野さんからの手紙 西森美智子  
花見会 乃木幸夫  
耳 林美佐子  
なぜだ 三木もぢゅう  
六月に 五十嵐節子  
□専科/詩エッセイ2組  
祝祭 小西洋一郎  
トロピカル レイン フォレスト 川越道子  
幼い日のこと 福山てるよ  
松代の雪 白澤久美子  
ポリジの青 早田真由美  
コブラ ——病の沼—— 篠原義男  
フミヨバあさん 池田順子  
日も月も 木村透子  
トランスランプ やまもとゆか  
眼科受診 三分ノー  
□本科/詩エッセイ1組  
詩と注釈 鈴木安夫  
エントランスホール 阪下ひろ子  
麦 栗林美江子  
夢の中で 山下美智子  
青痣 枳久保秀紀  
愛すること/こだま 鈴木陽子  
土に還る 井上圭子  
田植え頃一日記抄 小寺俊江  
スローカフェ「進々堂」 永井潤子  
□本科/詩エッセイ2組  
宇宙人/提出作品「宇宙人」について なかむらまさ  
月夜 岡部美江  
ユウカイ 森脇静華  
言葉 梅垣和良  
桜の老木 坂本久刀  
脳内死観 河野純子  
ドロップス 湯浅朱実  
エンタテイメント 三ツ矢弘禎  
温もり 鈴木綾子  
あかるい朝 佐々木節子  
□エッセイノンフィクション  
我が子の山村留学 三好惇二  
『接吻』のこと、クリムトのこと。 あまのきりん  
西田 潤「絶」—The Gifted— 豹獅  
牛飼いのまあちゃん 花川洋子

■10月号 入学案内書 (501)

短編 よしのぶくん 山城久子  
詩 良い嫁/夏の夕暮れ 木坂裕子  
掌編 汗 上西五郎/グローバルな家族 泉陽太郎  
在校生の声 小林郁子/清水園子/松村佐知子/吉田えるか/河野純子/小暮照/山内常治/鈴木陽子/岡部美江/椎名卓樹  
学生委員会の活動 松浦保

■11月(秋)号 本誌 (502)

第8回小野十三郎賞 発表  
【受賞】詩集・たかとう匡子『学校』  
選評・金時鐘/倉橋健一/辻井喬/長谷川龍生/日高てる  
第8回小野賞 一次予備選考通過『詩集』『詩評論書』

特別講座

推理小説の世界 有栖川有栖  
小説と想像力 津島佑子

樹林500号記念特集 戦後六十年を問いかえす

エッセイ  
戦後六十年 いま何を問うべきか 高島寛  
人間は何をしかねないのか——戦後六十年、真に喪の作業をしてきたか? 日野範之  
「戦後思想」のバブルと風化 音谷健郎  
篠山の戦後六十年——デカンショの里における、他者の不在と現前と  
細見和之  
座談会  
戦後六十年の生と人間像、文学表現の変容と可能性 高島寛/木辺弘

児/岡保夫/奥野忠昭/木下正実/〈司会〉葉山郁生

小説  
高木ゴドー 真銅孝

二上の鞍から 64 詩人、小野十三郎の詩碑 日高てる

書評

安水稔和『小野十三郎歌とは逆に歌に』 富上芳秀  
中塚鞠子『庭木物語』 日高てる  
川崎彰彦『ぼくの早稲田時代』 中尾務  
『倉橋健一選集』 中塚鞠子  
葉山郁生『現代文芸批評集 書くエロス・文学の視座』 佐久間慶子

追悼 北川莊平さんのこと 浜田紀子

秀作の樹・個性の花  
〈詩〉

鯛 きむほんじゃ  
鳥取 西谷真琴  
花火と海 坪田一郎  
花火 小池栄子  
夏の花 中西淳子  
〈小説〉  
棒杭 嶺月耀平  
雨の匂いと風の味 横山早代  
のど仏 森ゆみ子  
輪廻 かわかみまさや  
陽炎 馬場恭子  
除夜釜 多岐流二

小説同人誌評 18 端の歩を突けば 佐々木国広  
詩同人誌評 20 実現されたファシズムのなかで 細見和之  
詩書評 43(最終回) 詩を書くということの意味 富上芳秀

■12月号 在校生作品集 (503)

詩  
風の溜まり場 松村佐知子  
サンクト・ペテルブルグ 齊藤勝康

エッセイ

◇在宅選考優秀作  
丁髷(ちょんまげ) 爺さん 小山喜与男

小説

〈エンタテイメント部門〉  
われら、勝手につき 金井智恵子  
〈一般部門〉  
シティービュー 大西智子  
独白(つぶやき) 橋本直樹  
吹(ふき)の風 眞住居明代  
あれから 文正夫

編集後記 椎名卓樹

【2007年】

■1月号 通信教育部作品集 (504)

□研究科/小説1組  
夏草 やなぎばるいら  
卵囊 あびる諒  
□研究科/小説3組  
共犯者 真行りあ  
□研究科/小説2組  
表札 小宮廣子  
□専科/小説2組  
ひよこたちの箱庭 美月麻几  
□専科/小説1組  
機を織る娘たち(第七章) 畑中等  
父の背中 新井幸美  
□本科/小説1組  
まど 沢井あかね

もの狂い 平良進  
□本科/小説3組  
溝蓋 刀根久  
家族の情景 松田由紀子  
□本科/小説2組  
幼馴染 武田典子  
漏洩 稲村純司  
□研究科/詩エッセイ  
走る 忍海貴子  
夜の出来事 加納由将  
冬の花火売り 神内八重  
百年の廢墟 鈴木安夫  
馬と人参 高嶋仁八  
シャープペンシル 高橋ゆかり  
再生芽 ほしのしほ  
ホテルの宿 延藤満子  
一目散 花井隆二  
反動 水間敦隆  
□専科、研究科/詩エッセイ  
鉢の底 岸成子  
カラオケ進行係見聞 乃木幸夫  
火鉢 山口春樹  
鏡像 三木もちゅう  
猫帰る 中西淳子  
ヂ 吉岡尚美  
ヤク 林美佐子  
朝 中村孝子  
椅子に座った女 西森美智子  
黒猫 片山福子  
水の時計 なんてうてるこ  
□専科/詩エッセイ  
その日の朝 早田真由美  
群生するカヤのむこうで いちのせまりえ  
うみ 川越道子  
夢枕 小西洋一郎  
ぴろとく 白澤久美子  
待たせて 福山てるよ  
見えないリボン やまもとゆか  
モーツアルトの肖像 三分一  
□本科/詩エッセイ2組  
調律 梅垣和良  
声 河野純子  
井戸の奥 森脇静華  
林檎の木 佐々木節子  
恋愛 三ッ矢弘禎  
遺言 若林美恵子  
もう一枚のおまけ 鈴木綾子  
桜ノ木町一丁目一番 山本信代  
□本科/詩エッセイ1組  
巡り合い 朽久保秀紀  
土曜日 榎野博  
願い 松田和美  
朝の夢 森有紀  
投げたい 深瀬由紀  
夏の終りに 栗林美江子  
整形手術/子ばなれ 鈴木陽子  
この夏 クラッシュ 小寺俊江  
□エッセイノンフィクション2組  
Presque Rien——取るに足らないこと 豹蟬  
ドアの向こう側 福島寛子  
巢立ち 中野孝子  
クーネオとカテナチオ 永田俊也  
ぼいとこせ 深山うずら  
□エッセイノンフィクション1組  
高齢者自動車運転の日々 国吉司因子  
私の見た外国籍の子どもと学校 秋間恵美子  
雨の寺 清水葉月  
□講義録(9. 10 スクーリング) 木澤豊  
□「読書ノート」&「ノート評」  
樹影譚 岡田雄希/津木林洋  
旅をする木 河野純子/中塚鞠子  
歎異抄 田島加那/日野範之

■2月(冬)号 本誌 (505)

第8回小野十三郎賞受賞作品+インタビュー+記念講演・対談  
受賞詩集 たかとう匡子詩集『学校』(抄)  
インタビュー 幻想のリアリズムと『学校』 【受賞者】たかとう匡子  
【聞き手】山田兼士  
最終候補詩集(抄) 川野圭子『かいつぶりの家』/近藤久也『伝言』  
/館路子『蛭、探して』/塚本敏雄『英語の授業』  
記念講演 いまこの時期に——小野賞の特質を考えながら 金時鐘  
記念対談 たかとう匡子『学校』をめぐって 長谷川龍生・倉橋健一  
受賞挨拶 第8回小野十三郎賞受賞者挨拶 たかとう匡子

特別講座 欲張りで怠惰な自作について語らせていただきます～詩と芝居と小説と～ 平田俊子

詩

長谷川龍生/日高てる/中塚鞠子/富上芳秀/川上明日夫/たなかよしゆき/細見和之/八島賢太/瀧克則/高橋秀明/八重洋一郎/北川透/甲田四郎/苗村吉昭/杉山平一/渋谷卓男/添田馨

特集 滝本明、人と仕事

滝本明 詩の日々 倉橋健一

滝本明の詩集 瀧克則

都市のデッサン 滝本明『一行の夢を見た』を読む 木澤豊

人と仕事(エピソード、回顧、追悼など) 松原新一/佐々木幹郎/栗津謙太郎/倉本修/今井美沙子/野口豊子/たなかよしゆき/葉山郁生/金時鐘

追悼 追悼ふたり一灰谷健次郎、木下順二さん 日野範之

書評

杉山平一『詩と生きるかたち』 日高てる

蒔田耕一詩集『月下の悲鳴』 高田文月

倉橋健一詩集『化身』 彦坂美喜子

山田兼士『抒情の宿命・詩の行方—朔太郎・賢治・中也』 小島きみ子

たかとう匡子『神戸ノート』 松村信人

秀作の樹・個性の花

(詩)

豆を煮る 阪下ひろ子

山 小山恵子

(エッセイ)

私の十月 糸井ハル

(小説)

マークス 船越恒子

震える手 吉田えるか

鹿女 緒方涼

(ノンフィクション)

桜の下の骨—旧真田山陸軍墓地 山本佳子

(読書ノート)

アゴタ・クリストフ『悪童日記』 美月麻几

平田俊子詩集『ラッキョウの恩返し』 小池栄子

二上の鞍から・最終回 見たこと 考えたこと—その揺り籠 日高てる

小説同人誌評 19 スパイスの混ぜ具合 佐々木国広  
詩同人誌評・最終回 詩の現在をもとめて 細見和之

■3月号 通信教育部作品集 (506)

□研究科/小説3組

水の上を歩く 池戸亮太

□研究科/小説2組

病室 池館敏子

眠る女 楡久子

□研究科/小説1組

いい加減にしてくれ 大倉孝美

ヴィヴァルディ 多岐流二

新星 第三章(四) 深山有季

□専科/小説1組

円陣 筒井佐和子

大淀洋服屋ものがたり 安部洋子

□専科/小説2組

忘れな草日記抄 小室潤

□本科/小説3組

馬酔木 小澤房子  
画竜点睛 藤岡康司  
□本科／小説2組  
不器用な生き方 浅川公子  
□本科／小説1組  
天上の食卓 沢井あかね  
音のない世界 松脇良則  
この頃思うこと 打浪一夫  
□研究科／詩エッセイ  
返メール Y・おかだ  
石の風景 水間敦隆  
晩秋の信濃路—医学部クラス会に出席して— 久崎掬子  
奮い起こそう [佐伯市情話] 児玉桂子  
怪獣ホーム 木坂裕子  
錯覚 加納由将  
冬の時間 尾山景子  
□専科、研究科／詩エッセイ  
昭和二十年 山口春樹  
鳥 なんどうてるこ  
男たちのK精工 乃木幸夫  
新月に架かる木 岸成子  
欲求処理 吉岡尚美  
時計草 片山福子  
レクイエム 三木もぢゅう  
家出人 坂本久刀  
ある日 おとぎの国をたずねて 中村孝子  
手品／虫 林美佐子  
萌黄色の服 中西淳子  
雨降り借家 西森美智子  
□専科／詩エッセイ  
その日は いちのせまりえ  
傘 川越道子  
私に宛てた手紙 福山てるよ  
某月某日 小西洋一郎  
せれぶれーしょん 白澤久美子  
恋をしていた頃は 早田真由美  
リカバリー やまもとゆか  
プーちゃん 三分ノ一  
□本科／詩エッセイ1組  
ところてん風 深瀬由紀  
顧み 枅久保秀紀  
悲しみの種 松田和美  
九月 森有紀  
湖畔にて 栗林美江子  
桂林 青木輝恵  
スクールオータム・午後 小寺俊江  
オカリナを吹く人 阪下ひろ子  
漬物石を抱く人／海馬のきおく 鈴木陽子  
歌人になるッ 榎野博  
□本科／詩エッセイ2組  
首里にて 光下佳和  
ゴキブリ 山本信代  
初冬 小坂美緒  
教室で 佐々木節子  
スマイル 森脇静華  
私省 三ツ矢弘禎  
□エッセイノンフィクション1組  
末期の視線—わが心の師上田三四二 1 皇邦子  
元祿の医家・岡本一抱 谷郷幸子  
ハッピー・エンディング 櫻井靖子  
マロンちゃんと妖精 胡桃ゆう  
一日を三十時間にして 国吉司図子  
□エッセイノンフィクション2組  
終の住処 里居美智代  
しゃとるおおい乗船記 中西明子  
いじめ—私の場合 方清子  
山村留学生は、今 三好惇二

■4月号 入学案内書 (507)

詩 いなかの夏のおわりの夜のように はるのとおり  
エッセイ ハッピー・エンディング 櫻井靖子  
短編 身代わり猫 滝尾鏡治  
在校生の声 宮脇海月／小副川栄一／夏樹まさみ／手塚美佐子／相田澄子・相田典子／佐伯昌美／松元昌栄／小澤房子／ナカムラマゼラ

ンタロウ／ほしのしほ  
学生委員会の活動 松浦保

■5月(春)号 本誌 (508)  
特別講座 小説を書くということ 吉村萬寿

第二十七回大阪文学学校賞発表  
[選評] 木辺弘児／高島寛／日高てる／長谷川龍生／葉山郁生／奥野忠昭

〈小説部門〉受賞作品「オット鳥」翔明子  
〈詩部門〉受賞作品「鳥」光下佳和／【佳作】「回帰」よしのみほ／  
【奨励賞】「豆を煮る」阪下ひろ子  
〈エッセイ・評論・ノンフィクション部門〉受賞作品なし

詩

海辺の市 松川穂波  
夏の日差しの中で いちのせまりえ  
小説

通天閣に跨がれて 津木林洋  
雨曇り 石村和彦  
家をのぼる 岩代明子

特集 書くことと読むこと

《ノンフィクションの力・小説の魅力》

批評

なぜノンフィクションをめざすか 音谷健郎  
小説は労働現場をどう描けるのか 岡保夫  
《土地・日々の暮らしから》

書評

武西良和詩集『きのかわ』 木澤豊  
石牟礼道子『苦海浄土・第二部』(神々の村) 四宮秀二  
村上護『種田山頭火』 朝比奈敦  
タコちゃん読書日記 たなかよしゆき

書評 現代詩文庫『杉山平一詩集』 細見和之

秀作の樹・個性の花

〈詩〉

これさえなければ 早田真由美  
とおいむかし 堂本直正  
セカンドポジション 福島寛子

残像をたぐる 前田眞千代

〈小説〉

マドラス 森有紀  
絹糸の雨 横田理恵  
ハニーへの手紙 須藤こうさく  
夜の虹 伴理子  
へい! グレグ 塚田源秀

小説同人誌評 20 血のインクもて書くべし 佐々木国広

詩時評 1 詩のわからなさについて考える 山田兼士

■6月号 在校生作品特集号 (509)

詩

台座の上にて 金沢美香  
叩き付ける 加納由将  
愛のくらし 西本恵  
恋人つなぎ 灰本あかり  
ネパールにて 山口春樹

エッセイ

北京 春夏秋冬 大街恵子  
吾子 手塚美佐子

小説

なすび 水口寿美  
赤いランドセル 玉城明子  
化粧をしたカタツムリ よこやまさよ  
管絃祭 芦原瑞祥  
ツノ男 堀尾琴子  
雑巾 和泉真矢子

編集後記 清水園子

■ 7月号 通信教育部作品集 (510)

□研究科/小説2組  
渦をはむ男 勢隆二  
□研究科/小説1組  
鴨 青山雨子  
変わりゆく花たち 橋本郁子  
□研究科/小説3組  
オールドタイマー 細見牧代  
斎宮異聞 大月志摩子  
□専科/小説2組  
夕べの風 加川清一  
宿命 藤本好浩  
□専科/小説1組  
美しき刺客 山岡優作  
□本科/小説2組  
本当の再出発 毛利寿与  
バス停の男 吉田久美子  
隣の猫又くん 元崇  
□本科/小説1組  
オンナノコの魔法 中山ハナ  
風のあとさき のろ純子  
モノフォビア 早田ゆり  
□本科/小説3組  
同居人 岡本優希  
かわりに神がくれたもの 古井らじか  
地元じゃ有名 今井綾  
□研究科/詩エッセイ  
西日の効用 尾山景子  
十二年目の大地 忍海貴子  
探し物 加納由将  
置きざり 神内八重  
お花見 木坂裕子  
日常のこと 鈴木安夫  
雨蛙 高嶋仁八  
坂のある街 西森美智子  
おい飛蝗 花井隆二  
東京ドーム ほしのしほ  
なぜ Y・おかだ  
写真 高橋ゆかり  
□専科、研究科/詩エッセイ  
木について/退化 三木もぢゅう  
私の桜 中西淳子  
コモリウタ 林美佐子  
かなしい 石黒百合子  
葡萄譜/火まつり 岸成子  
神の庭 山口春樹  
みいちゃん/私の大学 乃木幸夫  
えいえんをひきつれて なんどう照子  
□専科/詩エッセイ  
金魚鳥 早田真由美  
蕾 佐々木節子  
開く前 深瀬由紀  
見ている いちのせまりえ  
招かざる訪問者 福山てるよ  
ふらわー 白澤久美子  
漆黒 小坂美緒  
黒い嘴 朽久保秀紀  
覚醒 三ツ矢弘禎  
次の空間 やまもとゆか  
生活雑記(暮らしの中から) 三分ノ一  
□本科/詩エッセイ2組  
ごきぶり 中村国男  
桜井さんちへ 三ツ川香り  
小さなネジ 向井美樹  
栗の木 實平千代子  
侵入者1:30 音二  
健康体操 藤田悦子  
足洗い 河野純子  
明るい詩 鈴木賢治  
失敗と言う生き方はない 滝沢学  
だるまさんがころんだ 片岡尚子  
学校のユーレイ 森田靖子

1、故郷の風景 龍樹  
□本科/詩エッセイ1組  
涙 青木輝恵  
ボーカージェイス 後藤麻希  
へいわ 那岐のぶよ  
未来を生きる者達へ 松田和美  
たのしい まいにち 北村エリ  
流れ星 栗林美江子  
翔べない鳥 植野博  
万華鏡 阪下ひろ子  
北風、春模様に 小寺俊江  
梨の祈り 齋藤遼  
八月 森有紀  
春休み Y u k o  
□エッセイノンフィクション2組  
入学顛末記 安斎千鶴  
私は新聞を読まない 坪井伸樹  
見る 渡邊敦子  
特別な1日のこと。 あまのきりん  
藤代駅 一台の謎を解く— 中西明子  
ペシュ ありがとう 深山うずら  
□エッセイノンフィクション1組  
次兄・上原朝祐のこと 国吉司図子  
私の国は海のむこう 秋間恵美子  
かさぶた 青井空海  
ぼくとパチンコと、そっから見た社会 鶴岡礎  
□講義録(3.11スクーリング) 朝比奈敦  
□「読書ノート」&「ノート評」  
個人的な体験 皇邦子/川上悦子  
歎異抄 櫻井靖子/日野範之  
ペドロ・パラモ 沢井あかね/岡保夫

■ 8月(夏)号 本誌 (511)

(追悼)北川荘平特集 人と作品  
はじめに——「(追悼)北川荘平」を特集するにあたって 奥野忠昭  
北川荘平のそばで 北川京子  
作品論  
「青い墓標」「白い塔」——彼の企業小説としての側面 高島寛  
「水の壁」私見——事件を描く小説の根源的課題 奥野忠昭  
北川荘平の文学——改稿の鞭 葉山郁生  
「死の形式」を読む 朝比奈敦  
再録 グリラの目 1 回転焼革命論/2 武器感覚について/4 野良  
犬革命論/6 失禁と尋ねびと 北川荘平  
追悼文  
【兄貴として】  
北川荘平・小説の鬼 福田紀一  
批評家荘平さん 川崎彰彦  
北影一さんの『第三の死』出版に奔走した頃 倉橋健一  
わたしの兄貴、北川荘平 村田拓  
北川荘平さんのこと 松岡昭宏  
北川さんの思い出 岡保夫  
忘れがたい「女人」の面影 細見和之  
【チューターとして】  
北川さんの構え方 四宮秀二  
笑顔とともに 佐久間慶子  
原稿用紙とお酒と「すかたん賞」 伊藤章一  
思い出の北川荘平先生 二見ふう  
北川チューターの思い出 泉りょう  
「文校版」"最後の文士" 小原政幸  
足跡 細部に神やどる——大阪文学学校での北川荘平さん 日野範  
之  
年譜 北川荘平年譜 竹内和夫  
詩 つながる/夏のあと/この無明の刻(とき)を 金時鐘

〈新しい書き手たち〉

小説  
黄色いバスの鳥屋 堺恵利  
君に届く月 福本ゆり  
花泡影(はなほうよう) 小西九嶺

書評

八重洋一郎詩集『トポロジー』 北川透  
富上芳秀詩集『アジアの青いアネモネ』 中塚鞠子

秀作の樹・個性の花  
童話 くまのペチル 胡桃ゆう  
小説 障子 あかね直

小説同人誌評 21 新しい口語体は可能か 佐々木国広  
詩時評 2 主題の重さ、詩の重さ 山田兼士

■ 9月号 通信教育部作品集 (512)

□研究科/小説1組  
蝙蝠 みなもとみわこ  
豚足の香り 大黒幸夫  
□研究科/小説3組  
宴の灯り 山下みゆき  
□研究科/小説2組  
アルビレオ みさき  
テニアン島まで 藤田友房  
□専科/小説1組  
黒南風の頃 宇野文衛  
□専科/小説2組  
紅注しつ… 南一  
□本科/小説1組  
取調べ 松原栄  
もがく 菊川恵美子  
天気予報 のろ純子  
不動産屋の妻 沢井あかね  
定年後の生活 打浪一夫  
□本科/小説3組  
淡彩の日々「ゆき」 黒木たえこ  
燃え尽きて 丘篤子  
□本科/小説2組  
幻影の街 平野いそ子  
□研究科/詩エッセイ  
坂のある街 西森美智子  
絶縁体 花井隆二  
デバ地下 Y・おかだ  
日は落ちてゆく 高嶋仁八  
アイさん 木坂裕子  
葉が蝶になる 加納由将  
一步 忍海貴子  
風の伝授 尾山景子  
□専科、研究科/詩エッセイ  
撰氏三十七度/5 S運動 乃木幸夫  
瑠璃瓶 岸成子  
いくさの果てに/ぐるぐる 三木もぢゅう  
五月に思う——若い女性に 中西淳子  
プラットフォーム 山口春樹  
背中 なんどうてるこ  
層かご/効能 林美佐子  
いつかやってくる日 石黒百合子  
木の名前 深山有季  
□専科/詩エッセイ  
四月 佐々木節子  
朽ちる 朽久保秀紀  
孤独なくちびる 早田真由美  
十利穴 白澤久美子  
創作 三ッ矢弘禎  
母の居場所 福山てるよ  
たわむれ やまもとゆか  
生活の中から(雫石とみに重ねて) 三分ノ一  
□本科/詩エッセイ1組  
八月十五日/トマトとキュウリとシントウと 那岐のぶよ  
歌えや 踊れや 宴は続く Yuuko  
ボタン 栗林美江子  
空を/猫は空 犬は海 谷部良一  
経過 松田和美  
鬱病 後藤麻希  
忠告 北村エリ  
小さな涙/雨に唄う 小寺俊江  
向日葵の小道 阪下ひろ子  
西へ 森有紀  
沖縄戦・集団自決をどう考えるか 豊山正貴  
エッセイのネタ 槇野博  
□本科/詩エッセイ2組

尻尾 中村国男  
虹 森美樹  
記憶 河野純子  
前の家の嫁さん 藤田悦子  
園芸店の上野さん 宮沢さえ  
飛べないところからの空 三ツ川香り  
朝 滝沢学  
土壌 スズキケンジ  
侵入者 25:00 音二  
春雷 龍樹

[再掲載] ごきぶり 中村国男  
□エッセイノンフィクション1組  
朝祐兄の供養 国吉司図子  
友への手紙 新田和子  
城ノブ物語 澤美晴  
紫花一ゆかりばな一人形の回想 岡野初枝  
こないなっつんのん 谷郷幸子  
□エッセイノンフィクション2組  
「赤ちゃんポスト」と私たち 坪井伸樹  
土浦とカレーのこと。 あまのきりん  
猫の天使 安斎千鶴  
さあ、撮りましょう 渡邊敦子

■ 10月号 入学案内書 (513)

詩 意識のそとで きむほんじゃ  
エッセイ 入学願末記 安斎千鶴  
短編 歯を埋める 佐伯晋  
在校生の声 正田真智/久保亜希子/佐原尚子/三ツ川香り/松原  
栄/武田典子/筒井佐和子/小野脩/北風英史/山田泰成  
学生委員会の活動 塩崎勝彦

■ 11月(秋)号 本誌 (514)

第9回小野十三郎賞 発表

【受賞】詩集・中岡淳一『宙家族』/詩集・長津功三良『影たちの墓  
碑銘』

【特別賞受賞】詩評論書・久保田穰『栗生楽泉園の詩人たち』

選評・金時鐘/倉橋健一/辻井喬/長谷川龍生/日高てる

第9回小野賞 一次予備選考通過『詩集』『詩評論書』

大阪文学学校創立五十周年 記念講演 私の文学人生 田辺聖子

特集 田辺聖子、その多彩な文学世界

オオサカ文学の系譜 高島寛

田辺聖子と古典文学 藪葉子

田辺聖子で読む関西文化と大阪ことば 寺田操

田辺さんのこと 眉村卓

「言い寄る」「私生活」「苺をつぶしながら」恋愛小説三部作 稲葉  
祥子

対極のヒーロー、「うたかた」の卓次と「愛してよろしいですか？」

のワタルを通して見えたもの 中川理恵

作家の良心と気迫 浜田紀子

「昭和の子ども」から「戦争独身」へ 佐久間慶子

「ロバが口をきいた……」評伝小説で発揮される本領 高田文月

あなたがよけりや、それでいいのよ「ジョゼと虎と魚たち」 中塚鞠  
子

田辺聖子の文学 葉山郁生

田辺聖子さんの大阪文学学校時代をたどる 小原政幸

特別講座 文から始まり、小説を超える 清水良典

小説 星 四宮秀二

書評

玄月『異物』 高島寛

日野範之『海の声』 木辺弘児

佐々木国広『バトンダンス』 木下正実

梅木喜寛詩集『夕陽』 古賀大助

秀作の樹・個性の花

〈詩〉

唐辛子の歌 山口春樹

標本 なんどう照子

〈小説〉

ジューンブライド 福井ゆかり

犬という毛皮 吉村真理子  
時水 加藤隆規  
きららむれあお 井上理恵  
かごの鳥 藤野志緒梨

小説同人誌評 22 野心的たるべき 佐々木国広  
詩時評 3 老いの清新、若さの憂鬱 山田兼士

■ 1 2 月号 在校生作品特集号 (515)

詩  
魚 後藤麻希  
語学講座 小池栄子  
本当のこと Y u k o  
最期まで 眞住居明代

エッセイ  
深夜勤務 鈴木幸子  
祖母と蚊帳 浮田恵

小説  
六月の雨 銚布坂大  
ブラジル・ジョーク ナカムラマゼランタロウ  
あしたみる夢 内藤祐子  
夏の匂い 文正夫  
モーニング・ウォーキング 吉澤久雄  
聖なる水を手にいれろ 武田純

編集後記 横田理恵  
表紙のことば 音二

【2008年】

■ 1 月号 通信教育部作品集 (516)

□研究科/小説3組  
月と大黒さん 石原卓  
藁の草履 桐村緋佐子  
狙ったハエは〜 細見牧代  
□研究科/小説2組  
門に立つ 田中信子  
□研究科/小説1組  
ひそやかに 山本日出子  
初秋 多紀祥子  
□専科/小説2組  
壇の祈り アソウ道幸  
若い人に負けん 松浦保  
□専科/小説1組  
天女 桑山靖子  
□本科/小説2組  
うつつの夢 大西晃代  
やもり はたらんる  
□本科/小説1組  
想い出の忘れ物 〜空〜 吉本祐子  
転職記念 香川早都子  
渡らぬ鳥 石川孝  
キツネの恩返し 江口光雄  
□小説ノンフィクション  
遺言 藤川久子  
猫 池田満子  
カルチャーシック 花野ふみ  
尿袋と帽子 浅川わたる  
□エッセイノンフィクション  
耕作放棄地 深山うずら  
森茉莉と喜多方 織田万里  
こんな女もいるんです 鈴木美保  
根っからの表現者 橘幸子  
再会 目時都  
神在月の松江にて 山内康子  
□研究科/詩エッセイ  
窓辺にて 岸成子  
狂うということーRブー 小寺俊江  
ツェッペリン伯号のこと。〜その1〜 あまのきりん  
からだの言い分 鈴木安夫

夏の猫 中西淳子  
夜の森 中村孝子  
借りる 西谷真琴  
そのときあなたは 山口春樹  
□専科、研究科/詩エッセイ  
崩れる/やがてあられる人間をまつ 石黒百合子  
QCサークルの乱/精一杯 乃木幸夫  
声色を描く 深山有季  
詰草 阪下ひろ子  
散歩 森有紀  
手紙 なんどう照子  
蛇 永田俊也  
ある風景 栗林美江子  
東京(味街道五十三次で) あおやますずこ  
腰折れ 久崎掬子  
梅にウグイス、キャベツにモンシロチョウ/知るは楽しみ 河野純子  
私の部屋/部屋の中で 三木もちゅう  
□専科/詩エッセイ  
あんころ餅 花井隆二  
夏の宵 早田真由美  
一羽の鳩 佐々木節子  
モーニングシャワー 白澤久美子  
夏・2007/東京メトロ 小坂美緒  
これも運命やわ 福山てるよ  
編集 三ツ矢弘禎  
頓馬 枳久保秀紀  
一番古い記憶 西井弥生  
小さな魔法 やまもとゆか  
□本科/詩エッセイ2組  
茄子 中村国男  
百円男 宮沢さえ  
奇妙な訪問者 矢野保子  
坊ん主(≡小僧) 龍樹  
Iさん 藤田悦子  
ひまわり 森田靖子  
重唱 森美樹  
太陽が昇る前 三ツ川香り  
下北沢 スズキケンジ  
電線のヌシ 音二  
先生の腕 滝沢学  
父へ 高田真理  
反省の話 片岡尚子  
□本科/詩エッセイ1組  
ポタンの声/白昼夢 さの道子  
行きたくない宴 Y u k o  
過去への鎮魂歌/届く場所 横井彩子  
広い世界を見るのだ 後藤麻希  
仏を吐く 北村エリ  
夕風と幸せ 藤原安子  
風が走っている/カシオペア座 谷部良一  
水門の風 茶木敏行  
山崎方代記(一)/肉体的苦しみ 那岐のぶよ  
忘れ得ぬ友 松田和美  
朝一番 中川明子  
銀箋に想いを込めて 太田嘉奈  
のぶ子、石を投げなさい 槇野博  
一人旅礼賛 星野行映  
□「読書ノート」&「ノート評」  
サンダカン八番娼館 山本佳子/音谷健郎  
雪国 桑山靖子/佐々木国広  
歎異抄 中原悠晶/日野範之

■ 2 月(冬)号 本誌 (517)

第9回小野十三郎賞受賞作品+記念講演・記念対談  
受賞作品 中岡淳一『宙(そら)家族』(抄)/長津功三良『影たちの墓  
碑銘』(抄)/久保田穰『栗生楽泉園の詩人たち』(抄)  
最終候補詩集(抄) 椎野満代『秋刀魚』/田中武『驟雨の食卓』/富  
上芳秀『アジアの青いアネモネ』/三角みづ紀『カナシヤル』/森哲  
弥『物・もの・思惟』  
記念講演 小野賞受賞後の一年を振り返って たかとう匡子  
記念対談 世代と表現——受賞作などをめぐって 長谷川龍生・倉橋  
健一  
受賞挨拶 第9回小野十三郎賞受賞者挨拶



特集 詩と詩人をめぐる対話

小野十三郎賞受賞者インタビュー 中岡淳一 【聞き手】中塚鞠子／長津功三良 【聞き手】音谷健郎／久保田穰 【聞き手】細見和之  
詩の領土を探して 四元康祐 【聞き手】山田兼士  
詩の朗読と翻訳をめぐって 谷川俊太郎 【聞き手】田原・山田兼士  
絵画創造と詩——小野十三郎詩の触発 片山昭弘 【聞き手】日野範之

詩

カタチガ危イ 日高てる  
螺旋が踊る 木澤豊  
ヒョウモンダコ 富上芳秀  
手帳から たなかよしゆき  
辿り着く 中塚鞠子  
師走のカトラン2007(その一) 八島賢太  
不運 細見和之  
宿根アサガオに覆われた壁と「ハレマ板硝子店」のある裏通り 高田文月  
草蜚蜚 川上明日夫  
夜の虹 村岡眞澄

書評

北川透詩集『溶ける、目覚まし時計』 細見和之  
細見和之詩集『ホッチキス』 季村敏夫  
たなかよしゆき詩集『涙を一滴——またはぼんくらいつび記』 佐久間慶子  
中塚鞠子詩集『約束の地』 日高てる

秀作の樹・個性の花

〈詩〉  
空から 空へ 石黒百合子  
T. E. ロレンスになった男 齊藤勝康  
曲玉月 西きくこ  
眠れない夜は 亀井真知子  
〈小説〉  
低音に誘われて よしうのけい  
ちょっと書庫まで 清水園子  
天上見学 嵐易之  
〈読書ノート〉  
丸谷オ一『樹影譚』を読んで 吉田圭

小説同人誌評 23 魔的なるもの 佐々木国広  
詩時評 4 「私」について 山田兼士

■ 3月号 通信教育部作品集 (518)

□研究科/小説2組  
子子子子、子子子子、子子子子 中野俊一  
□研究科/小説1組  
睡蓮 多岐流二  
蟬丸の墓 小室潤  
□研究科/小説3組  
夜行き列車 山下みゆき  
□専科/小説1組  
羽化 武田典子  
□専科/小説2組  
白い記憶 松原栄  
オレンジ 加川清一  
□本科/小説1組  
カフェの魔法 なかおかあきら  
ライオン岬 よねだまさし  
生きるのも大変 吉山祐子  
□本科/小説2組  
サバイバル 青木順子  
旅の思い出 新澤蒼治  
□小説ノンフィクション  
小町伝説について 豊山正真  
歩く 御園生歩  
戸惑いの街で 森ゆみ子  
白取り関! 日本一 有川三千代  
□エッセイノンフィクション  
ウトロのオモニ 橘幸子  
田ん神さー 里居美智代  
小島輝正先生…… 渋谷恭子  
「赤ちゃんポスト」の講演を聞いて 坪井伸樹

あけぼの乗車記/銀河乗車記 中西明子

耳をすまし、目をこらせば 渡邊敦子  
□研究科/詩エッセイ  
隙間 尾山景子  
踏切 忍海貴子  
縁側の闇 加納由将  
雨あがり 木坂裕子  
望郷 高嶋仁八  
ふるさとのにおい 高橋ゆかり  
流行り言葉 ほしのしほ  
受動 西森美智子  
家族の団欒 林美佐子  
叙事詩 Y・おかだ  
□専科、研究科/詩エッセイ  
義父の棧橋 阪下ひろ子  
落下傘バーバの逃亡/手品師Y 三木もぢゅう  
財布/スロープ なんどう照子  
その時/生きのびる/限界 石黒百合子  
父と海 栗林美江子  
花水木の下で/ざくろの花/眉 あおやますずこ  
うすあかい野火の一尉鶴によせて 森有紀  
サナトリウムにて/秋日和小景/娘/妻 乃木幸夫  
ペリカン 永田俊也  
散光/欲に勝てない話/トラ・ウマ・シカ 素描 河野純子  
□専科/詩エッセイ  
落ち葉 西井弥生  
会いたい 吉川市子  
野ウサギ 佐々木節子  
シナサワグルミ 花井隆二  
小さい頃 早田真由美  
思い出 福山てるよ  
雫 白澤久美子  
同窓会にて 三ッ矢弘禎  
贈り物 やまもとゆか  
□本科/詩エッセイ1組  
大掃除小 松原美来  
ああ、天火! 太田嘉奈  
山崎方代記(二)/軽老世紀 那岐のぶよ  
ピアニッシモ 横井彩子  
校長先生 北村エリ  
うさぎ/くつ さの道子  
もうすぐ 上石勢子  
体育大会 藤原安子  
インスピレーション 後藤麻希  
「ありがとう」の言葉 松田和美  
落語 茶木敏行  
はぐれちまった…… 榎野博  
一個の小石 谷部良一  
「偽」な年 Yuuko  
□本科/詩エッセイ2組  
わたしの父 藤田悦子  
ゴブラン織りの天使 森美樹  
さんま 中村国男  
ためらい 音二  
道 矢野保子  
蜂の大戦争 宮沢さえ  
思い出 三ツ川香り  
鳥 森田靖子  
絶望の底から 高田眞理  
エチュード かたおか尚子  
我が人生 滝沢学

■ 4月号 入学案内書 (519)

詩 油切れ こんでんさ男 齊藤勝康  
エッセイ 枯葉と私と缶コーヒー 鈴木美保  
短編 泥棒デビュー やまのきみどり  
在校生の声 山中大輔/高橋勇大/大國きみ子/目時都/石川孝/  
吉山祐子/みさき/中川明子/守田雪子/河崎里佳  
学生委員会の活動 塩崎勝彦

■ 5月(春)号 本誌 (520)

特別講座 「殯の森」に主役として出演して うだしげき

第二十八回大阪文学学校賞発表

【選評】高島寛／飯塚輝一／日高てる／長谷川龍生／葉山郁生／奥野忠昭

〈小説部門〉受賞作品「ブラジル・ジョーク」ナカムラマゼランタロウ

〈詩部門〉受賞作品「意識のそとで」きむほんじゃ／【佳作】「いなかの夏のおわりの夜のように」はるのとおり／【奨励賞】「鼓膜の記憶」児玉桂子

●〈エッセイ・評論・ノンフィクション部門〉受賞作品なし

特集 掌編小説の連関《体》

ふゆ椿 木下正実

さかあがり 岩代明子

二次会への道 浜田紀子

イッペーの花、狂い咲きて ナカムラマゼランタロウ

けし、けし、けし 平野千景

九月の蟬 文正夫

リバイバル 眞住居明代

水葬 稲葉祥子

拒食 津木林洋

反射する 夏当紀子

こくん 佐久間慶子

ロバート・プリン氏の動物園 眞銅孝

特集

ノンフィクションを書くために 音谷健郎

歴史のない人々の歴史 山本佳子

「戦争を知る」ために 国方勲

追悼

弔詞—木辺弘児さん 長谷川龍生

詩人、福中都生子さんのご冥福を祈る 日高てる

書評

畑中等『機を織る隔定の娘たち』 日野範之

服部満千子『伊子と資盛—建礼門院右京大夫 恋物語』 岡保夫

川上明日夫詩集『雨師』 山田兼士

木澤豊詩集『幻歌』 音谷健郎

加納由将詩集『未来の散歩』 嶺月耀平

乃木幸夫詩集『右往左往』 たなかよしゆき

秀作の樹・個性の花

《詩》

ふるへる いけだみき

喪失 野村麻利子

朝に暮る 高橋勇大

桃の木 佐々木節子

所産 花井隆二

《エッセイ》

懐かしい記憶 慎野博

母二題 浮田恵

《小説》

金色の虹 塩崎勝彦

沈殿 古井らじか

死の香り 吉田秋月

京友禅・春夏秋冬 池田満子

宝探し 柳生時実

小説同人誌評 24 詩情と面白さと新鮮み 佐々木国広

詩時評 5 名あるいは呪文の使用法 山田兼士

■ 6月号 在校生作品集 (521)

詩

石に封印する 齊藤勝康

もらわれて 灰本あかり

憂鬱な夜 石黒百合子

エッセイ

アイスクリームはお好き 内藤祐子

食う寝るところに住むところ 高原千代美

小説

蜻蛉 二上法幸

義父さんと竹林 齊藤史子

雛子 伊藤千佳子

くちづけ 早水瑠美

空蟬 横田理恵

疥癬 大新健一郎

編集後記 よしうのけい

表紙のことば 景都文月

■ 7月号 通信教育部作品集 (522)

□研究科／小説1組

微かな受容 佐伯晋

□研究科／小説3組

コッペパン 坂モドキ

□研究科／小説2組

宇奈月温泉 肥田きくゑ

ひととの終 有道喜代子

魔法の絨毯 山内常治

□専科／小説2組

蟬の殻 塩沢ゆず

□専科／小説1組

抱擁 水上ヤスコ

□本科／小説2組

糸のようにふる雨は 菅野馨子

ほどける穴子 湯村八代

愛しい娘 山下正子

事故 正木重孝

雨の日の学生会館 にいざわたかはる

□本科／小説1組

母の死 村城正史

鞍馬の天狗 鳥羽久美子

その瞳の奥 空是キノト

□小説ノンフィクション

映画を觀に 長瀬春代

解憎 脇田龍勝

山の小学校 深山うづら

□エッセイ／ノンフィクション

森茉莉と喜多方 織田万里

満州進駐のソ連軍 渋谷恭子

成らぬ鬼退治 藍りわこ

□研究科／詩エッセイ

女の子が洗濯竿に干してある 狩野雅慈

冷めてゆく耳 岸成子

死の注釈 ——孤独な放浪者の教え—— 鈴木安夫

ファミリー 西谷真琴

一月一日の攻防 林美佐子

迷える心 やまもとゆか

□専科、研究科／詩エッセイ

合歓の木揺れる 阪下ひろ子

鬼 森美樹

投擲 石黒百合子

還る風景 なんどう照子

冬の日 栗林美江子

故郷 小坂美緒

手をよごす 乃木幸夫

浮かぶ瑛瑯の黄のケトル 森有紀

Beck Yellow 中村国男

犬のこと あおやますずこ

まっばだか礼讃 三木もちゅう

小さな手作りのクリスマス会 久崎掬子

□専科／詩エッセイ

春 佐々木節子

留守番 福山てるよ

予定のない傘 早田真由美

豆腐屋のラッパ 花井隆二

雪 吉川市子

知らない花 御園生歩

相聞 太田賢

私は工場長 宮沢さえ

□本科／詩エッセイ2組

さようなら 金敏子

24色の色鉛筆 八木友子

残像 みやさかとう子

扉の向こう側 飯田有紀

石ころと海 野川アイ子

生涯 松井孝典  
「imagination」 松ともや  
残り香 戸越未央  
□本科／詩エッセイ1組  
春は来たのに Yuuko  
小さな真心 藤原安子  
黒猫Ⅰ／黒猫Ⅱ 永田恵美  
波紋 北村エリ  
モーニンググローリー（朝顔） 水野ゆうり  
坊守の四季 尼子かずみ  
声 松田和美  
回顧 榎野博  
さくらもちの花咲くころ さの道子  
煙スナップ 太田嘉奈  
わたし 後藤麻希  
□「読書ノート」&「ノート評」  
サンダカン八番娼館 森田靖子／音谷健郎

■8月（夏）号 本誌 (523)

特集 団塊の世代と文学  
団塊の世代の人たちに対する呼びかけ  
評論  
戦中最終世代から見た団塊の世代の文学 奥野忠昭  
現代日本文学の状況と団塊の世代に期待する文学 高島寛  
シンポジウム「団塊の世代に期待する文学」  
基調講演 藤本義一  
ディスカッション 玄月・尾川裕子・葉山郁生・高島寛・(司会)細見和之  
「団塊の世代の作者たち」  
小説  
「実存」の風景 朝比奈敦  
漁民列伝 四宮秀二  
詩  
うどん犬の祝福 富上芳秀  
手帳から たなかよしゆき  
消す きむほんじや

書評  
金時鐘識『再訳朝鮮詩集』 音谷健郎  
富上芳秀詩集『言霊料理』 中西弘貴  
はるのとのおる詩集『レモンしぼり』 山田兼士  
いこまみちお『ラブソディ・イン・ブルー』 高島寛  
森ゆみ子『桜月』 岡保夫

追悼 岩田直二、福中都生子、浜田知章さん 日野範之

秀作の樹・個性の花  
詩  
内側へ 山下順子  
みすてないで 信定和美  
エッセイ  
ハンメ(祖母)のことを書くために一根っこ掘りー ぱくりさ  
小説  
白の轍 加川清一  
かたすみの向日葵 田中信子  
パルナス 長友直也

小説同人誌評 25 影の領域への眼差を 佐々木国広  
詩時評 6 詩による対話とは 山田兼士

■9月号 通信教育部作品集 (524)

□研究科／小説3組  
さくら かのくさぶえ  
コオロギ 石原卓  
焦燥 刀根久  
□研究科／小説2組  
島の太鼓 勢隆二  
□研究科／小説1組  
春泥 みなもとみわこ  
ひとひらの花 加川清一  
□専科／小説1組  
百日紅 武田典子  
□専科／小説2組

母娘 のろ純子  
携帯電話 松浦保  
□本科／小説1組  
たかいたかいたかいたかい 國方學  
幸せのはじまり 吉山祐子  
赤と白の残像 空是キノト  
リョータの詩 よねだまさし  
□本科／小説2組  
こひぶみ 一顆麦  
□小説ノンフィクション  
越後の闘牛を観る 新田和子  
ビー太 後藤ゆきこ  
中平美津子の十三夜——高知の紫花人形作家の人と芸術 岡野初枝  
□エッセイノンフィクション  
老いること 山内康子  
M集落のたんかんさー (田の神様) 里居美智代  
追憶 藍りわこ  
□研究科／詩エッセイ  
影 山口春樹  
夜釣りの海 中村孝子  
尾瀬 中西淳子  
祭 ほしのしほ  
キレイのこと。 あまのきりん  
森の道 高嶋仁八  
モギ授業3 小寺俊江  
夜の電話 加納由将  
□専科、研究科／詩エッセイ  
ヒヤシンスの 森有紀  
理想の管理職 三木もぢゅう  
いなかのコーヒー 森美樹  
生還 石黒百合子  
一枚のはがき 栗林美江子  
写真の外 阪下ひろ子  
ふりそそぐがすの中で なんどう照子  
秘儀 乃木幸夫  
干物ネコ 中村国男  
居酒屋「Y」 永田俊也  
□専科／詩エッセイ  
コーヒーの香り いちのせまりえ  
みどり 佐々木節子  
草刈り 宮沢さえ  
暗闇の中で 中村行伸  
いやになった 花井隆二  
秘密のジャンプシューズ 早田真由美  
紫陽花 片岡尚子  
□本科／詩エッセイ1組  
もう悲しまないで Yuuko  
たんぼぼの綿毛 藤原安子  
ひとりごと 松田和美  
見ているよ 北村エリ  
ひみつ 後藤麻希  
三角定規 永田恵美  
わたしは… 成木理恵  
坊守の四季「夏萩」 尼子かずみ  
□本科／詩エッセイ2組  
波跡に立って 金敬子  
詩とは何か 三谷けい子  
近道のおばちゃん 飯田有紀  
霧雨 八木友子  
こいのぼり 松井孝典  
おとうと(一) 深見志保子  
ゆめの呪文 戸越未央  
黄昏 みやさかとう子  
優しいふれあい 松ともや  
不思議な猫の話 山崎由加里

■10月号 入学案内書 (525)

詩 朝 川上志諸  
エッセイ カルメンの赤いバラ 片岡尚子  
短編 春を待つ鬼 桂さなえ  
在校生の声 河田隆／山本円／菅野馨子／國方學／飯田有紀／いざわたかはる／山下正子／田中青／西森未和  
学生委員会の活動 脇健一郎

■ 11月(秋)号 本誌 (526)

第10回小野十三郎賞 発表

【受賞】詩集・小池昌代『ババ、バサラ、サラバ』/詩集・田中郁子『ナナカマドの歌』

【第10回記念特別賞受賞】詩評論書・関口裕昭『評伝 パウル・ツェラン』

選評・金時鐘/倉橋健一/辻井喬/長谷川龍生/日高てる

第10回小野賞 一次予備選考通過『詩集』『詩評論書』

特別講座 詩と小説をめぐる往還 小池昌代(聞き手)山田兼士

追悼 木辺弘児 特集

【第一部 作家と文学】

初期作品と出会いの頃 秋吉好

エントロピー的終末感と異化 高昌寛

「世紀末、(終末)への神話的警告——木辺文学の細部から読む 日野範之

【第二部 木辺文学の作品を読む】

「迷路」を選びつつける——『ラスト・パントマイム』が『海ユリの時間』につながる時 佐久間慶子

今も生死未決の時間を生きている——震災小説の意味 真銅孝

迷宮の旅人 木下正実

「詩のようなもの」とは——『ズガ池堤の家』 山田兼士

木辺弘児の「樹林」同人誌評への登場 富上芳秀

心強い援軍だった——朝日新聞「詞華の森」 音谷健郎

木辺弘児の文学——一回きりの人生の存在の謎、万有のサルガッソーの海へ 葉山郁生

【第三部 木辺弘児を語る】

直原弘道/竹内和夫/岡保夫/木澤豊/津木林洋/軽尾たか子/細見和之/松原治/神尾健三/竹内淳一郎/浜地弘子/増田まさみ/小西九嶺/鈴雅代/迫田大作/瀬戸みゆう/菱木紅/小原政幸/住田真理子/鈴木純子

木辺弘児 年譜(住田真理子 編)

森時計 第6号 編集後記より 木辺弘児

書評 宮崎祐『パレスチナに行ってきました記』 日野範之

秀作の樹・個性の花

(詩)

クラクション 花井隆二

眠るまでには 槇野博

(エッセイ)

田笛橋 田中青

(小説)

くれなゐ 河崎里佳

白桃の影に 山本憲太郎

暗闇坂 石川孝

小説同人誌評 26 狂気の種子 佐々木国広

詩時評 7 詩はどこまで拡がれるか 山田兼士

■ 12月号 在校生作品集号 (527)

詩

きりん なんどう照子

新しい空気 福山てるよ

小さなカフェで 加川清一

ブルムーン 狩野雅慈

エッセイ

忘れ得ぬ福山空襲 松本悦子

マルテの人 佐榊谷喜六(さますやきろく)

生きる ——娘が教えてくれたこと 坂本さち

小説

赤目女の涙 田中一葉

黒兵衛物語 竹田寛太郎

グッドモーニング 古井らじか

薄汗の美女 金龍淑

編集後記 脇健一郎

表紙のことば 福山てるよ

【2009年】

■ 1月号 通信教育部作品集 (528)

□研究科/小説2組

待つことのむこうにあること 玉城明子

盆の小豆 青山雨子

□研究科/小説3組

紺碧 藤野志緒梨

その次のドア 真行りあ

□専科、研究科/小説1組

サムライへの挽歌 山岡優作

□専科/小説2組

雪 和泉真矢子

猫缶 川西博

□本科/小説2組

チューブは愛し 猪野幾久子

春ウララ 野田康

九段坂 波越卓二

□本科/小説1組

Letters 長井聡子

ゆうなぎ 静香正

無題 中島詩織

□小説ノンフィクション

わたしの昭和 古川けい

敗戦放送の日 新田和子

ぼいとこせ 深山うづら

バルド・トドウル 小川依里子

□エッセイノンフィクション

西向くワナビ、定時で帰る——コールセンター・オペレーターの嘆

き節 田中クロウ

ノーサンキューと言えなくて 福田喜子

わたしのなかの春 渡利真

ゆんたく一人旅 藍りわこ

□研究科/詩エッセイ2組

縁側 加納由将

誘い水 岸成子

惚の字 高嶋仁八

お彼岸も過ぎて 福山てるよ

ぶらいど 槇野博

人生の明暗 中村孝子

□専科、研究科/詩エッセイ1組

U教授 山口春樹

背中 森美樹

一人 石黒百合子

黒の苦悩 三ツ川香り

古い本 早田真由美

空白 三木もぢゅう

葬儀委員長 乃木幸夫

そんな日にはキャベツだってきれいだ なんどう照子

極限に刻む ペンシャワール会中村哲講演会を聞いて 阪下ひろ子

ヘブンリーブルー 森有紀

鮭 木坂裕子

同居人 永田俊也

□専科/詩エッセイ2組

交通誘導員 花井隆二

呼び声 佐々木節子

秋 鶴岡礎

ゴーストタウン 宮沢さえ

時計 片岡尚子

モノと向き合う〜バッグ〜 あまのきりん

浮き立つ心 やまもとゆか

□本科/詩エッセイ2組

父 飯田有紀

ホテル 亀岡孝則

あの日 坂本圭

コトのはじめ 大月みや

眠りの丘 松ともや

犬 八木友子

ケアンズ トホホ旅 山崎由加里

□本科/詩エッセイ1組

庭の木々が太木になって 藤井千恵子

命は 石倉じゅん子

宿題 Y u u k o

悪太郎 多岐流二

蟹よ 北村エリ  
熊本 永田恵美  
線香花火 後藤麻希  
坊守の四季「盆参り」 尼子かずみ  
家紋 いさ川ゆふ  
カバーはお付けしますか? ことのはかのん  
結実 岸本敦子  
あり 成木理恵  
□「読書ノート」&「ノート評」  
樹影譚 杉岡千幸/津木林洋  
歎異抄 尼子かずみ/日野範之

■2月(冬)号 本誌 (529)  
第10回小野十三郎賞受賞作品+記念対談  
受賞作品 小池昌代『パパ、バサラ、サラバ』(抄)/田中郁子『ナナ  
カマドの歌』(抄)/関口裕昭『評伝 パウル・ツェラン』(抄)  
インタビュー 限界がきて飽和状態になって 【受賞者】小池昌代  
【聞き手】高田文月/何かを埋めるために書く 【受賞者】田中郁子  
【聞き手】中塚鞠子/ツェランという詩人の遠さと近さ 【受賞者】  
関口裕昭 【聞き手】細見和之  
最終候補詩集(抄) たかぎたかよし『四時——夜をつたう』/三角  
みづ紀『錯覚しなければ』/吉田義昭『北半球』  
記念対談 私たちの時代、私たちの文学 辻井喬・金時鐘  
受賞挨拶 第10回小野十三郎賞受賞者挨拶

特別講座 日本語の魅力、文学の面白さ 富岡幸一郎

詩  
硫黄島ひとり往く 長谷川龍生  
霓裳羽衣 日高てる  
三十六年まえの 木澤豊  
浮き雲 川上明日夫  
手帳から たなかよしゆき  
吊るされる 中塚鞠子  
呼吸 高田文月  
父と子 細見和之  
密封された世界の中で 苗村吉昭  
十一月の雨 三井葉子

追悼 追悼 井上俊夫さん 長谷川龍生/乾武俊/松岡昭宏/松尾  
亮/日野範之

書評  
竹内綾子『お遍路ウォーク』 日野範之  
高橋秀明詩集『歌ノ影』 木澤豊  
砂子屋書房版現代詩人文庫11『八重洋一郎詩集』 苗村吉昭  
奥野忠昭「日常を超える闘い 日野啓三論」 森口透  
青山雨子詩集『階段のさき』 細見和之  
早田真由美詩集『ボリジの青』 高田文月

秀作の樹・個性の花  
(詩)  
対話 はるのとおり  
断崖 河田隆  
せなか にしとおる  
(小説)  
空振り 栗林義人  
遠くに橋が見えた 田中星二郎  
夜の庭 藤野志緒梨  
小さな反抗 坂本さち  
(読書ノート)  
青山七恵『ひとり日和』を読んで 山本円

小説同人誌評 27 創作の絶頂期は 佐々木国広  
詩時評 8 詩とアフォリズムのあいだ 山田兼士

■3月号 通信教育部作品集 (530)  
□研究科/小説3組  
真理子の冬眠 小路みどり  
ハレルヤ 加川清一  
□研究科/小説2組  
姥がたり 船越恒子  
激しい雨 池戸亮太

□専科、研究科/小説1組  
かぜ台風 水上ヤスコ  
□専科/小説2組  
ロスタイム 吉田圭  
□本科/小説1組  
二十四歳 佐野詠子  
アカバナの家 比嘉ひろみ  
早春の風 のだあわぢ  
□本科/小説2組  
そして僕らは殺意を抱く 木下望太郎  
Nと独り言 湯村八代  
子宮からの手紙 まどかのん  
□小説ノンフィクション  
おでん戦争 福本ゆり  
海が見える 長瀬春代  
月の光 里野あき子  
□エッセイノンフィクション  
空っぽの穴 渡利真  
赤いフチの眼鏡の人を探して 山口美智子  
AEDミニ研修会 山内康子  
父の手帳 織田万里  
□研究科/詩エッセイ2組  
古い家 加納由将  
カフカの詩作への傾斜/渴いて候 槇野博  
小児科病棟にて 岸成子  
真夏の夜の海 中西淳子  
母の財布 福山てるよ  
風とあそぼう 高嶋仁八  
神山 中村孝子  
□専科、研究科/詩エッセイ1組  
N-グリカン 山口春樹  
生まれない子供 なんどう照子  
独裁 石黒百合子  
枯れ葉色の音楽会 阪下ひろ子  
おもちの朝ごはん 三ツ川香り  
六七年~六八年 三木もぢゅう  
赤い矢印 森美樹  
この世発あの世行き列車 早田真由美  
気球の絵葉書 あおやますずこ  
白いタオル 乃木幸夫  
四半世紀 永田俊也  
旧懐——五十四年ぶりの邂逅——(抄) 久崎掬子  
□専科/詩エッセイ2組  
授業中 佐々木節子  
寒い、あさ、捨てたもの 朽久保秀紀  
賢治とみずぐ 宮沢さえ  
帰宅 鶴岡礎  
冬の舌 花井隆二  
モノと向き合う~クツ~ あまのきりん  
マイナスの行方 片岡尚子  
地を離れて やまもとゆか  
□本科/詩エッセイ1組  
お里 藤井千恵子  
無題 成木理恵  
家は空港 岸本敦子  
はじまり 石倉じゅん子  
心に火が燃えている 北村エリ  
フランボワーズ/冷笑话 木村慶治  
さすらう 多岐流二  
これから/面白くて 楽しくて Y u u k o  
そうなんや いさ川ゆふ  
誰のための医療費か ことのはかのん  
坊守の四季「素十の横は誰」 尼子かずみ  
□本科/詩エッセイ2組  
災難 松井孝典  
記憶 山崎由加里  
過ぎてゆく みやさかとう子  
母と子 亀岡孝則  
お天気お姉さん 坂本圭  
ひやり体験 飯田有紀  
未完 荒堀伊吹  
金木犀 大月みや

■4月号 入学案内書 (531)

詩 無人自転車 中島隆  
エッセイ 成らぬ鬼退治 藍りわこ  
短編 雨男 齋藤葉子  
在校生の声 末滝葉子/坂田和子/眞淵瑤子/三木直人/波越卓二  
/里高志/盛田まり子/飯田有紀/小川依里子/有川けい/上山和音  
学生委員会の活動 脇健一郎

■5月(春)号 本誌 (532)  
特別講座 小説を書く喜びと苦しみ 奈良美那・朝井まかて [聞き手] 小原政幸

第二十九回大阪文学学校賞発表  
[選評] 高島寛/奥野忠昭/長谷川龍生/日高てる/葉山郁生/音谷健郎

〈小説部門〉受賞作品「くちづけ」 早水瑠美  
〈詩部門〉受賞作品「投擲」 石黒百合子/【佳作】「仏歯寺」 みねぎを順子/【奨励賞】「あなたはあなた」 信定和美  
〈エッセイ・評論・ノンフィクション部門〉受賞作品「走りつづけて」 山口春樹

特集《土地あるいは場の力》

詩  
暇な喫茶店 青山雨子  
不信心者の告白 三木もちゅう  
きんさん はるのとのおる  
草原のエイリアン きむほんじゃ  
掌編  
R's(アールズ) アヲキベニ  
短編小説  
ジュンケンマチ 柳生時実  
レーゲンスブルク 秋吉好

公開講座 日高てる、詩の六十年を語る 聞き手・山田兼士 特別参加・日野範之

書評  
高島寛「紅い螢」 小西九嶺  
山田兼士・細見和之編『小野十三郎を読む』 中塚鞠子

秀作の樹・個性の花  
(詩)  
透明の壁 山口春樹  
鏡 なんどう照子  
ホワイトアウト 石黒百合子  
(エッセイ)  
西向く元ヤン、かわいがり百景 田中クロウ  
残照 安西美千代  
(小説)  
ずれた点景 小西九嶺  
ざくろ 石川孝  
サラリーマン 俺様 みいみ

小説同人誌評 28 読み手を惹きつける力 佐々木国広  
詩時評 9 詩人の遺言あるいは遺言としての詩 山田兼士

■6月号 在校生作品特集号 (533)  
詩  
夜の植物 河田隆  
刈られた羊 金沢美香

小説  
えんこう(河童)淵 塩崎勝彦  
リアル 上山和音  
斬聖リバーロ 木下望太郎

編集後記 大河内理  
表紙のことば デボラ

■7月号 通信教育部作品集 (534)  
□研究科/小説2組  
佳美 小暮照

ニュー・ホライズン 第一部・混沌の時代 可野峯済  
□研究科/小説3組  
山を往く 藤田友房  
微笑のうしろ かじなしみき  
□専科、研究科/小説1組  
鳩逃がし 地場輝彦  
化粧とかおり きむほんじゃ  
□専科/小説2組  
拘置所通り (一) 目盛り 塩沢ゆず  
□本科/小説2組  
イホの袋 タケムラセン  
人工衛星、または長距離弾道ミサイル 竹内咲  
□本科/小説1組  
母子像 西山かほる  
水孔をおちる時をめぐる 香堀江津子  
理由 一川恵美奈  
とりあえず 安藤容子  
□小説ノンフィクション  
大不況の下で——私の小学校時代 新田和子  
わたしの昭和 古川けい  
波音 福井忍み子  
散歩コミュニケーション 澤美晴  
□エッセイノンフィクション  
母が倒れた 大窪純子  
高橋集落のたんかんさー (田の神様) 里居美智代  
冬の信濃路 森口順子  
一円玉 永田俊也  
春はさみしい 山内康子  
□研究科/詩エッセイ2組  
その夏のこと 片岡尚子  
色のない風 河野純子  
ちいさい愛について 佐々木節子  
春の瀬戸内海 鶴岡礎  
不安の予感 福山てるよ  
□専科、研究科/詩エッセイ1組  
夾竹桃 西谷真琴  
助ける 山口春樹  
影 石黒百合子  
校長の手 (はじめての差別) あおやますぞこ  
吾亦紅 五十嵐節子  
病人は 元気 Yuko  
記憶の源 早田真由美  
しまうま 木坂裕子  
肉体労働者哀歌 乃木幸夫  
変身 北村エリ  
文校への道 高嶋仁八  
一周忌 阪下ひろ子  
後悔、先ニ立タズ(結婚式編) 川上志諸  
□専科/詩エッセイ2組  
覗く 花井隆二  
花のきもち 中村行伸  
貪婪 松井孝典  
市民病院前 松本雅亮  
雨の日 坂本圭  
さくらの朝 みやさかとう子  
これから 上石勢子  
包み込む光であれたなら 松ともや  
坊守の四季「花の門」 尼子かずみ  
モノと向き合う〜クツ、もう一回〜 あまのきりん  
飛ぶものの心 やまもとゆか  
□本科/詩エッセイ2組  
朝 亀岡孝則  
水魚化 大野直子  
蠟梅の花 大月みや  
作られた公園 カワイノブトシ  
あなたの笑顔 山中侑子  
区切り打ちお遍路記その4一序章— 小池田香雄  
□本科/詩エッセイ1組  
私のデビちゃん いさ川ゆふ  
青春十八切符 夜鳥  
よそいき ことのはかのん  
部屋 多岐流二  
私の小さい女の子 藤井千恵子  
おかあさんへ 岸本敦子  
ルノワールの絵について 木村慶治

北国だより 木戸雅子  
黒髪 影山智佳美  
みかん のろ純こ  
とりもどせた自分 押領司孝子  
□「読書ノート」&「ノート評」  
第七官界彷徨 井口英子／中塚鞠子  
家守綺譚 上林佐弥香／苗村吉昭

■8月(夏)号 本誌 (535)

特集「木辺文学を語る」

評論

木辺文学に対する取組み 高島寛

木辺初期作品の特色と構造 奥野忠昭

中期・「ラスト・パントマイム」から震災時代の作品 音谷健郎

後期(「ズガ池堤の家」「不機嫌の系譜」「日々の迷宮」等) 倉橋健一

「木辺文学」の本質——「虚を語る力」を問う 山縣照

遺年

「たたら火」木辺弘児

家族から見た木辺弘児 住田真理子

作家論・作品論

木辺文学を語る——限界状況からの眼差し 細見和之

観察する目、凝視する目、見られる目 瀬戸みゆう

木辺文学を語る——迷宮がますます深くなって 神尾健三

木辺文学 その構造への糸口 たかぎたかよし

崩落の不安と予兆の詩——木辺弘児『海ユリの時間』 山田兼士

木辺文学——その細部の魅力 日野範之

独自の文学 洞沢純平

書評 岡野初枝『中平美津子の十三夜—高知・紫花(やかりはな)人形作家の生涯』 日野範之

秀作の樹・個性の花

詩

つむじ 上林佐弥香

人形 中島隆

アルタイ山脈 河田隆

傾かない空 亀井真知子

懐かしい場所 須藤こうさく

エッセイ

お地蔵さん 黒木康生

金メダルもらった! 藤川久子

小説

動きだす鉛筆の先 橘雪子

梅の熟るゝ日 鳥羽久美子

泳ぐ人 國方學

読書ノート

弟よ——歎異抄第四条と家族の五十三年 三井田新

小説同人誌評 29 大悲劇と大喜劇 佐々木国広

詩時評 10 詩の長さについて考える 山田兼士

■9月号 通信教育部作品集 (536)

□研究科／小説3組

憂い顔の少女 山岡優作

□研究科／小説2組

緋子 よしうのけい

□専科、研究科／小説1組

居酒屋おせん 石川山人

□専科／小説2組

蛙 和泉真矢子

□本科／小説1組

夏影 長井聡子

急行北国 竹内進

梅の実 大森まさ子

□本科／小説2組

器を映す鏡 森田有美子

霊山にて 齋藤せち

寅男さん 赤柴巴

□小説ノンフィクション

聞こえにくかった玉音放送——終戦日の頃の思い出 稲田範久

天ぶら油の花模様——初めての記憶 吉田令子

母 佐倉順

銀色のリボン 里野あき

雨喜び 深山うずら

□エッセイノンフィクション

浪子さんからの手紙 森口順子

拝啓、兄上様 華岡凜

漁港の表情——海潟漁港探訪 宮城かいこう

きょう、この頃——原風景を辿っていくと 山口美智子

昼下がり 永田俊也

□研究科／詩エッセイ2組

進化した自分 加納由将

雨の滴 小寺俊江

宿根草 ほしのしほ

駆ける女 中村孝子

野菜の王様? 宮沢さえ

□専科、研究科／詩エッセイ1組

鉄の粉を浴びながら 乃木幸夫

迷い Yuuko

早鐘 山口春樹

半開きの口は悲しく 阪下ひろ子

乖離 石黒百合子

カエルの誇り あおやますずこ

本心 北村エリ

犬飼いの記 三木もちゅう

金色のライオン 早田真由美

あくい 西谷真琴

逢いたい空色 川上志諸

富士山 高嶋仁八

済生館(山形市郷土館)を訪ねて 久崎掬子

□専科／詩エッセイ2組

私のランチタイム 坂本圭

石けり みやさかとう子

予備の時間 松本雅亮

崩壊 花井隆二

比叡 中村行伸

キッド 松井孝典

老いという友達 上石勢子

三つの課題 松ともや

モノと向き合う～お皿～ あまのきりん

坊守の四季「手」 尼子かずみ

白い霧 やまもとゆか

□本科／詩エッセイ1組

ちぎれ雲 多岐流二

朝 石倉じゅん子

同期 ことのはかのん

悩む男 岸本敦子

新嫁さん 藤井千恵子

雨のバス停 影山智佳美

小夜曲 木村慶治

自我 押領司孝子

周伯父さん いさ川ゆふ

デビー・ブーンと格闘中 のろ純こ

□本科／詩エッセイ2組

梅雨入り宣言 大野直子

いまーじゅ コイケダカオ

僕と言葉の通じないやさしい人と カワイノブトシ

宇宙ステーション 大月みや

熱帯魚 亀岡孝則

ある日 山中侑子

■10月号 入学案内書 (537)

詩 吾亦紅 五十嵐節子

エッセイ お地蔵さん 黒木康生

短編 雨ときどきグラタン皿 久保佳与子

在校生の声 中尾祐紀／鍵山朋子／久保佳与子／今北玲子／平田基

記／里野あき／森田有美子／大野直子／齋藤葉子／仲谷史子／上山

和音／脇健一郎

学生委員会の活動 大川内理

■11月(秋)号 本誌 (538)

第11回小野十三郎賞 発表

【本賞】該当作なし

【特別奨励賞受賞】詩集・岡島弘子『野川』／詩集・山口春樹『象牙

の塔の人々』

選評・金時鐘／倉橋健一／辻井喬／坪内稔典

第 11 回小野十三郎賞 最終候補一覧『詩集』『詩評論書』

特別講座 ぐつぐつ……、小説が煮えてくる～日常から生みだすもの  
～ 村田喜代子

特集 文校で書かれている文学、今、読みたい文学  
朝比奈敦 未来から突きつけられた「限界状況」  
飯塚輝一 日々是れ手探り  
石村和彦 無題  
岡保夫 大きく開く個性の開花とその下影  
奥野忠昭 文校で書かれている文学、今、読みたい文学音谷健郎 ノ  
ンフィクションが目指す新境地  
木澤豊 文学学校という場所  
四宮秀二 希望と喪失——現代文学の課題—  
高島寛 真贋の森、知られざる傑作  
たなかよしゆき 樹木の枝葉から  
津木林洋 私のクラスに臨む姿勢  
富上芳秀 詩を書くために  
中塚鞠子 書くことはもう一度生きること  
夏当紀子 提出作品概観  
苗村吉昭 「百科全書的作品」を目指して  
日野範之 我々は何処からきたのか？／我々は何者か？…  
平野千景 面白い小説とは  
細見和之 ミューズに捧げる日々の祈り  
山田兼士 小野論ノススメ 木辺弘児に即して  
葉山郁生 若い表現者はなぜファンタジーが書きたいのか

小説  
塔へ 真銅孝  
幼魚の頃 中島隆

評論  
奥野忠昭『日常を超える闘い・日野啓三論』を、ポスト・モダンの側  
面から論じる。 高島寛

書評  
国吉司図子『わたしの沖縄戦』 日野範之  
細見和之『ベンヤミン「言語一般および人間の言語について」を読む』  
関口裕昭  
山田兼士『百年のフランス詩—ボードレールからシュルレアリスムま  
で』 細見和之  
苗村吉昭『文学の扉・詩の扉』 森哲弥

秀作の樹・個性の花  
〈詩〉  
崩壊するものへ 中村行伸  
雨の歌声 坂本圭  
〈小説〉  
彼岸花 桜井さち  
跳ばない兎 二上法幸  
アーコ飛ぶ 光風朋恵  
東京キャットストリート 沢井あかね  
〈ノンフィクション〉  
「のぼちん」 高濱光

小説同人誌評 30 着地点の難関 佐々木国広  
詩時評 11 散文詩について 山田兼士

■ 1 2 月号 在校生作品集号 (539)

詩  
ウチワサボテン 大窪純子  
つややかな闇 大野直子  
穴る 岡山ふな  
インスタントコーヒーの空き瓶 鶏間樞

エッセイ  
山懐の日々 坂田和子  
約束 土井敏数  
兄の思い出 村上夏子

小説  
干潟の魚 吉富敏朗  
酒と、デンパと、私のカレン 脇健一郎  
みちるとコロ助 斉藤せち

観音 馳平啓樹  
パンチョの青い空 二上法幸  
うっちゃかれ 平田基記

編集後記 河田隆  
表紙のことば 播悦子

【2010年】

■ 1 月号 通信教育部作品集 (540)

□研究科／小説2組  
金魚 小山みえこ  
□研究科／小説3組  
潮騒の群 みさき  
こげ茶色の細い竹 刀根久  
□専科、研究科／小説1組  
浪人生活 正木重孝  
闇に吞まれて 中島詩織  
□専科／小説2組  
青色金魚 あびる諒  
□本科／小説2組  
月が笑っている 杉本絵理  
あいのうた 橋脇千枝  
ヘルパーの日々 黒木たえこ  
□本科／小説1組  
蜘蛛 一川恵美奈  
手紙を配達する猫 齋藤万壽  
ある日曜日の日記 中山洋輔  
□小説ノンフィクション  
我が心の広島カープ 山浦純  
菌(くさびら) 森ゆみ子  
□エッセイノンフィクション  
約束のテンシチショ 梅木加津枝  
ワタクシの現在 水上清  
命をつなぐ 南いつき  
歴史の生き証人 木村真理  
□研究科／詩エッセイ2組  
月とカリブー 片岡尚子  
読書 加納由将  
うれしいこと、つらいこと 小寺俊江  
明けがた 佐々木節子  
釧路 鶴岡礎  
夕暮れ 福山てるよ  
追い手 中村孝子  
待つ その一 宮沢さえ  
□専科、研究科／詩エッセイ1組  
水の音 藤井千恵子  
満月の夜 鍋を磨く 五十嵐節子  
痛み 阪下ひろ子  
樹状突起 石黒百合子  
ハゲちゃった 三木もぢゅう  
さくら あおやますずこ  
キッチンの窓から 森有紀  
「し」 Yuuko  
トタン屋根の工場 乃木幸夫  
伴走 川上志諸  
幸さん 北村エリ  
心変わり 高嶋仁八  
誕生 ほしのしほ  
□専科／詩エッセイ2組  
守り神 上石勢子  
あなた 見えませんか みやさかとうこ  
虹のむすめ 多紀祥子  
顫動 花井隆二  
ともちゃん 松ともや  
からだの一日 多岐流二  
起源 松井孝典  
特筆すべき日 坂本圭  
金魚の末裔 早田真由美  
できるかな 松本雅亮  
坊守の四季「一緒に長生きしましようね」 尼子かずみ  
遠ざかる霧 やまもとゆか  
□本科／詩エッセイ2組



ラポール 山中侑子  
無音夏 大野直子  
逃げられて コイケダ・カオ  
銀色のペダル カワイノブトシ  
紅葉の色づく街 紫苑  
Kさん 生田綾  
前途不安 笹川富喜子  
屋久島の魅力 いづみあやの  
□本科/詩エッセイ1組  
清水寺 のろ純こ  
東照宮 草野亮  
ほんとうのこと 押領司孝子  
休暇 小竹ゆい  
未完成 木本康雄  
憧れの白髪 ことのはかのん  
まあちゃんと空さんと 大越チヨ  
野菜とステーキ 稲田加代子  
枕 いさ川ゆふ  
雪中行軍悲話 木戸雅子

■2月(冬)号 本誌 (541)

第11回小野十三郎賞特別奨励賞受賞作品+受賞者インタビュー+対談  
受賞作品 岡島弘子『野川』(抄)/山口春樹『象牙の塔の人々』(抄)  
インタビュー 【受賞者】岡島弘子 【聞き手】山田兼士/【受賞者】  
山口春樹 【聞き手】中塚鞠子+細見和之  
最終候補詩集(抄) 江口節『草蔭』/倉田比羽子『種まく人の譬えの  
ある風景』/田中武『雑草屋』/森哲弥『ダーウィン十七世』  
対談 今回の小野賞と詩の現在 倉橋健一×細見和之×金時鐘  
受賞挨拶 第11回小野十三郎賞特別奨励賞受賞者挨拶

特別講座 言葉が立ち上がるとき ねじめ正一

詩+近況

味間補巖(ふがん)寺に「世阿弥」ほろりと踏む 長谷川龍生  
よこ顔 日高てる  
牙 金時鐘  
空/市電のみち 高田文月  
露草考 川上明日夫  
塔をみる夕方 菱木紅  
辿り着く(二) 中塚鞠子  
だいこんの花 松本衆司  
ノコギリの森 富上芳秀  
夏の朝の愉しみは 他三篇 たなかよしゆき  
家族の午後 細見和之  
雨降野 苗村吉昭  
小野十三郎の詩碑 山田兼士

書評

奥野忠昭「電車ともだち」 尼子一昭  
高田文月 大木一範「詩写真(仮)」 横山唯史  
山田兼士詩集『微光と煙』 四元康祐  
松本悦子『花びらを肩にいっぱい』 日野範之

秀作の樹・個性の花

(詩)  
秋陽 阪下ひろ子  
病人 Yuuko  
居酒屋和民にて 岡山ふな  
都会の片隅で 鶏間樞  
感情の冷却 笹たき乃  
仏壇 ユウコ  
(エッセイ)  
また明日ね 藤井千恵子  
(小説)  
豆腐女 湯浅友李

小説同人誌評 31 縦穴掘りか 横穴掘りか 佐々木国広  
詩時評 12 詩についての詩とは 山田兼士

■3月号 通信教育部作品集 (542)

□研究科/小説3組  
すべり台 大方 由佳

パレスチナからの誘い 山岡 優作  
□研究科/小説2組  
石露の花 山口 春樹  
□専科、研究科/小説1組  
鏡り人安さん(悪の権化) 波越 卓二  
□専科/小説2組  
御一新をゆく 三村 晃  
ハーブの夕べ 猪野幾久子  
□本科/小説1組  
月曜日が嫌い 住田真理子  
庭のマユミ 富田 晩成  
□本科/小説2組  
茶つきり娘 西土 以宇  
遠い思い出(主に父のこと) 松下 悦  
万引き タケムラセン  
□小説・ノンフィクション  
五月の出来事 寺田ふみ子  
私も女学校へ行きたい 新田 和子  
勤労学生、十月のある日 稲田 範久  
わたしの昭和 古川 けい  
内職と父の工夫 吉田 令子  
朝焼け 光風 朋恵  
□エッセイ・ノンフィクション  
夫から見えてきたもの 南 いつき  
ぎんなん やまもとむさ  
昼メシどきの世界恐慌 伴 哲二  
標高二千四百メートルの暴風雨 森口 順子  
保育所の日 山内 康子  
□研究科/詩・エッセイ2組  
やぎの運命 中村 孝子  
旅の若者 宮沢 さえ  
記憶 福山てるよ  
通勤 鶴岡 礎  
初夏のころ 佐々木節子  
てぶくろの行方 小寺 俊江  
遭遇 河野 純子  
「新しさ」 加納 由将  
□専科、研究科/詩・エッセイ1組  
オテル ニッセキ Yuuko  
鳥の葬式 あおやますぞこ  
無垢 石黒百合子  
としても 阪下ひろ子  
夢芝居 五十嵐節子  
大地に眼を落として 高嶋 仁八  
青い空の秋の陽の 藤井千恵子  
時 朽久保秀紀  
転寝 ほしのしほ  
夢かうつつか 北村 エリ  
キー合わせ 乃木 幸夫  
夕やけの駅 川上 志諸  
ある日の夢 三木もぢゅう  
□専科/詩・エッセイ2組  
母の故郷 坂本 圭  
肉芽 松井 孝典  
月夜の晩に 多紀 祥子  
秋ふかし 早田真由美  
ファイル 木村 慶治  
釘 多岐 流二  
私は書く 上石 勢子  
ヤキバノカエリ 花井 隆二  
台風暴走 みやさかとう子  
死刑台のすべり台 松本 雅亮  
坊守の四季「お取り越し句会」 尼子かずみ  
霧の先々 やまもとゆか  
□本科/詩・エッセイ1組  
ポスト 小竹 ゆい  
私のフミ友さん 木戸 雅子  
ツェーエーゲー いさ川ゆふ  
ピーピーピーピー 稲田加代子  
おひとりさまでなめこ蕎麦 ことのはかのん  
美人になりそこねた話 大越 チョ  
天上の星 押領司孝子  
コーヒーカップ のろ 純こ  
□本科/詩・エッセイ2組  
マスクの女 大野 直子

浮世根問 生田 綾  
鉛筆バトンタッチ 山中 侑子  
玄冬 富貴  
歩き遍路ふたたび一区切り打ち遍路二巡めその1ー コイケダ・カオ

■4月号 入学案内書 (543)

詩 サラダを食べる蛸 岡山ふな  
エッセイ おっぺしゃん 本多稲子  
短編 肉じゃがのレシピ 齊藤せち  
在校生の声 竹野政哉/坂元みーか/齋藤万壽/杉本絵理/奥出清典/水上清/藤井千恵子/山田功生/西濱玲子/梅田晋輔/仲谷史子/上山和音/脇健一郎  
学生委員会の活動 大川内理

■5月(春)号 本誌 (544)

第三十回大阪文学学校賞発表  
[選評]高島寛/奥野忠昭/日高てる/長谷川龍生/葉山郁生/音谷健郎  
(小説部門)受賞作品「パンチョの青い空」二上法幸  
(詩部門)受賞作品「インスタントコーヒーの空き瓶」鶏間樫/【佳作】「ミスタードーナツにて」眞住居明代/【奨励賞】「部屋」多岐流二  
(エッセイ・評論・ノンフィクション部門)受賞作品「空にもさよなら」大窪純子

短編小説特集

誕生日 美馬柚子  
おいなりさま 芦原瑞祥  
光の落ちる庭 橘雪子

ある文学学校生の日記(1959年9月~12月) 国方勲

書評

高島寛『コンドルは飛んで行く』 佐伯晋  
瀬戸みゆう『棚の上のボストンバッグ』 日野範之

秀作の樹・個性の花

詩  
飛ぶ みやさかとう子  
無聊 多岐流二  
小説  
傘の下 中尾祐紀  
遠心力 石都留果  
さようならは言わない 吉田秋月  
僕が居る風景(けしき) 由稟  
波蹄寺(はていじ) 田中青

小説同人誌評 32 物の書けないときは 佐々木国広  
詩時評 1 現代詩は面白くないか 中塚鞠子

■6月号 在校生作品特集号 (545)

詩  
11541896 鶏間樫  
あの日の雪 竹野政哉  
成長 胡桃澤伸  
ウマツラ 大野直子

エッセイ

若者に貰ったもの 梅木加津枝  
鈴虫寺 永井英美

小説

くるりくるり 大梅健太郎  
雪の叫び 田中零  
へそ 齋藤葉子  
動物園ものがたり 佐倉じゅん  
ほまれのひかり 湯浅友李  
孕 大新健一郎

編集後記 中尾祐紀  
表紙のことば 福山てるよ

■7月号 通信教育部作品集 (546)

□研究科/小説2組  
生きていた松五郎 松原 栄  
□研究科/小説3組  
同窓会 古井らじか  
帰省列車から 野田 こう  
□専科、研究科/小説1組  
早発(そうはつ) タケムラセン  
□専科/小説2組  
寒雷 竹内 進  
□本科/小説2組  
長恋歌 森本 智子  
レンアイごっこ 渡辺 恵  
□本科/小説1組  
爪切られネコ 小田切美保  
晩秋 田上さくら  
そう、大丈夫! 田口 幸子  
新車 陸奥見矢鱈  
□小説・ノンフィクション  
雲脂めしと馬穴酒 稲田 範久  
朝の光の中で 織田 万里  
いいね 山崎 純世  
映画『奇跡の人』との出会い 山浦 純  
□エッセイ・ノンフィクション  
フィンランドニア 今井 清博  
戦争の記憶 吉田 明夫  
「無事」の心掛け 檜崎 直佑  
夜明けのランニング(抄) 大窪 純子  
初詣 森口 順子  
□研究科/詩・エッセイ2組  
坊守の四季「母の自慢」 尼子かずみ  
ここにいる 加納 由将  
漂流記—ますいと共に 小寺 俊江  
夏の終わりに 佐々木節子  
墓参り 鶴岡 礎  
森深と 中村 孝子  
約束事 福山てるよ  
郵便局 松井 孝典  
還暦のお父さん 坂本 圭  
左足 宮沢 さえ  
□専科、研究科/詩・エッセイ1組  
さくらの花へ あおやますずこ  
みずかき 大野 直子  
遡及 石黒百合子  
祓 ほしのしほ  
旅から帰ると Yuuko  
空は見たたでしょうか 五十嵐節子  
春の足もと 阪下ひろ子  
ペコちゃん 高嶋 仁八  
空を飛んだヤドカリ 北村 エリ  
花岸 森 有紀  
アラカンの唄 三木もぢゅう  
天に架かる金色の 藤井千恵子  
ハイスのひびき 乃木 幸夫  
すべてが輪郭をうしなって 森 美樹  
ささくれ 後藤 麻希  
傷ついた心 押領司孝子  
続く足あと 中村 行伸  
しこぶちさん 川戸美佐子  
大阪府女医会主催の「何でも健康相談」に出席して  
久崎 掬子  
□専科/詩・エッセイ2組  
今日はピクニック 早田真由美  
裂塙 加川 清一  
さみしい鳥賊 多紀 祥子  
青島 山中 侑子  
示準化石 花井 隆二  
草上の食事 木村 慶治  
時間を葉に代えて… 松 ともや  
さくらの刻 みやさかとう子  
外恋 松本 雅亮  
霧の記憶 やまもとゆか  
□本科/詩・エッセイ2組

独立宣言 宮城 ま咲  
ポケット 生田 綾  
職業 齋藤こずえ  
助けて 富 貴  
ほとけさま 堀部 信二  
ふじゆうなころ 北山 あき  
祖父 福田 悦子  
私と子宮と夫のこと 美 和  
□本科/詩・エッセイ1組  
みみず/土ん子礼賛 草野 亮  
桜の広場 小竹 ゆい  
ブレ・スクーリングへ行こう ことのはかのん  
終の栖 いさ川ゆふ  
正体をあらわした紫式部 大越 チョ

■8月(夏)号 本誌 (547)

ノンフィクション・評論特集  
ノンフィクション  
空にもさよなら(第三十回大阪文学学校賞受賞作/エッセイ・評論・  
ノンフィクション部門) 大窪純子  
完全な演技 山口春樹  
評論  
ポール・オースター「ニューヨーク三部作」とポスト・モダニズム 高  
島寛  
ベトナム戦争体験と文体——開高健『ベトナム戦記』から『夏の闇』  
へ 佐保木流  
森の中へ——「存在」を書きつづけた詩人 八木道雄—— 佐伯晋

小説

(第三十回大阪文学学校賞佳作/小説部門) 点心橋筋商店街、古本珈  
琲茶房居眠堂 清水園子

書評

松岡昭宏『風景18』 日野範之  
細見和之『戦後の思想 カントからハーバーマスをへ』 神尾和寿  
細見和之『永山則夫 ある表現者の使命』 佐久間慶子  
平野千景『夏の蜜』 芦原瑞祥  
青山雨子詩集『暇な喫茶店』 片岡直子  
遠木順子詩集『海の よるの』 松本衆司

秀作の樹・個性の花

詩  
週5日 山田奈央子  
自由 胡桃澤伸  
夜光 坂本智子  
運転士のうた 竹野政哉  
友だち 東眞智子

エッセイ

ベゴニア 井口英子  
ポスト 小竹ゆい  
桜援花 ことのはかのん  
ハングライダー・初飛び ゆづる葉  
カサブランカの長い日 梅木加津枝

小説

キャサリン 小川いづみ  
ケロちゃん 蒔あづみ  
籠屋さん 猪野幾久子

小説同人誌評 33 光源の熱度 佐々木国広

詩時評2 定型から何を学ぶか 中塚鞠子

■9月号 通信教育部作品集 (548)

□研究科/小説3組  
狐 小澤 房子  
□研究科/小説2組  
みどり 有道喜代子  
生きめやも 安部 洋子  
□専科、研究科/小説1組  
ブゼラを撃つ 吉田 圭  
空からやってきた青い目の猫 今北 玲子  
□専科/小説2組  
蘇鉄の日 久里 しえ  
□本科/小説1組

祈りの果て 西 清治  
苦い報酬 落合 渉  
□本科/小説2組  
蛍 藤 あけみ  
メッセージ 柴 みちこ  
群像 梅田 晋輔  
□小説・ノンフィクション  
私の女学校時代 新田 和子  
わたしの昭和 古川 けい  
母三題 吉田 令子  
眠れぬ一夜 寺田 ふみ  
梅を干す 深山うずら  
ポトスの影 田菜 愛  
□エッセイ・ノンフィクション  
先生から教わったこと 南 いつき  
おはぎ 木村 眞理  
監督 永田 俊也  
祖父・おじいちゃん やまもとむさ  
高潔なる汗 伴 哲二  
保育所からのモーニングコール 安藤やすこ  
□研究科/詩・エッセイ2組  
海辺の町に歌声は流れる 坂本 圭  
喫茶 松井 孝典  
テレビ 鶴岡 礎  
母のつぶやき 福山てるよ  
井戸の底 加納 由将  
緑の目薬 小寺 俊江  
ひとり暮らしとペット 宮沢 さえ  
坊守の四季「凡人道」 尼子かずみ  
ギプスの桃の木 佐々木節子  
五月の音 中村 孝子  
□専科、研究科/詩・エッセイ1組  
夜の扉 Y u k o  
最下層で 乃木 幸夫  
モノクローム・ヒロシマ 阪下ひろ子  
沈黙の果実 森 美樹  
恐竜の飼い方 大野 直子  
もののけ ほしのしほ  
パニック発作 後藤 麻希  
被疑:窃盗 ノン・ニヤット 石黒百合子  
売家 北村 エリ  
赤と空に 高嶋 仁八  
春の一日 中村 行伸  
ふつう 真木くるみ  
繋ぐ 藤井千恵子  
朝の口ぐせ 三木もぢゅう  
河童の川太郎 川戸美佐子  
春光——米寿と喜寿を祝いて—— 久崎 掬子  
□専科/詩・エッセイ2組  
六月六日の蛍 花井 隆二  
とわのき 多岐 流二  
小さな勝利者 山中 侑子  
東京、——いま 加川 清一  
元栓 みやさかとう子  
野辺送り 多紀 祥子  
愛証 早田真由美  
壮大なパノラマは誰がために… 松 ともや  
ジャズ 木村 慶治  
念仏を廻向して——父の死 松本 雅亮  
心の手触り やまもとゆか  
□本科/詩・エッセイ1組  
たてとよこ 百藤 杏  
どくだみの花 もねこ  
泥棒 小竹 ゆい  
はなかつみ いさ川ゆふ  
親父は絶滅したのか ことのはかのん  
診療所の待合室で 大越 チョ  
怪物 草野 亮  
□本科/詩・エッセイ2組  
わたしのちかごろ 北山 あき  
カラス 齋藤こずえ  
こどもの役 宮城 ま咲  
おっさん 堀部 信二  
手紙 佐藤 美和  
十月のタンポポ 福田 悦子

■ 10月号 入学案内書 (549)

詩 孫の話は書くなというけれど 北山あき  
 エッセイ 夏みかん 太田垣義明  
 短編 ふつん…… 大沢綾子  
 在校生の声 野口由美/諸隈仁美/久里しえ/森光恵/竹内咲/山崎純世/山本晃士/稲村武久/山田奈央子/上山和音/脇健一郎  
 学生委員会の活動 河田隆

■ 11月(秋)号 本誌 (550)

第12回小野十三郎賞 発表  
 【受賞】詩集・三井喬子『青天の向こうがわ』  
 【特別賞】詩評論書・季村敏夫『山上の蜘蛛—神戸モダニズムと海港都市ノート』  
 選評・金時鐘/倉橋健一/小池昌代/辻井喬/坪内稔典  
 第12回小野十三郎賞 最終候補一覧『詩集』『詩評論書』

川崎彰彦追悼特集——作家論、作品論、偲々  
 この人 鶴見俊輔  
 川崎彰彦の《罪》と《跋》 五木寛之  
 長谷川四郎さんのこと/ビールとソーダ水 川崎彰彦  
 【作家論】  
 川崎彰彦の世界——ブリリアントとニルアドミラリ たなかよしゆき  
 川崎彰彦というひとがいた 広岡一  
 棕櫚とトンビ 四宮秀二  
 川崎彰彦さんと新日本文学 日野範之  
 最後の乾杯—同人雑誌をめぐる— 島田勢津子  
 【作品論】  
 『まるい世界』のまるくない表現 奥野忠昭  
 『夜がらすの記』をめぐる 高島寛  
 『わが風土抄』と『冬晴れ』 葉山郁生  
 「ドライ・ハードネスを求める」 野口豊子  
 在庫有——川崎彰彦著 編集工房ノア刊行本 九冊 酒沢純平  
 『ぼくの早稲田時代』にみる学生気質 小原政幸  
 【川崎彰彦偲々】  
 川崎彰彦さんのこと 松岡昭宏  
 私が出会った頃 倉橋健一  
 サラリーマン青西敬助氏 太田和雄  
 川崎彰彦さんへの追悼文 岡保夫  
 文校「組会」で出会った川崎さん 高田文月  
 ひまわり祭のころ 松田伊三郎  
 川崎さん、ゴメンナサイ。 大江耀子  
 バナナの木の下で山羊を飼おう 当銘広子  
 川崎彰彦略年譜

小説  
 難波寺(なにわじ)の池(いけ) 響トオル  
 巡礼版・雨の時代の道化たち(上) 葉山郁生

追悼 速水智也子さん——花を歌いつづけた詩人 日野範之

書評 山田兼士『谷川俊太郎の詩学』・『詩の現在を読む』 時里二郎

秀作の樹・個性の花  
 詩  
 ジブシー・ピエロ 花井隆二  
 海 竹島浩一  
 大イチョウ 後藤順  
 小説  
 陽炎(かげろう) 奥出清典  
 初心者者の恋 仲谷史子

小説同人誌評 34 生のバラスト 佐々木国広  
 詩時評 3 現代詩は難解か? 中塚鞠子

■ 12月号 在校生作品特集号 (551)

詩  
 graph 小田垣大志  
 蜆 堀内美希  
 犬 なんどう照子

エッセイ  
 〈選外奨励作〉  
 きつねうどん 安西美千代

小説  
 壁と壁の間の子 東恵未  
 声援 馳平啓樹  
 M 上山和音  
 A T 吉田圭

編集後記 中尾祐紀  
 表紙のことば イチサ

【2011年】

■ 1月号 通信教育部作品集 (552)

□ 研究科/小説1組  
 霧の中の光芒 小暮 照

□ 研究科/小説2組  
 月見 多岐 流二  
 隣家 山下みゆき

□ 専科、研究科/小説  
 曇りときどき晴れ 齊藤 せち

□ 専科/小説  
 父のゆくところ 香堀江津子  
 夜汽車 竹内 進

□ 本科/小説2組  
 チーズが嫌いで、カルピスが好きな人 東 恭代  
 そうめんかぼちゃ 嶋津壽々子  
 神山家の人人 松下 悦

□ 本科/小説1組  
 山門にて 河合 久雄  
 猫 水井 吉郎  
 欠け月 平樹 直  
 車内の事件 西 清治

□ 小説・ノンフィクション  
 「ゆう」へ 小野打数重  
 沖縄へ 藤川 久子  
 お参り百景(一) 美恵ちゃんの死 稲田 範久  
 バルド・トドル(二) 東京の風 小川依里子

□ エッセイ・ノンフィクション2組  
 ワーキングプアと生活保護者 山中 侑子  
 二十二歳になった次男 南 いつき  
 よっしーのてつがく よっしー

□ エッセイ・ノンフィクション1組  
 野良犬回想録 大西 敏夫  
 八十八歳の高校生 大越 チョ  
 新「生きる」・極寒シベリアで生き抜いた男 大山 学  
 恋するように本と ことのはかのん  
 先生のこと 笹木美智子

□ 専科、研究科/詩・エッセイ1組  
 大好きなお母さん 石黒百合子  
 箱 森 美樹  
 槿の花 阪下ひろ子  
 父さんを焚べる 五十嵐節子  
 グラジオラス 大野 直子  
 詩を作る機械 三木もちゅう  
 あの日から 栗林美江子  
 何処で眠る? 北村 エリ  
 球と語る 高嶋 仁八  
 みがき 乃木 幸夫  
 LOOK AT ME!! 後藤 麻希  
 仕事 ほしのしほ  
 フォトン クワァンタム Yuuko  
 5月 齊藤 勝康  
 八幡宮にて 中村 行伸  
 ねぎぼうずに会いたい 真木くるみ  
 秋 藤井千恵子  
 永遠のまぼろし 松本 雅亮  
 一枚のカード——カバヤ文庫を訪ねて 川戸美佐子

□ 専科、研究科/詩・エッセイ2組

縁の下の力もち 宮沢 さえ  
思考の間 佐々木節子  
正義の味方 鶴岡 礎  
アメの心遣い 小寺 俊江  
坊守の四季「秋裕」 尼子かずみ  
帰還 加川 清一

私は歌いたい 坂本 圭  
春の穴 加納 由将  
あの人の話 木村 慶治  
詩を書く 中村 孝子

□本科、専科／詩・エッセイ

ピアス 高樹 紫音  
知らない男 山口まさこ  
かんじょう 竹野 政哉  
詩を書く姿勢 早田真由美  
冬夜 みやさかとう子  
一ミクロンの疼き 百藤 杏  
おむすび 小竹 ゆい  
蜘蛛 永田 俊也  
どくだみ 稲田加代子

□本科／詩・エッセイ

成長 斎藤こずえ  
南無阿弥陀仏を唱えてみようか 北山 あき  
オモチャ 宮城 ま咲  
国境の町・ゴリーツァ 中村真生子  
月を見上げる 石垣早知子  
涙の発作 中山まどか  
街灯 濱野聡一郎  
胡瓜のしっぽ 蒔 あづみ  
Dolphin 福田 悦子  
風呂屋 堀部 信二

■2月(冬)号 本誌 (553)

第12回小野十三郎賞受賞作品+受賞者インタビュー+対談  
受賞作品 三井喬子『青天の向こうがわ』(抄)／季村敏夫『山上の蜘蛛』(抄)

インタビュー 【受賞者】三井喬子 【聞き手】富上芳秀／【受賞者】  
季村敏夫 【聞き手】細見和之  
最終候補詩集(抄) 金堀則夫『神出来(かんでら)』／北川朱実『電話  
ボックスに降る雨』／平岡敏夫『蒼空』／松岡政則『ちかしい喉』  
公開インタビュー 私にとっての小説と詩 辻井喬／葉山郁生／細  
見和之

対談 小野賞の選考委員にくわわって 小池昌代／山田兼士  
受賞挨拶 第12回小野十三郎賞受賞者挨拶・贈呈式来賓挨拶

詩+近況

花影 倉橋健一  
その秋 細見和之  
ムテキ 菱木紅  
地中のソネット 中塚鞠子  
ふろやの、ゆ 高田文月  
里の秋 松本衆司  
サガンの町 富上芳秀  
蜘蛛御殿。フーッ 極楽 たなかよしゆき  
トワ村の朝から夜へ 木澤豊  
羽衣伝説 苗村吉昭  
萩原朔太郎の詩碑 山田兼士  
驟の雨 川上明日夫

書評

葉山郁生『黄昏のスワンの不安』 岡保夫  
竹内和夫『酩酊船冬の海図』 日野範之  
八重洋一郎詩集『白い声』 細見和之  
金時鐘四時詩集『失くした季節』 高田文月  
麦朝夫詩集『どないもこないも』 松本衆司  
丁海玉詩集『こくごのきまり』 季村敏夫  
小池昌代『わたしたちはまだ、その場所を知らない』 山田兼士  
佐々木国広『抱卵期』 佐保木流

秀作の樹・個性の花

(詩)  
見送り 堀内美希  
ピンク風景 かのう  
光の果 武藤伸夫

(小説)

ヘッドライト 諸隈仁美  
幹に刻む 長瀬春代  
海辺の小石 越昌幸  
鯉を飼っていたひと 小山みえこ  
ツバスのために 吉田圭

小説同人誌評 35 作品に酔うとは 佐々木国広  
詩時評 4 現代詩の挑戦 中塚鞠子

■3月号 通信教育部作品集 (554)

□研究科／小説2組

ぎんなん(2) やまもとむさ  
空白の島と、ハザマダ プンガク 木下望太郎

□研究科／小説1組

橋 船越 恒子

□専科、研究科／小説

アカネと月子 住田真理子

□専科／小説

シャッターチャンス 梅田 晋輔  
林檎 和泉真矢子

□本科／小説1組

わたしが見た空の青 河合 久雄  
千恵の場合 田口 幸子  
ピンダレ 水井 吉郎

□本科／小説2組

桜の庭 藤島さくら  
靡の沢 高樹 大至

□小説・ノンフィクション

戦火——小さな青い芽 寺田 ふみ  
黙っている父 岡野 初枝  
眼科よもやま話 織田 万里  
だいじょうぶ 山崎 純世

□エッセイ・ノンフィクション1組

尋ね人 いさ川ゆふ  
発想の転換——家政婦は見た 大越 チョ  
大人の社会科 大西 敏夫  
男木島 森口 順子

□エッセイ・ノンフィクション2組

料理はパパッと作らない 磯村 文代  
ジレンマ 南 いつき

ウォーキング 山中 侑子

□専科、研究科／詩・エッセイ2組

『荒野の老馬』と夫 宮沢 さえ  
駅に向かう 佐々木節子  
坊守の四季「父」 尼子かずみ  
手伝い 坂本 圭  
アルミ缶あらい 小寺 俊江  
F氏のネガ 木村 慶治  
もう一つの影 加納 由将  
ごちそう 鶴岡 礎  
この国の普通の人々 加川 清一  
道 河野 純子  
心の色 中村 孝子

□専科、研究科／詩・エッセイ1組

そば屋にいて 森 美樹  
天空自転車 Yuuko  
ふくろ 大野 直子  
遡上 石黒百合子  
サイレン 乃木 幸夫  
朝日と落陽 高嶋 仁八  
塩 栗林美江子  
雪女 川戸美佐子  
不眠症 中村 行伸  
会いたい、でも会わない 北村 エリ  
縄文 斎藤 勝康  
なんでやねん大阪 三木もちゅう  
発掘 真木くるみ  
釣り堀のあった帰り道 松本 雅亮

□本科、専科／詩・エッセイ

鳶の声(アスペルガーの詩) 竹野 政哉  
鏡のなかの少女 みやさかとう子  
葡萄 小竹 ゆい  
聞こえてくる 百藤 杏

舌平目 多紀 祥子  
初冬(その一) 永田 俊也  
私はあらぐま 早田真由美  
晩秋 高樹 紫音  
ハサミの神様 山口まさこ  
□本科/詩・エッセイ  
いぬのさんぼ 堀部 信二  
しょうが湯 宮城 ま咲  
空っぽ 斎藤こずえ  
暑いんですけど 蒔 あづみ  
こんなことあんなこと 北山 あき  
手 佐藤 美和  
エトワール 石垣早知子  
背負うべきもの 中村真生子  
憧れ 福田 悦子  
階段 中山まどか  
あの冬の日 濱野聡一郎

■4月号 入学案内書 (555)

詩 見送り 堀内美希  
エッセイ リブ・ウルマンと平和賞 山本二郎  
短編 癖 堺恵利  
在校生の声 東恭代/宮武和子/高橋淳/三井陽一/小田切美保/  
大山学/木下昌輝/山下しょう子/上山和音/脇健一郎  
学生委員会の活動 河田隆

■5月(春)号 本誌 (556)

特別講座 書くことの意味〜俳句を中心にして〜 坪内稔典

第31回大阪文学学校賞発表

[選評]高島寛/奥野忠昭/日高てる/長谷川龍生/葉山郁生/音谷健郎  
(小説部門)受賞作品「M」上山和音  
(詩部門)受賞作品「弔いの木」大野直子伊/【佳作】「犬」ななと  
う照子/【奨励賞】「井戸の底」加納由将  
(エッセイ・評論・ノンフィクション部門)受賞作品「うちの新米」  
深山うずら

小説  
あるかあらぬか 佐伯敏光  
墓じまい 小西九嶺  
静かな砲声 鶴谷真

書評  
豊山正貫・豊山妙子『俳句と写真 四季の風』 日野範之  
呉世宗『リズムと抒情の詩学——金時鐘と「短歌の抒情の否定」』 音谷健郎  
渋谷卓男詩集『雨音』 細見和之  
Yuuko 詩集『欠けたヴィーナス』 松本衆司  
比嘉妙子『母の教訓』 富上芳秀  
ななと照子詩集『夜の洪水』 中塚鞠子  
細見和之詩集『家族の午後』 山田兼士

秀作の樹・個性の花  
(詩)  
烏葬(うそう) 山崎啓治  
青い夜 亀井真知子  
ストロー 大野直子  
母の声 森美樹  
犬になる 三木もちゅう  
遠近法 河田隆  
みさかい 坂元みーか  
墓参り 武藤伸夫  
月の陰 坂本智子  
羽根の音 河上政也  
(エッセイ)  
家 堀井桃香  
隣人三題 井田久子  
(小説)  
農場の女 藤田友房

小説同人誌評 36 書きたい事を好きな様に 佐々木国広  
詩時評 5 何が書きたいか 中塚鞠子

■6月号 在校生作品特集号 (557)

詩  
新陳代謝 山田奈央子  
野生 胡桃澤伸

エッセイ  
踊り場からの風景 原田通子

小説  
刑夢所の朝 木下昌輝  
父の復讐 橋雪子  
籠の中 斉藤せち  
欠け月 平樹直

編集後記 坂元美佳  
表紙のことば 山崎純世

■7月号 通信教育部作品集 (558)

□研究科/小説1組  
一心寺へ 三村 晃  
まわる私 吉井 桜  
□研究科/小説2組  
雨上がり 井上 響  
朝風の川 竹内 進  
□専科、研究科/小説  
桜 平樹 直  
□専科/小説  
会場の外 森本 智子  
海難事故 落合 渉  
□本科/小説2組  
飛火野へ 淡路 霞  
GRACE 藤島さくら  
□本科/小説1組  
失恋を忘れるまえに 林田 祐佳  
誰にも見えない 岡田 牧子  
□ライトノベル  
要らない人間と初恋の白い花 阪口 亮  
□小説・ノンフィクション  
昭和のパチンコ店物語 山下 とも  
新しい地での忘年会 藤川 久子  
結婚譚 後藤 利巳  
□エッセイ・ノンフィクション2組  
生きる歓び 南 いつき  
母との同居・考 中村 智子  
しあんくれーる 山根 悠謳  
忘れ得ぬ人 磯村 文代  
□エッセイ・ノンフィクション1組  
樂觀という悪癖 段 純恵  
結婚を経てわたしが思ったこと 笹木美智子  
自身の行方 ことのはかのん  
銭湯を知っていますか いさ川ゆふ  
2011年7月24日に向かって 地デジ推進スタ  
ー草薨剛の失速と復活とともに 水上 清  
□専科、研究科/詩・エッセイ1組  
台所のカフカ/樹 大野 直子  
きれいな台所 森 美樹  
桜のとき 佐々木節子  
通学路 栗林美江子  
あの子 早田真由美  
私の猫ちゃん Yuuko  
私の会ったコガネムシ 川戸美佐子  
空で 北村 エリ  
食卓 いちのせまりえ  
潮騒の石 山口 春樹  
すれすれ ななと照子  
やぐるま菊 遠木 順子  
目覚めの時 奥西 紀子  
春なのに 高嶋 仁八  
さくら 山中 侑子  
春の経験 中村 行伸  
楠並木 真木くるみ  
三月十四日 鶴岡 礎

ブラセボ 宮城 ま咲  
コスモス 藤井千恵子  
□専科、研究科/詩・エッセイ 2組  
私のこだわり 北山 あき  
…の特殊な 木村 慶治  
夏の朝 坂本 圭  
しろ 小寺 俊江  
不謹慎 松井 孝典  
ゴミ箱に 加納 由将  
坊守の四季「母の巻頭句」 尼子かずみ  
マンホール 加川 清一  
桜花の道しるべ 中村 孝子  
□本科、専科/詩・エッセイ  
春のぼけっと 多紀 祥子  
動いた唇 みやさかとう子  
サーカスの青年 宮沢 さえ  
真昼の星屑 高樹 紫音  
合評会 百藤 杏  
ぜっぺき頭 三木もちゅう  
もう何も望みません 堀部 信二  
美しい不幸者 榎野 博  
いちごの花 山花 智子  
骨折 永田 俊也  
□本科/詩・エッセイ  
ズレ 利光 康子  
春 濱野聡一郎  
腕の悪い職人 乃木 幸夫  
今夜は食べてて 蒔 あづみ  
生きながらビートに葬られて 河合 久雄  
伝播 まちのあまこ  
今日の私は 石垣早知子  
車間距離 青天目起江

■8月(夏)号 本誌 (559)

学生作品集  
詩  
イヴの末裔 山本二郎  
消しゴムの虚(きょ) 山崎啓治  
間もなく 西から 宮地浩子  
いつか 宮浦久子  
ささやき 野里あざみ  
振動 湖中ちいか  
ルーシー 堀内美希  
ロングロングカレンダー ユウコ  
アシンメトリー 山田奈央子  
歩み かのう  
ねこ 坂元みーか  
樹と私 河田隆  
「またな。」 四辻貴子  
さくら 二〇一一年三月 まつおかずひろ  
冬の旅 西野赤  
小説  
ハーヴェスト 高原ちよみ  
音信(おとずれ)の夏 福田じゅん

書評  
久本洋文『海辺の四季』 三原后代  
古川けい わたしの昭和『月夜のチョコレート』 日野範之

秀作の樹・個性の花  
詩  
夜行 なんどう照子  
エッセイ  
邂逅(かいこう) 大越チヨ  
お参り百景 稲田範久  
小説  
十月十日(とつきとおか) 浜本愛美  
猫養い やぎみわ  
雪地蔵 耽羅沢(たんなさわ)こうぞ

小説同人誌評 37 傑作の条件 佐々木国広  
詩時評 6 なぜ書くのか 中塚鞠子

■9月号 通信教育部作品集 (560)

□研究科/小説 2組  
恋愛保険に入りませんか 古井らじか  
蟹 タケムラセン  
□研究科/小説 1組  
奈良県 天理市長選挙に私が立候補! 落選する(思い出)~自分  
史~ 藤本昭広  
食卓 浅井梨恵子  
□専科、研究科/小説  
お当人 吉田 圭  
□専科/小説  
鎌倉の叔父さん 藤田 友房  
□本科/小説 1組  
父からの便り 水井 吉郎  
プチネックレス 三島 葉子  
□本科/小説 2組  
父の死に際 北 みちこ  
娘と私 松下 悦  
□小説・ノンフィクション  
クラブー県ランタ島旅行記 小野打数重  
足音 関谷 直樹  
お参り百景(八) 大食漢 稲田 範久  
ロールシャッハ・テスト 古川 けい  
いつのまにか継母になって 織田 万里  
□エッセイ・ノンフィクション 1組  
オーストラリア旅行から時間を経て 笹木美智子  
恩師 今井 清博  
□エッセイ・ノンフィクション 2組  
「故郷」と私 永井 英美  
学生アルバイト 南 いつき  
福岡、私のあれやこれや 中村 智子  
夢幻(ゆめまぼろし) 寺田 ふみ  
『野ざらし紀行』近江の旅 山根 悠誼  
□専科、研究科/詩・エッセイ 2組  
下界 佐藤 美和  
詩を書くようになった日 加納 由将  
坊守の四季「濃紫陽花」 尼子かずみ  
ヘイヴァン 木村 慶治  
仰向けの空 西本 恵  
蝉よ鳴け 松井 孝典  
目覚め 加川 清一  
母の絆 中村 孝子  
母 坂本 圭  
今の旬は フキとゴボウと鯛! 小寺 俊江  
六月の泪 北山 あき  
□専科、研究科/詩・エッセイ 1組  
霧から 森 美樹  
ペルシャさん 宮城 ま咲  
笑顔スクラップブック 早田真由美  
それから 栗林美江子  
地球の芯へ なんどう照子  
ブレドニンと酸素ボンベ Yuuko  
イエティ 山口 春樹  
そして一夏一 山中 侑子  
夏の牡蠣 いちのせまりえ  
ラーメン・塩 佐々木節子  
母 藤井千恵子  
風景 奥西 紀子  
ピクニック 北村 エリ  
夢 高嶋 仁八  
ダメ人間のつくり方 真木くるみ  
スパイラル 中村 行伸  
禁煙と原発 鶴岡 礎  
□本科、専科/詩・エッセイ  
稲妻 堀部 信二  
オアシス 高樹 紫音  
海辺の記憶 みやさかとう子  
ごちそう 百藤 杏  
アプレゲール 三木もちゅう  
六月の雨 多紀 祥子  
祈願 万年青 一  
一本の杖 宮沢 さえ  
台所 山花 智子  
雨天順延 永田 俊也  
□本科/詩・エッセイ

パッチワーク (つぎはぎ) 人生 乃木 幸夫  
嘆く若者 蒔 あづみ  
盲点の夢 濱野聡一郎  
みどり色の宝玉 利光 康子  
緑の涅槃図 青天目起江  
おとぎばなしの入り口で か や  
小さく小さくなって 石垣早知子  
わたしの漂流紀 河合 久雄

■ 10月号 入学案内書 (561)

エッセイ 満天の星 山下とも  
詩 博愛主義者の唄 湖中ちいか  
短編 遥碧 二宮康彦  
在校生の声 林田祐佳/藤井千代江/大枝良子/山林誠一郎/高村  
美惟子/善積健司/小野打数重/織田万里/みづきとうこ/上山和  
音/脇健一郎  
学生委員会の活動 野神有虹

■ 11月(秋)号 本誌 (562)

第13回小野十三郎賞 発表  
【受賞】詩集・谷元益男『水源地』  
選評・金時鐘/倉橋健一/辻井喬/小池昌代/坪内稔典  
第13回小野十三郎賞 最終候補一覧『詩集』『詩評論書』

眉村卓特集——SF・ジュブナイル・ショートショート・ファンタジ  
ー

眉村卓特集にあたって 葉山郁生  
小説  
『日課・一日3枚以上』1778話(抄) 眉村卓  
評論  
「消滅の光輪」における内省的な世界 真銅孝  
あのとこのぼくはどこにいるのだろうか—眉村卓『夕焼けの回転木馬』  
谷山淳彦  
「眉村卓の散文詩 remix」について 山田兼士  
二〇一一年に読むジュブナイル小説 真弓創

文章講座特集

詩の連続講座をつづけて—しなかったこと、できなかったこと— 細  
見和之  
記憶は思考より深いところにある 佐久間慶子  
夜の文章講座全十五回 葉山郁生

書評

たなかよしゆき詩集『夏の朝の愉しみは』 たかはしまさし  
現代詩文庫 川上明日夫詩集 佐久間慶子  
たけむらせんじ・文 おおともやすお・絵『いちばんでんしゃの し  
ゃしょうさん』 日野範之  
桑山靖子『能面』 小野英一  
小野打数重『川の流れるように』 日野範之

秀作の樹・個性の花

詩  
簫々(しょうしょう)記 万年青一  
小説  
trip 赤井琢磨  
あかね色 折合総一郎  
劉連仁の記憶(「青島にて」十章) おさ・みのる

小説同人誌評 38 未来の小説 佐々木国広  
詩時評 7 詩に求めるもの 中塚鞠子

■ 12月号 在校生作品特集号 (563)

詩  
熱 堀内美希  
夏蜘蛛に会う 湖中ちいか  
大丸北館にて 坂元みーか  
インドの夏の昼下がり 奥西紀子

エッセイ

アジサイの咲く家 山本彰子  
納豆 山根悠謔

小説

〈一人一作制度により掲載決定〉  
無念塚 竹田寛太郎  
〈選考会により掲載決定〉  
誰にも見えない 岡田牧子  
黄色い海 田島加那  
パレイドリア 古井らじか  
海の響き 早川俊

編集後記 河田隆

表紙のことば イチサ

【2012年】

■ 1月号 通信教育部作品集 (564)

□研究科/小説1組  
だんだんの里 小山みえこ  
恋と人形 久世 空気  
□研究科/小説2組  
巡り会い 南 いつき  
奥穂高岳山行 森田 哲司  
□専科、研究科/小説  
竜宮 平樹 直  
□専科/小説  
光 塚 恵利  
□本科/小説2組  
有情 沙羅 激明  
自転車屋 野上 史郎  
□本科/小説1組  
道 水野 由子  
響く音の想い 植田 陽子  
□ライトノベル  
メッセージ・ガール 阪口 亮  
□小説・ノンフィクション  
ぺんぺん草 一戦前戦後を生きた少年の物語—  
草野 亮  
行水と風呂 井田 久子  
早く、浪江の家さ、帰ってえ 織田 万里  
□エッセイ・ノンフィクション2組  
カラオケ三昧 山根 悠謔  
それぞれの帰郷 古川 けい  
キンモクセイ 段 純恵  
すてきなお父さん 藤川 久子  
日の丸の小旗 川勝れい子  
母の転院 中村 智子  
□エッセイ・ノンフィクション1組  
別れのかたち ことのはかろん  
戦地からの葉書 中西 淳子  
紅花の記 いさ川ゆふ  
友達 大越 チョ  
意味のある偶然 森口 順子  
□専科、研究科/詩・エッセイ1組  
くちびるのかたち いちのせまりえ  
金木犀 なんどう照子  
さよちゃん 早田真由美  
CTの問題 Y u k o  
りんご 森 美樹  
卵塊 大野 直子  
銀月アパート 佐々木節子  
闇に見る 山口 春樹  
兎と亀 高嶋 仁八  
息子の選択 山中 侑子  
縛り 真木くるみ  
母の仕立て台 栗林美江子  
ケンカする 宮城 ま咲  
フル・コース 北村 エリ  
幸福の果実 濱野聡一郎  
がんばろう日本? 鶴岡 礎  
医者条件 加川 清一  
□専科、研究科/詩・エッセイ2組  
スイカ 藤岡 康司  
食いしんぼう 佐藤 美和  
後ろ姿 にしもとめぐみ



本望 松井 孝典  
 坊守の四季「下宿人」 尼子かずみ  
 私の歩く 北山 あき  
 母 坂本 圭  
 幻 加納 由将  
 フィーライン 木村 慶治  
 夕日と月 中村 孝子  
 □本科、専科／詩・エッセイ  
 元栓 花井 隆二  
 台所 堀部 信二  
 歩兵の夢 三木もぢゅう  
 コスモス 百藤 杏  
 お風呂 高樹 紫音  
 鶴と鶉の dialogue 高木 佳子  
 杖のバジャジョン 小寺 俊江  
 チョンチョン 宮沢 さえ  
 前庭にコスモス揺れて みやさかとう子  
 どくだみ ふたたび 稲田加代子  
 小説を書こう 万年青 一  
 砂漠の中の日本庭園 永田 俊也  
 あの日から。 山花 智子  
 急須おんな 多紀 祥子  
 □本科／詩・エッセイ  
 猫 ～自己紹介にかえて～／雨の日に 吉田 稀  
 暑さとの戦い 乃木 幸夫  
 島の深みへの旅 中林 経城  
 六甲高山植物園 六甲山人  
 青い山脈 足立 知子  
 もう、そろそろ・・・ 中林紀美子  
 ダークサイド 利光 康子

■2月(冬)号 本誌 (565)  
 第13回小野十三郎賞受賞作品+受賞者インタビュー+座談会  
 受賞作品 谷元益男『水源地』(抄)  
 インタビュー 直接的な力は何処に存在するのか 【受賞者】谷元益男 【聞き手】中塚鞠子  
 最終候補詩集(抄) 新井啓子『遡上』／永島卓『水に囲まれたまちへの反歌』／なんどう照子『夜の洪水』／広瀬弓『水を撒くティール』／吉田義昭『海の透視図』  
 座談会 今、詩に求めるもの、求められるもの——第13回小野十三郎賞選考のなかから 金時鐘／倉橋健一／小池昌代／坪内稔典  
 受賞挨拶 第13回小野十三郎賞受賞者挨拶

詩+近況  
 みち 長谷川龍生  
 月の帆 川上明日夫  
 コスモス 木澤豊  
 フィクション 真銅孝  
 幾何学のように 高田文月  
 ボウズメクリ 富上芳秀  
 使命 中塚鞠子  
 建国 苗村吉昭  
 ヘヴンヘヴン 菱木紅  
 蠅 細見和之  
 ひとつの思い 松本衆司  
 豌豆は鳥に喰われてしまう ほか たなかよしゆき  
 口ずさむ真綿色したシクラメン 山田兼士

小説 桜樹の下で 芦原瑞祥

書評  
 平野一郎文集『古えんぴつ記者遍歴(全五冊)』 日野範之  
 小池昌代短編集『黒蜜』 山田兼士  
 富上芳秀詩集『祝福の城』 北原千代

秀作の樹・個性の花  
 エッセイ  
 怪談 永井英美  
 自分史  
 水上の家族  
 澤文子  
 小説  
 メヌエット 森上晶  
 滝 稲村武久

小説同人誌評 39 後味は如何(いか)に 佐々木国広  
 詩時評 8 物語に託すもの 中塚鞠子

■3月号 通信教育部作品集 (566)  
 □研究科／小説2組  
 逆捨て 大沢 綾子  
 □研究科／小説1組  
 メメント・モリ 田中 信子  
 □専科、研究科／小説  
 くるみちゃんのお話 竹内 咲  
 □専科／小説  
 ユリア 朝比奈 昭 ●データあり  
 □本科／小説1組  
 二人の関係 横柿 奏  
 コウモリ 岡田 牧子  
 □本科／小説2組  
 朝顔 観念原順平  
 歪んだ森 福山 雅美  
 □ライトノベル  
 金梨家のごちそう 野神 有虹  
 死の行方 ハル  
 □小説・ノンフィクション  
 南野章子先生への手紙 八木 宇美  
 バンコク洪水記 小野打敷重  
 お参り百景(十二) 世間という断面 稲田範久  
 □エッセイ・ノンフィクション1組  
 イギリス人気質 今井 清博  
 戦争成金 小川 宏之  
 告げ口歌は歌わない ことのはかのん  
 産業遺跡 森口 順子  
 □エッセイ・ノンフィクション2組  
 地酒 山根 悠謨  
 アラ傘とアラ米と 古川 けい  
 私の贅沢 寺田 ふみ  
 迷子 ヒデミ  
 沖縄日記・絵手紙カレンダー 藤川 久子  
 □専科、研究科／詩・エッセイ2組  
 月蝕は見えない 石垣早知子  
 私のぶよぶよ 北山 あき  
 授業 坂本 圭  
 へんたい 藤岡 康司  
 なのはな 河野 純子  
 大天使アズラエル にしもとめぐみ  
 深夜の足音 加納 由将  
 坊守の四季「感謝即報恩」 尼子かずみ  
 フルーツ 木村 慶治  
 置き忘れた心 中村 孝子  
 □専科、研究科／詩・エッセイ1組  
 寒ざくら 森 美樹  
 もぎたて五十肩 大野 直子  
 家 なんどう照子  
 花の香り いちのせまりえ  
 「春」という名のクスリ 栗林美江子  
 その日 佐々木節子  
 手 山中 侑子  
 ピエロ女の友人 拓也へ Y u u k o  
 反社会的… 宮城 ま咲  
 写真 藤井千恵子  
 「そこに山があるから」 山口 春樹  
 虹を歩く 高嶋 仁八  
 ひとりごと 北村 エリ  
 億万長者になれたなら 早田真由美  
 泣き虫 加川 清一  
 夜明け前 真木くるみ  
 ベーすぼーる 鶴岡 礎  
 走馬灯 濱野聡一郎  
 □本科、専科／詩・エッセイ  
 交差点 高樹 紫音  
 蜂様のおかげ 宮沢 さえ  
 ひっぱられる みやさかとう子  
 みづの流れに 高木 佳子  
 風邪 堀部 信二  
 大阪が沈む 三木もぢゅう

ほんとうはね 山花 智子  
 電柱記 小寺 俊江  
 誕生日 藤川 舞子  
 グシャリ 百藤 杏  
 寓意 花井 隆二  
 しずかな晝は 多紀 祥子  
 あくがれ 万年青 一  
 七の倍数 稲田加代子  
 仲人 永田 俊也  
 告白 細田 傳造  
 □本科／詩・エッセイ  
 落しもの 吉田 稀  
 露頭 中林 経城  
 時間給六百五十円／温情社長 乃木 幸夫  
 だんじり 六甲山人  
 親愛なる友たちへ 利光 康子  
 人をみる目 佐々木みどり  
 とんでもないこと 中林紀美子  
 レベルの低いこと 青天目起江  
 謝罪 縁 小百合

初冬のころ 宮地浩子  
 エッセイ  
 いろはうた／色は匂えど 藤井千代江  
 ホカ弁屋のない街 鶴川澄弘  
 夜の闇と私と睡眠 野神有虹  
 小説  
 〈一人一作制度により掲載決定〉  
 ミッシング・リンク 内藤万博  
 〈選考会により掲載決定〉  
 シュレーディンガーの地球 木下昌輝  
 Run! 林聡子  
 校長室にて ナガイヒデミ  
 北京 善積健司  
 水木春奈だったころ 手蔦ウレハ  
 編集後記 善積健司  
 表紙のことば 植田陽子  
 裏表紙のことば 西清治

■4月号 入学案内書 (567)

エッセイ 食いしんぼう 佐藤美和  
 在校生の声 高木佳子／山本東明／伊藤敦子／淡路霞／藤島さくら  
 ／上山和音／脇健一郎  
 学生委員会の活動 野神有虹

■5月(春)号 本誌 (568)

文学講演会 文学を愛好することは深く生きること 高村薫

第32回大阪文学学校賞発表

[選評]高島寛／奥野忠昭／長谷川龍生／日高てる／葉山郁生／音谷健郎  
 〈小説部門〉受賞作品「ハーヴェスト」高原ちよみ  
 〈詩部門〉受賞作品「どれだけのどれだけ」高木佳子／【佳作】「野生」胡桃澤伸  
 〈エッセイ・評論・ノンフィクション部門〉受賞作品「若すぎた死者たち——旧真田山陸軍墓地でガイドをする」山本佳子

文校生の創作作品

ライトノベル  
 縄より愛して心にきつい緊縛を 野神有虹  
 ノンフィクション  
 蛍——父の麻酔事故からの日々—— 和田清澄  
 五体不満足は大満足 渡利真

書評

大窪純子『空にも さよなら』 音谷健郎  
 現代詩文庫『日高てる詩集』 細見和之  
 にしもとめぐみ詩集『マリオネットのように雨は』 高谷和幸  
 大野直子詩集『化け野』 山田兼士  
 国吉司図子・川柳句集『守礼の邦うちなー』 日野範之

秀作の樹・個性の花

詩  
 疑問符 森美樹  
 モズの功罪 大野直子  
 町 なんどう照子  
 小説  
 二年前、の朝 小田原大  
 草に覆われた線路 樫原萌葱  
 グッバイ 安西美千代  
 しーらかんす ヒデミ

小説同人誌評 40 名作コンプレックス 佐々木国広

詩時評 9 自分のリズムを作る 中塚鞠子

■6月号 在校生作品集 (569)

詩  
 みずうみ 湖中ちいか  
 雪猿 まつおかずひろ  
 古里 藤井藤子

■7月号 通信教育部作品集 (570)

□研究科／小説1組  
 姉妹 榮 みちこ  
 ランドセルの七夕 桐村緋佐子  
 □研究科／小説2組  
 痣 和泉真矢子  
 □専科／小説1組  
 月の兎 安藤 容子  
 □専科／小説2組  
 吉田家の仇討ち 村田喜代司  
 □本科／小説2組  
 ざりがに 酒本 郁也  
 帰路回想 綾部 雅人  
 □本科／小説1組  
 海を織る ありのみ順  
 ねずみと静電気 西原 A字  
 東京風景 有賀 哲信  
 □ライトノベル  
 寝台列車 平成二十年までに引退した、全ての寝台列車に  
 三上 弥栄  
 □自分史・記録  
 ばあばの食卓 本田 奈緒  
 眼科よもやま話 その二十七～二十九 織田 万里  
 雨上りの虹 山下 とも  
 雪の高校入試 井田 久子  
 カレーライスとライスカレー 関谷 直樹  
 □エッセイ・ノンフィクション2組  
 街を走る ナガイヒデミ  
 あの日の時 古川 けい  
 これからも 里 よし子  
 北杜夫さんを悼む 西 清治  
 「沖縄日記」グッド・タイミング 藤川 久子  
 □エッセイ・ノンフィクション1組  
 黒血症 今井 清博  
 絵つれづれ いさ川ゆふ  
 幼少の頃—その— 小川 宏之  
 昭和二十年の夏 中西 淳子  
 これだからやめられない。 本間 知子  
 □専科、研究科／詩・エッセイ1組  
 纏足になった敦賀半島 阪下ひろ子  
 夜 いちのせまりえ  
 はらから 百藤 杏  
 未完のなぞり絵 宮城 ま咲  
 ボラになる 大野 直子  
 二人 加川 清一  
 なんで私だけ…… 早田真由美  
 植物 なんどう照子  
 介護士 山中 侑子  
 沈黙の42・195 高嶋 仁八  
 身がわり 栗林美江子  
 鳩を踏んだ まつおかずひろ  
 桜木 佐々木節子  
 岸辺 藤井千恵子

思い出のK画伯 宮沢 さえ  
 北の隅 松本 雅亮  
 長生き 鶴岡 礎  
 □専科、研究科／詩・エッセイ2組  
 夜のラジオマン 藤岡 康司  
 話 北山 あき  
 息を吐きながら 加納 由将  
 つぶやき 中村 孝子  
 語られなかった事 木村 慶治  
 □本科、専科／詩・エッセイ  
 おれの夢 堀部 信二  
 ものわすれ 山花 智子  
 落ち葉 高樹 紫音  
 動悸 万年青 一  
 さくら影踏み みやさかとう子  
 化学工場 三木もちゅう  
 年の瀬 花井 隆二  
 せいとの神様 小寺 俊江  
 まんまる だんごむし 山根 悠謳  
 つきのはら 多紀 祥子  
 帰れない 吉田 稀  
 ナガヨのナガチャン 善積 健司  
 パパの〇〇〇を見つめていると 尾ヶ崎 整  
 かつらを飛ばした嫁さん 牧田けい子  
 ささやかな悦楽 永田 俊也  
 星 藤川 舞子  
 □本科／詩・エッセイ  
 女の寄り合い 藤井三千枝  
 坂道 桑田 京子  
 私の生地 乃木 幸夫  
 ゴジラ 岩崎 文子  
 古い 中林紀美子  
 はたちの歯 Y u k o  
 黒部ダム 六甲山人  
 別れ桜 ―アカレザクラ 佐倉じゅん  
 聖餐 中林 経城  
 M・ベックリン作「死の島」のまえで 遠野まほろ

■8月(夏)号 本誌 (571)  
 〈第32回大阪文学学校賞受賞作／エッセイ・評論・ノンフィクション部門〉  
 若すぎた死者たち——旧真田山陸軍墓地でガイドをする—— 山本佳子

学生作品集 戦争と文学

小説  
 鮮血 田中美代子  
 ぼくらの8/15 国方勲  
 詩  
 キャベツである 吉原維子  
 昼下がりのライオン 宮浦久子  
 泥の中 山本彰子  
 薄闇のなかで 大原素子  
 命のバトン 荻野真理子  
 天の声 河上政也  
 ブランコと少年 山林誠一郎  
 西瓜 堀内美希  
 柱時計と甕 かのう  
 歴史 マチ晶  
 お食事が来ました 玲子  
 記憶だけになる家 畑章夫  
 境界線 きむほんじゃ  
 私がいる 藤井藤子  
 眠れぬ夜には 伊藤敦子

書評  
 細見和之『ディアスポラを生きる詩人 金時鐘』 松原新一  
 細見和之・山田兼士『対論——この詩集を読み 2008~2011』 野村喜和夫  
 吉田薫『脱獄たんぼぼ——死ぬほど愛しています』 木澤豊  
 山口春樹『犀の角』 佐久間慶子  
 神盛敬一『衝海町(つくみまち)』 日野範之

秀作の樹・個性の花

詩  
 老葉 万年青一  
 はるののの 多紀祥子  
 小説  
 養豚四十頭 須永和子  
 日常の船 和田清澄  
 くるぶし 塩沢ゆず  
 ビバ編集室 古市貴子  
 水の向こう側の家 吉成共子  
 自分史  
 民の詩(うた) 川部しげとみ

小説同人誌評 41 機械化の陥穽 佐々木国広  
 詩時評 10 生命と向き合う 中塚鞠子

■9月号 通信教育部作品集 (572)

□研究科／小説2組  
 タクシー 竹内 進  
 □研究科／小説1組  
 武辺よ然らば 三村 晃  
 □専科／小説2組  
 満月 田中 あお  
 □専科／小説1組  
 ウォールデン 山口 春樹  
 □本科／小説1組  
 途中下車 有賀 哲信  
 真夏の夜の怪 水井 吉(←土に口)郎  
 □本科／小説2組  
 夢のような、自分を見つけた旅 あすなる  
 仁子の恋 北 みちこ  
 □ライトノベル  
 就活 another 阪口 亮  
 □自分史・記録  
 「緑衣の女」の発見——『沈黙のしづく』画家・横手貞美の生涯 その後(二) 尼子かずみ  
 私の引っ越し人生 小野打数重  
 べんべん草 第七章 戦後の中学校事情 草野 亮  
 散りぬべきとき 細川ガラシャ夫人 谷口 京子  
 □エッセイ・ノンフィクション1組  
 父のこだわり きむほんじゃ  
 父に出会う ことのはかのん  
 オークストラの一員として～フェスティバルFUKUSHIMAの三日間 本間 知子  
 縄梯子 大越 チョ  
 □エッセイ・ノンフィクション2組  
 家族というもの 古川 けい  
 遠来の旧友 ナガイヒデミ  
 遙かなる陸前高田 西 清治  
 明日へ向かって(一) 里 よしこ  
 観風旅行シリーズ(ドイツから始まり、プーターンへ) その(一)外国ってどこ? 澤 美晴  
 □専科、研究科／詩・エッセイ2組  
 経験していないのと言われる 石垣早知子  
 墨で書く 加納 由将  
 リップバルム 木村 慶治  
 麦刈り 中村 孝子  
 □専科、研究科／詩・エッセイ1組  
 顔 加川 清一  
 昨日つづき 阪下ひろ子  
 そうかもしれない いちのせまりえ  
 カボチャを蹴る 大野 直子  
 モノローグ 百藤 杏  
 一枚の写真 佐々木節子  
 私の時間売ります! 早田真由美  
 片足の鳩 なんどう照子  
 父に赤紙 宮沢 さえ  
 お父さん ありがとう 栗林美江子  
 ドン・カルロス まつおかずひろ  
 離陸セヨ 宮城 ま咲  
 二人のAB 高嶋 仁八  
 幼少期、義経ファン 松本 雅亮  
 □本科、専科／詩・エッセイ  
 朝、脱衣カゴ占い 小寺 俊江  
 うおのめ 堀部 信二

ひとりごと	吉田 稀
花咲じい異聞	三木もぢゅう
大往生・3部作	尾ヶ崎 整
蟻地獄の巣の中に	山根 悠謳
草を食む	高樹 紫音
彼岸花の頃	みやさかとう子
お菓子の家の女王	山花 智子
置かれたところで	山中 侑子
おいちゃん	万年青 一
雨が降つてゐる	高木 佳子
徹夜明けの大阪	善積 健司
杉田久女忌	多紀 祥子
ローカル線・ドキュメント	花井 隆二
眠り	永田 俊也
向日性の青春	牧田けい子
あの世の門の前で	藤川 舞子
□本科/詩・エッセイ	
レモンとやかん	乃木 幸夫
母	岩崎 文子
鈴の音	佐倉じゅん
いもり	六甲山人
お気に入り	Y u u k o
奈落の底	藤井三千枝
夜陰礼讃	中林 経城
父の茗荷	遠野まほろ
幸せのけむり	桑田 京子
白い影	佐々木みどり

■10月号 入学案内書 (573)

エッセイ 地名あれこれ 山根悠謳  
 在校生の声 中村文/赤井晋一/岩崎文子/高木佳子/藤島さくら  
 /上山和音/脇健一郎  
 学生委員会の活動 善積健司

■11月(秋)号 本誌 (574)

第14回小野十三郎賞 発表  
 【受賞】詩集・宋敏鎬『真心を差し出されてその包装を開いてゆく処』  
 選評・金時鐘/倉橋健一/小池昌代/辻井喬/坪内稔典  
 第14回小野十三郎賞 最終候補一覧『詩集』『詩評論書』

特別講座 言葉をつくる 中沢けい

特集〈書き手が新作を読みあう〉  
 特集にあたって 葉山郁生  
 馳平啓樹「きんのじ」他二編 時代に流れる風を捉える 平野千景  
 上山和音「球体関節人形の涙」について 馳平啓樹  
 神谷真路「王子と僕と」の世界観 上山和音

小説  
 ツンちゃん 青木和  
 虹を吸いこむ日 真弓創  
 巡礼版・雨の時代の道化たち(中) 葉山郁生

書評  
 澤美晴『城(じょう)ノブ物語 一寸(ちよっと)待て、神は愛なり』 日野範之  
 佐伯晋『白い海へ』 高島寛  
 山田兼士詩集『家族の昭和』 北川朱実  
 高木佳子歌集『青雨記』 川上明日夫  
 竹岡一郎句集『蜂の巣マシガン』 文正夫

秀作の樹・個性の花  
 エッセイ  
 私 山上豊  
 私 吉原あやこ  
 山までは見ず 石塚明子  
 小説  
 あやかしの森 奥田寿子  
 学生時代、あるいはバスタとスパゲティの問題 岩田志穂  
 王子は水と歩む 阪口亮  
 馥郁 高原あふち  
 象大名 内藤万博

小説同人誌評 42 レトルトの宝珠 佐々木国広  
 詩時評 11 時代より半歩先を歩む 中塚鞠子

■12月号 在校生作品特集号 (575)

詩  
 シール 堀内美希  
 冬のけやき 渡利真  
 痕 宮地浩子

エッセイ  
 白桃 奥畑信子  
 天敵 大川真  
 賭愚神礼讃 江羅進

小説  
 〈一人一作制度により掲載決定〉  
 カバが泣いた日 古井らじか  
 〈選考会により掲載決定〉  
 あめふらし 岡田智樹  
 M町少年合唱隊 福田純二  
 天六ブルース 竹本陽子

編集後記 善積健司  
 表紙のことば 鈴木カンナ

【2013年】

■1月号 通信教育部作品集 (576)

□研究科/小説1組		亀井真知子
ふたたびの春		
□研究科/小説2組		住田真理子
塚森への道		
□専科/小説1組		稲葉 ゆい
ばか		
□専科/小説2組		淵野 千穂
オータムオータムウインター		
ある文章教室にかよう石井さんの一日		高村みい子
□本科/小説2組		
聖遺物	早高 叶	
匂い		西田恵理子
□本科/小説1組		
谷山君のこと		桃山 厚志
花束を抱きしめるように		知念 真弓
□ライトノベル		
花咲き花散るコロシウム		山岡 優作
□自分史・記録		
茜色の空〜マルの物語〜		本田 奈緒
朝の光の中で		織田 万里
夜の学生時代		井田 久子
職人の腕	山下 とも	
反骨の人 関谷記	関谷 直樹	
自己紹介	新田 和子	
□エッセイ・ノンフィクション2組		
母のホーロー鍋	中村 智子	
台本を書いてみよう ナガイヒデミ		
これからの道		川勝れい子
ノーベル賞のニュースを聞いて		西 清治
沖縄日記・与那原大綱曳き		藤川 久子
ミス・フローレンス・ウエルス		佐藤 節子
□エッセイ・ノンフィクション1組		
遙かなるペン大	今井 清博	
赤いさざんか		大森 裕子
奇妙な体験		小川 宏之
わが母の記(2)	国方 勲	
□専科、研究科/詩・エッセイ		
しなう	大野 直子	
ゆくえ	なんどう照子	
準備		いちのせまりえ
しょっぱい		百藤 杏
百二十センチのパー	宮沢 さえ	
わたしの父と母	高樹 紫音	
代わりの涙		佐々木節子

でも 朝比奈 昭  
選択通信設定 宮城 ま咲  
呪縛 高嶋 仁八  
交換 加納 由将  
つわる 渡利 真  
箱の中 美月 麻希  
今 を重ねて 阪下ひろ子  
おもらしヒーロー 早田真由美  
告知 加川 清一  
頼りない日日 北山 あき  
ある切手収集家の悲劇 松本 雅亮  
もうろうとり まつおかずひろ

□本科、専科/詩・エッセイ

犬を見ていると 吉田 稀  
第二の人生 中村 孝子  
夏のトマト 花井 隆二  
海よ 山中 侑子  
ジュンちゃんの水筒 小寺 俊江  
赤い橋 三木もちゅう  
初秋のまるうど みやさかとう子  
草臥れて 万年青 一  
バスケットシューズ 永田 俊也  
空手 藤川 舞子  
僕が泣いてる 尾ヶ崎 整  
ザリガニ 山根 悠謳  
初秋の憂鬱 ことのはかのん

□本科/詩・エッセイ

私と仕事 乃木 幸夫  
再会 中林 経城  
うさぎのダンス 藤井三千枝  
夜の翼 Y u u k o  
電車 岩崎 文子  
緑の人 植木 大雅  
濁音 諏訪喜栄子  
雀の舌 鈴木 誠  
ひじきの向こうに 遠野まほろ  
高文さん 松村 眞澄  
夕餉 桑田 京子

■2月(春)号 本誌 (577)

第14回小野十三郎賞受賞作品+受賞者インタビュー+記念座談会  
受賞作品 宋敏鎬『真心を差し出されてその包装を開いてゆく処』(抄)  
インタビュー 心と心臓のリアリズム詩【受賞者】宋敏鎬【聞き手】  
山田兼士  
最終候補詩集(抄) 大野直子『化け野』/北原千代『繭の家』/新  
城兵一『死生の海』/高橋富美子『子盗り』/田村雅之『水馬』  
記念座談会 今、小説と詩——世代と性を越えて 小池昌代  
/金時鐘/倉橋健一 進行 細見和之/山田兼士  
受賞挨拶 第14回小野十三郎賞受賞者挨拶

詩+近況

スクランブル交差点は青だった 金時鐘  
閑の声 川上明日夫  
海の腕が 木澤豊  
箱入り 高田文月  
お袋さまと迷う たなかよしゆき  
家畜列車 富上芳秀  
とおりゃんせとおりゃんせ 中塚鞠子  
感謝 苗村吉昭  
四月 細見和之  
秋、ひととき 松本衆司  
キリン 山田兼士

【追悼 杉山平一さん】

倉橋健一/潤沢純平/高島寛/富上芳秀/中塚鞠子/葉山郁生/細  
見和之/山田兼士

書評

五十嵐節子詩集『吾亦紅』 金時鐘  
イツハク・カツェネルソン/細見和之訳・解説『ワルシャワ・ゲット  
ー詩集』 苗村吉昭  
きむらよしお詩集『犬林(いぬばやし)』 入江田吉仁  
川上明日夫詩集『往還草』 万年青一  
山崎啓治詩集『神様の憂うつ』 山田兼士

澤文字『水上の家族』日野範之 泉りょう『迦陵頻のように』  
森口透

秀作の樹・個性の花  
詩

遠いお墓 吉田稀  
自分史  
私の高高(たかこう)時代 北條あや  
小説  
北京の階段 北方子  
はるひ 森野康子

小説同人誌評 43 樹を視れば根も想え 佐々木国広  
詩時評 12 面白い詩とは 中塚鞠子

■3月号 通信教育部作品集 (578)

□研究科/小説2組

毛糸だまをほどいて 橋脇 千枝  
旅立ち 南 いつき

□研究科/小説1組

赤い満月 内田 るみ  
バックネット裏にて 水井 吉(●土に口)郎

□専科/小説2組

振り子時計、ネジを回して 花房 丈次

□専科/小説1組

17% 梅田 晋輔  
ぞうり ——梨村の人々 その三 ナガイヒデミ

□本科/小説1組

指輪と嵐山 西咲 穂香  
移り気な時 佐藤 定雄  
退屈な仕事 有賀 哲信

□本科/小説2組

冬のほたる座 西田恵理子  
月光コレクション 早高 叶

□ライトノベル

クリスマスだぜ(メリー・クリスマス)、同志たちよ(カンパニエーロ)  
木下望太郎

□自分史・記録

私の生死を分けた三つの危機 小野打数重  
ちびっ子とも(一) 山下 とも  
義母キヨ子の入院 井田 久子  
ダイエットに挑戦 本田 奈緒  
眼科よもやま話 その三十一 織田 万里  
神がかりな努力家 八木沢繁次 関谷 直樹

□エッセイ・ノンフィクション1組

歪んだ形(1) 田中 桜  
わたしがどこからきたのかを問うために 父やもつと昔のいなく  
なった人たちを探すために 大森 裕子  
二風谷(にぶたに) 森口 順子  
エッペンチューブの秘密 今井 清博

□エッセイ・ノンフィクション2組

チャバイディー(サバイディー)、私は二歳 中村 智子  
独断国語辞典 西 清治 編  
彼氏彼女 ナガイヒデミ  
岩盤浴 川勝れい子  
愛宕詣の旅 次郎坊  
病気の人のおはなし 藤堂 真琴  
木の音、水の音 佐藤 節子

□専科、研究科/詩・エッセイ

そのとき いちのせまりえ  
伝説 なんどう照子  
リバーシブル 大野 直子  
河原の湯 佐々木節子  
初めて画集を買った 阪下ひろ子  
ぼっん 渡利 真  
雪だし 高樹 紫音  
ある男の話 加納 由将  
七十五点ちっそく気味 宮城 ま咲  
過去という名の風船 早田真由美  
黄昏どき 加川 清一  
お向いの野口さん 朝比奈 昭  
手紙 百藤 杏  
斬られ役 美月 麻希  
旅酔 高嶋 仁八

生かすも殺すも本しだい 北山 あき  
廃駅 松本 雅亮

□本科、専科/詩・エッセイ

天と地のはざま 中村 孝子  
どっこいしょ、どっこいしょ 三木もぢゅう  
12月は 小寺 俊江  
ある日のつぶやき 山花 智子  
父の助手席 吉田 稀  
柿いろの思い出 みやさかとう子  
蟻地獄 山根 悠謳  
野風 花井 隆二  
トレーシー・ローズ 尾ヶ崎 整  
母逝きて 万年青 一  
つながり 藤川 舞子  
O将で新聞を 永田 俊也

□本科/詩・エッセイ

冬眠 藤井三千枝  
おふとん 植木 大雅  
いつか 遠野まほろ  
関 中林 経城  
青空 岩崎 文子  
酒と女 乃木 幸夫  
冬のはじめに 桑田 京子  
凍土に眠る(引揚げ記念館にて) 諏訪喜栄子  
犬死 鈴木 誠  
井上京子さんへ 松村 眞澄

■4月号 入学案内書(579)

エッセイ 刃物と縄梯子 大越チヨ  
在校生の声 中村智子/河内りゅう/西田恵理子/藤堂真琴/上山  
和音/脇健一郎  
学生委員会の活動 善積健司

■5月(夏)号 本誌(580)

特別講座 どのように調べて小説を書くか 一新島八重を中心に  
福本武久

第33回大阪文学学校賞発表

[選評]高島寛/奥野忠昭/長谷川龍生/中塚鞠子/葉山郁生/音谷  
健郎

●〈小説部門〉受賞作品…「鮮血」田中美代子

●〈詩部門〉受賞作品…「シール」堀内美希

【佳作】「波の背の背にゆられて父還る」宮地浩子

【奨励賞】「行き先」畑章夫

●〈エッセイ・評論・ノンフィクション部門〉受賞作品…「五体不満足は大満足」渡利真

特集【短編小説・恋愛】

山ごもり 樫原もえぎ  
みれんの徒 中丸惣太  
とりどりの響き 洲野千穂

書評

近藤圭一 岩津航 西岡亜紀 山田兼士編『福永武彦を語る  
20092012』 佐久間慶子  
稲田範久『お参り百景』 日野範之

秀作の樹・個性の花

詩  
牙 いちのせまりえ  
鬼さんこちらあの子をあげる 早田真由美  
電子レンジ 大野直子  
陰暦のだいこん 花井隆二  
エッセイ  
春の夢 ことのはかのん  
小説  
夏の泡 一未必の故意一 森かつら  
お盆帰省 藤田友房  
たべつくされるまえに 大梅健太郎

小説同人誌評44 獨創性を 佐々木国広  
詩時評1 書き残すということ 苗村吉昭

■6月号 在校生作品特集号(581)

詩  
ため息 寺井仁美  
娘 奥田寿子  
誕生日に 吉田稀

エッセイ  
賞味期限 山本彰子  
シロの話 木下昌輝

小説

〈一人一作制度により掲載決定〉  
沖に向かって 吉成共子  
〈選考会により掲載決定〉  
砂漠のコヨーテ 中村智子  
柿木 長瀬春代  
夜の向こう側 橋脇千枝  
人間無骨(にんげんむこつ) 内藤万博

編集後記 畑章夫  
表紙のことば みょうえい

■7月号 通信教育部作品集(582)

□研究科/小説1組

鷲を葬る 中尾 祐紀  
返事はいりません 有道喜代子

□研究科/小説2組

空色のぷにぷに 高原あふち

□専科/小説1組

サリーと共に 野上 史郎

□専科/小説2組

休日に携帯電話で呼び出されるということ 西原 映宇  
聖天行者 有賀 哲信

□本科/小説2組

中之島だより 藤本 文子  
鼓動 河野 睦美

□本科/小説1組

緑の目 木村由里亜  
春の祭典 諸隈 仁美

□ライトノベル

女探偵 朝霧圭『ペット狂ワールド』 牧山 雪華

□自分史・記録

祖母の来た道(一) 西 清治  
母との生活 八木 宇美  
坊守の四季 俳句は他力 尼子かずみ  
みたせ談義(三) お内陣を撮る 稲田 範久  
眼科よもやま話 その三十三~三十四 織田 万里

□エッセイ・ノンフィクション2組

散歩コミュニケーション 澤 美晴  
冬の蓄 中原 節子  
三法まいり 仁和寺 次郎坊  
お祖母ちゃんとかなだらけい 藤堂 真琴  
ホームペーカリーちゃん 竹本 陽子  
私の隠れ家 神沢 順

□エッセイ・ノンフィクション1組

私の自動車事故 始末記 小川 宏之  
求人と面接と私 田中 桜  
駆け落ち 阪下ひろ子  
おひさまと ひなたぼっこ 山名 萌絵  
自然科学は何をしているのか 蕨原 道久

□専科、研究科/詩・エッセイ

出刃包丁 宮城 ま咲  
扉 加川 清一  
図書館にて 高樹 紫音  
紅葉 いちのせまりえ  
まる 早田真由美  
笑い顔 佐々木節子  
夜を待つ 中林 経城  
我が足 加納 由将  
ゆるやかに たおやかに 山根 悠謳  
せんたくもの 朝比奈 昭

□本科、専科/詩・エッセイ

崖 遠野まほろ

春巡る 藤井三千枝  
 ストレートティに向かって 吉田 稀  
 登り道下り坂 高嶋 仁八  
 満開のバス 小寺 俊江  
 夜明の波戸岬 中村 孝子  
 犬を買いに行った 花木 実司  
 朝のお茶 百藤 杏  
 妄想ありんこカフェ 山花 智子  
 芝生パークで 花井 隆二  
 絶対男子 ことのはかのん  
 岬にて 三木もぢゆう  
 本科/詩・エッセイ  
 夏豆 松村 眞澄  
 遺跡発掘 乃木 幸夫  
 山ならし 岩崎 文子  
 とんびII 松永アズサ  
 光の春 レラ  
 私の一日 寺崎佐夜子  
 高い所 植木 大雅  
 もう春なのに Yuuko  
 パルテノン神殿 河合 祥一  
 お盆休み 諏訪喜栄子  
 和泉校舎の夜 猿渡 京子  
 二羽のカラスと二人の作家 またはシドと白昼夢 岩根 拓

■ 8月(秋)号 本誌 (583)  
 特集 [東日本大震災] —あれから二年  
 震災地ルポ  
 石の中にも花が咲く 高島寛  
 他者の悲しみ 佐伯晋  
 小説  
 鯰の背中 森ゆみ子  
 波の果て 田村けい  
 エッセイ  
 「被災者責任」を、十八年後のいまからふたたび考える 高木佳子  
 3・11後のフクシマ 織田万里  
 認知症顛末記 大越チヨ  
 震災と父と 中林経城  
 ほどけた靴ひもと新しい結び目、乾いた本のシミ 余部てつ  
 とこ

学生作品集  
 詩  
 わらぶき ユウコ  
 外は月で明るい 風呂井まゆみ  
 放流する 小林ゆうこ  
 転調・桜 畑章夫  
 微(かす)かなしげき れい子  
 エッセイ  
 詩集『ぼくが ここに』(まど・みちお)を読んで 吉原あや  
 こ  
 おじいさんのランプ 山本彰子  
 心柱(しんぼしら) 中村廣人  
 小浜島へ行きましたが・・・ 吉原維子

書評  
 山下とも『私の昭和誌—満天の星』 日野範之  
 金時鐘 編訳『尹東柱詩集・空と風と星と詩』 音谷健郎

秀作の樹・個性の花  
 詩  
 きょうの料理 堀内美希  
 エッセイ  
 歯跡 永田俊也  
 小説  
 明日まで 須永和子  
 小説同人誌評 45 言霊の森へ 佐々木国広  
 詩時評 2 選ばれるということ 苗村吉昭

■ 9月号 通信教育部作品集 (584)  
 研究科/小説2組

日々更新 南 いつき  
 あまりもの 住田真理子  
 研究科/小説1組  
 赤い水に包まれ彼らは 稲葉 ゆい  
 専科/小説2組  
 影法師 岡田 牧子  
 嵐のあとに 木津川伊吹  
 専科/小説1組  
 時計 梅田 晋輔  
 本科/小説1組  
 白を汚すということ 後田 陽子  
 本科/小説2組  
 無意識の悪意——康子の流産 北 みちこ  
 子どもと踊りたい 内地シゲル  
 恋心 苅田 鳴  
 ライトノベル  
 赤ずきんになりたい 美月 麻希  
 自分史・記録  
 長女との葛藤 八木 宇美  
 ちびっことも(三) いじめ 山下 とも  
 私の子育て(一) 生い立ち/夫の協力 藤川 久子  
 アツツ島守備隊玉砕の真相 追録・陸軍一下士官の日記 小野打数  
 重  
 坊守の四季 法飯 尼子かづみ  
 エッセイ・ノンフィクション1組  
 半島の空を見上げて 阪下ひろ子  
 共有する思いと秘密 田中 桜  
 林中裸像 有本 友美  
 覆水盆に返らず 今井 清博  
 エッセイ・ノンフィクション2組  
 トマト ナガイヒデミ  
 平成の五百羅漢像 中原 節子  
 招きたい訪問者 竹本 陽子  
 喰うて生きるもの 川野 らほ  
 僕らの動物園 神沢 順  
 母の寺子屋 澤 美晴  
 ビパーク 次郎坊  
 専科、研究科/詩・エッセイ  
 広い空の下で 佐々木節子  
 成長 加納 由将  
 みるく 朝比奈 昭  
 こどもの本性 宮城 ま咲  
 感謝 いちのせまりえ  
 弔客 中林 経城  
 世間 加川 清一  
 眼—あるいは診察室で 高樹 紫音  
 スカートめぐり 早田真由美  
 ちんぱんじんの叫び 山根 悠謳  
 本科、専科/詩・エッセイ  
 薩摩揚げ 藤井三千枝  
 空色 百藤 杏  
 布袋腹といふもの 山花 智子  
 遊歩道 中村 孝子  
 男の約束 花木 実司  
 線香花火 高嶋 仁八  
 新緑の中を 電車は 遠野まほろ  
 幸福の鳥2/幸福の鳥3 小寺 俊江  
 風になった—— 花井 隆二  
 キッチンじゃないところで 吉田 稀  
 囲碁 三木もぢゆう  
 横切る出会い ことのはかのん  
 父の日 永田 俊也  
 本科/詩・エッセイ  
 カラスの噂話 松永アズサ  
 みみず乾いて 岩崎 文子  
 虹の買物 松村 眞澄  
 守護使 猿渡 京子  
 自転車と私 黒田 恵子  
 糸玉マイホーム 植木 大雅  
 グーグー パーパー チョッキチョッキ 寺崎佐夜子  
 激突! 乃木 幸夫  
 タイムロード 岩根 拓行  
 手 レラ  
 歩いてみようか Yuuko  
 アクロポリスの丘 河合 祥一

■ 10月号 入学案内書 (585)

エッセイ 母と父 たらゆりね  
在校生の声 住吉剛/辻岡いつか/本田和揮/内地シゲル/高橋淳  
/脇健一郎  
学生委員会の活動 内藤行博

■ 11月号 在校生作品特集号 (586)

詩  
髪の毛 山岡優作  
万華鏡 小林ゆうこ  
市民の良識 宮地浩子  
遺伝子が描くもの れい子

エッセイ  
母の忘れもの 奥畑信子  
ぎんなん・ホットケーキ・ふろふき大根 吉原維子  
異界についての体験を聞く 猿渡京子

小説  
蝶は羽ばたく 岡田智樹  
カクテル 黒住純  
メサイアの娘 稲葉ゆい  
ホームラン 中村文  
ヤスとシン 森かつら  
春の夜に降る雨は 早高叶

表紙のことば MIRO/猫鳥庵  
編集後記 高橋淳

■ 12月(冬)号 本誌 (587)

第15回小野十三郎賞発表  
【受賞】詩集・与那覇幹夫『ワイドー沖縄』  
選評・金時鐘/倉橋健一/小池昌代/坪内稔典  
第15回小野十三郎賞最終候補一覧『詩集』『詩評論書』

【辻井喬特集】

エッセイ  
辻井喬特集を編集するにあたって 長谷川龍生/葉山郁生  
未踏の領域——辻井喬おぼえ書き 倉橋健一  
作品論《詩》  
尾長鳥の行方を追いながら 小池昌代  
辻井喬初期詩集について 高田文月  
自らが信じる現実を歩き続ける 松本衆司  
『わたつみ 三部作』をめぐって 細見和之  
辻井喬『自伝詩のためのエスキース』について 山田兼士  
作品論《小説》  
想起と滅び『彷徨の季節の中で』・『終わりからの旅』 馳平啓樹  
濃密で、こまやかな恋愛小説——辻井喬『虹の岬』 高島寛  
解き明かす試み——『終りなき祝祭』 芦原瑞祥  
生れてしまった事実への挑戦——辻井喬『父の肖像』 中塚鞠子  
『風の生涯』の見果てぬ陰翳 真銅孝

神話と現代史、『沈める城』の多元的世界 葉山郁生  
辻井喬 著書一覧

小説  
旅 真銅孝

書評  
山田兼士の三つの最新刊にふれて 細見和之  
小池栄子詩集『私を映す空』 山田兼士  
北村邦彦『掌篇小説生きる』 日野範之  
森口透『イービス艦がやって来る』 泉りょう  
たかぎたかよし『うつし世を藤る』 古賀大助

秀作の樹・個性の花  
詩  
シャワーを浴びる れい子  
ノンフィクション

補陀洛渡海そしてN氏との出会い 葛原道久  
小説  
部屋 井山卓  
風景 榮みちこ  
琥珀 西田恵理子  
ぺんぺん草 北村邦彦

小説同人誌評1 事実と虚構の境 細見和之  
詩時評3 魅せるということ 苗村吉昭

【2014年】

■ 1月号 通信教育部作品集 (588)

□研究科/小説1組  
出奔 水井 吉(●土に口)郎  
□研究科/小説2組  
今日のような降り方をする雨について 古井らじか  
□専科/小説1組  
クスノキの香 牧山 雪華  
□専科/小説2組  
竹くんと梅さんと松じいさんと 藤堂 真琴  
釜石の浦島さん 有賀 哲信  
□本科/小説2組  
とうちゃん 三上 公順  
家族新聞 山田 佳苗  
□本科/小説1組  
ぶらんマルシェ 木村由里亜  
紅い花 後田 陽子  
湖光の夜 有佳 西湖  
□ライトノベル  
歓喜の後で…… 山岡 優作  
祭り町の主 セテウンタ  
□自分史・記録  
指紋の話 西 清治  
マツエさん 織田 万里  
坊守の四季 この慈悲始終なし 尼子かずみ  
働くのが青春——美容院の先生と 山下 とも  
関谷蔵太と、その孫たち 関谷 直樹  
□エッセイ・ノンフィクション2組  
お父さん、家に帰ろう 伊藤 敦子  
穂高山行 次郎 坊 竹本 陽子  
幽霊  
スタートライン ナガイヒデミ  
美山日記 谷口みゆき  
小さな眼差し 果てしなき宙 川野 らほ  
□エッセイ・ノンフィクション1組  
あんによん! 群山(1) ぼんちよんじゃ  
てうしにかわらけとりそろえてもて 有本 友美  
炎 中原 節子  
ろくべいちゃんが走る 山名 萌絵  
□専科、研究科/詩・エッセイ  
8時20分 宮城 ま咲  
秘めやかな過程 中林 経城  
あの日の いちのせまりえ  
おしゃまさん 朝比奈 昭  
空蟬 山根 悠謳  
古いじゃがいもの演奏会 早田真由美  
パニック 加納 由将  
幼子 加川 清一  
六畳間のカフェ 佐々木節子  
幼いぎんなん 高樹 紫音  
いつからか 吉田 稀  
□本科、専科/詩・エッセイ  
舞茸 松村 眞澄  
金魚 藤井三千枝  
声なき声 中村 孝子  
人ころがし 三木もぢゅう  
新盆 遠野まほろ  
ステキな口ぐせ 小寺 俊江  
分岐点 高嶋 仁八  
ふたつの遺言 花木 実司  
乾いたご飯粒 ことのはかのん  
投げる 永田 俊也



雨降って地固まる 山花 智子  
迷路 百藤 杏  
□本科/詩・エッセイ  
解析概論 乃木 幸夫  
夜来香 岩崎 文子  
2013 N o b e y a m a 岩根 拓行  
夜の波波 蒲田 のま  
煙管(きせる) 鬼川 起実  
雲を吐く 美津島チタル  
彼と私 寺崎佐夜子  
たくましきもの 黒田 恵子  
アラカブ 松永アズサ  
インフルエンザ レラ  
香港 河合 祥一

■2月(春)号 本誌 (589)  
第15回小野十三郎賞受賞作品+受賞者インタビュー+記念座談会  
受賞作品 与那覇幹夫『ワイドー沖縄』(抄)  
インタビュー【受賞者】与那覇幹夫【聞き手】葉山郁生/中塚鞠子  
最終候補詩集(抄) 細田傳造『ぴーたーらびっと』/柳内やすこ『夢  
宇宙論』/川島完『森のガスパー』/斎藤紘二『挽歌、海に流れて』  
/柴田千晶『生家へ』  
記念座談会 現代詩のゆくえ小野賞を受賞して 瀧克則/  
苗村吉昭/小池昌代/三井喬子/(進行役)細見和之

特集 小野十三郎賞の詩人たち  
光の舟 瀧克則  
敵対論(丘の風景) 高橋秀明  
日毒 八重洋一郎  
かきわけの 甲田四郎  
共同便所 苗村吉昭  
葛 渋谷卓男  
(脱糞) 添田馨  
電車がいる風景 たかとう匡子  
ひろしまの空は 長津功三良  
さかのぼる馬の首 小池昌代  
家の構造 田中郁子  
体とからだ 岡島弘子  
育ち 山口春樹  
顔が無い 三井喬子  
向こうの空 谷元益男  
歩行 宋敏鎬  
小野十三郎賞歴代受賞者一覧

詩+近況  
汀 川上明日夫  
花の写真、ほか一篇 高田文月  
金剛山、畑時間 たなかよしゆき  
イカサマの人生 富上芳秀  
クローバーな生活 中塚鞠子  
秘密 細見和之  
ミケランジェロの迷い 松本衆司  
カメラの速度とは 山田兼士

書評  
苗村吉昭詩集『半珈思惟』 音谷健郎  
乃木幸夫詩集『パッチワーク人生』 富上芳秀  
林美佐子詩集『鹿ヶ谷かぼちゃ』 山田兼士  
坂本圭詩集『うつくしい夢』 北原千代  
瀬戸あかり詩集『余命宣告』 松本衆司  
細見和之詩集『闇風呂』 高田文月  
本多稲子『父の手』 山本二郎  
渡利真著『ぼくの宝は足と友』 たなかよしゆき  
楡久子詩集『忙しい主婦の虫干し指令』 河津聖恵

秀作の樹・個性の花  
詩  
ぼちぼち 青田佳子  
アリスはいつも木の下にいる 吉原あやこ  
ラストラン 四辻貴子  
小説  
無花果 三原てつお  
皇帝のうす羽 竹内都  
ある晴れた日に 中尾祐記

お下げ髪の小夜 石井渉

小説同人誌評2 方法意識の必要性 細見和之  
詩時評4 詩を贈るとのこと 苗村吉昭

■3月号 通信教育部作品集 (590)  
□研究科/小説2組  
記憶の舟に乗る モモダアイ  
□研究科/小説1組  
インバラ・ブルー 村田喜代司  
□専科/小説2組  
時間 井山 卓  
愛しのおかあさまへ 木津川伊吹  
□専科/小説1組  
般若 西田恵理子  
□本科/小説1組  
てれてれ 猫 鳥 庵  
モリオの未来 高田 杏子  
□本科/小説2組  
君と春の一週間 苅田 鳴  
□ライトノベル  
オスカルが軍服を脱いでそして…… 山岡 優作  
□自分史・記録  
この夏の一人旅 八木 宇美  
『福田さん』で誰だ? 伊吹かりん  
間瀬山のぜんまいとり 織田 万里  
ある精神病患者に関する報告 西 清治  
関谷家三代 関谷 直樹  
世の中の移り変わり 山下 とも  
□エッセイ・ノンフィクション1組  
明治生まれ 中原 節子  
家族葬の席 阪下ひろ子  
紫雲立ち昇るところ 有本 友美  
ろくべいちゃんが笑う 山名 萌絵  
□エッセイ・ノンフィクション2組  
救世主 伊藤 敦子  
美味しい幸せ 竹本 陽子  
美山日記 ふしぐろせんとう 谷口みゆき  
赤いトレール 次 郎 坊  
喫茶店 ナガイヒデミ  
おでんしゃに乾杯 神沢 順  
わが音楽よさようならの記 川野 らほ  
□専科、研究科/詩・エッセイ  
中秋の頃 朝比奈 昭  
落し文 山根 悠謳  
けいこちゃん/幸福な男 いちのせまりえ  
娘と再会 佐々木節子  
事件 高樹 紫音  
ハズレを引き当てる 宮城 ま咲  
赤い糸糸玉 早田真由美  
この体 加納 由将  
母との計画 吉田 稀  
エピローグ 加川 清一  
あじさいの季節 ドアノブ子  
世界外存在 中林 経城  
□本科、専科/詩・エッセイ  
どんど焼き 藤井三千枝  
最後の晚餐 松村 眞澄  
樹 遠野まほろ  
自然保護 中村 孝子  
待つということ 百藤 杏  
還暦 花木 実司  
父さんが笑ってみえた 小寺 俊江  
蝮 高嶋 仁八  
ブスの花道 山花 智子  
禿頭談 三木もちゅう  
モクレンの恋 ことのはかのん  
“Je vous aime, Marie!” 永田 俊也  
□本科/詩・エッセイ  
神鉄粟生線体育の日 蒲田 のま  
夕暮れ 岩崎 文子  
まあ なんとか なんとか 乃木 幸夫  
時の飴 美津島チタル  
寒菊 星田加寿子

はらったものは 松永アズサ  
種はまっすぐ 鬼川 起実  
愛犬 寺崎佐夜子  
南国でわしも考えた 岩根 拓行  
月が二つ 黒田 恵子  
叫び レ ラ

■ 4月号 入学案内書 (591)

エッセイ 幽霊 竹本陽子

在校生の声 秦美也子／伊藤英俊／吉田則子／藤原雪生／高井日苗

／セテウタ／脇健一郎

学生委員会の活動 内藤行博